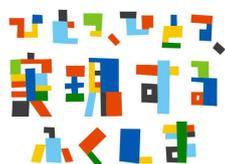

令和6年度

福島県教職員特選研究論文集



福島県教育委員会

目 次

はじめに

令和6年度福島県教職員研究論文入賞者一覧 2

特選研究論文

○ 学習指導
主体的に学び続ける子どもの育成
－ 3つの対話による対話的な学びの充実を通して－ 3
三島町立三島小学校 代表 校長 長澤 敏行
三島町立三島中学校 代表 校長 酒井 康雄

○ 学習指導（道徳）
地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成
～家庭、地域と共につくる道徳教育を目指して～ 23
福島市立飯野小学校 代表 校長 佐藤 育男

○ 学習指導（道徳）
「対話的な学び」のある道徳科の授業実践
～「発問」と「問い返し」を授業づくりの主軸として～ 43
いわき市立中央台東小学校 教諭 久保木 壮平

○ 生徒指導
すだちプロジェクト「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化
～教頭としてできること～ 63
郡山市立桜小学校 教頭 鈴木 雅博

審査の観点及び審査総評 83

令和6年度福島県教職員研究論文応募状況 84

令和6年度福島県教職員研究論文応募者一覧 85

おわりに

はじめに

本研究論文の募集は、教職員の自主的な研究を奨励するとともに、効果的な実践や先進的な取組を研究論文としてまとめることを通して研修意欲や専門性を高めるなど、教職員個々の資質の向上を図ることを目的として、昭和46年度から実施しております。平成23年度は東日本大震災及び原発事故により募集を行いませんでしたが、翌年から募集を再開し、本年度で53回を数えました。半世紀以上に及ぶ長い歴史の中で、数多くの教職員がその時代ごとの様々な教育課題に真摯に向き合い、研究成果をまとめてきました。

今年度も県内の教職員から、学校経営、教科指導、生徒指導、特別支援教育など、様々な教科や領域、校種にわたる32点の論文が寄せられました。それぞれの学校や個人の課題、目指す学校像や児童生徒像の実現に向かって、独自の視点や工夫をもち、日々の多忙な業務の中においても熱意をもって追究された努力の証とも言える論文が集まりました。

令和4年度にスタートした第7次福島県総合教育計画では、これからの本県の教育の柱に「学びの変革」を掲げています。これは、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの転換を進める「学びの変革」と、その実現のための環境づくりとしての「学校の在り方の変革」を目指すものです。今回寄せられた論文からは、この「学びの変革」の実現に向けた学校や教職員の不断の取組が見え、大変心強く感じております。

この論文集には、厳正な審査により選ばれた特選の論文を掲載しております。どの論文も各学校の教育課題の解決、教育活動の更なる充実に向けた貴重な道標となるものです。各学校等におかれましては、この知見と研究成果を参考にし、「学びの変革」の実現とともに、学校教育の充実・改善に役立てていただければと思います。

結びとなりますが、応募されました皆様の並々ならぬ努力と熱意に心から敬意を表すとともに、本県教職員の研修意欲や専門性の向上が一層図られ、児童生徒一人一人の健やかな成長と学校の発展につながることを心から期待いたします。

令和7年2月

福島県教育庁義務教育課長 川 井 孝 寿

令和6年度 福島県教職員研究論文 入賞者一覧

【特選】

領域等	個人 団体	学校名	職名・氏名	研究主題
学習指導	団体	三島町立三島小学校 三島町立三島中学校	(代表) 校長 長澤 敏行 校長 酒井 康雄	主体的に学び続ける子どもの育成 ～3つの対話による対話的な学びの充実を通して～
学習指導 (道徳)	団体	福島市立飯野小学校	(代表) 校長 佐藤 育男	地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成 ～家庭、地域と共につくる道徳教育を目指して～
学習指導 (道徳)	個人	いわき市立中央台東小学校	教諭 久保木壮平	「対話的な学び」のある道徳科の授業実践 ～「発問」と「問い返し」を授業づくりの主軸として～
生徒指導	個人	郡山市立桜小学校	教頭 鈴木 雅博	すだちプロジェクト 「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化 ～教頭としてできること～

【入選】

領域等	個人 団体	学校名	職名・氏名	研究主題
学校経営	団体	西郷村立羽太小学校	(代表) 校長 大倉 幸子	学校の力で地域を元気に ～地域とつながる単元の実践を通して～
学習指導 (国語)	個人	昭和村立昭和小学校	教諭 岩谷 友太	叙述を基に自分の考えを書き、伝え合い、学びの深まりを実感する子どもの育成 ～国語科文学的文章における、よりよい「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を目指して～
学習指導 (総合的な学習の時間)	団体	天栄村立天栄中学校	(代表) 校長 市川 知広	探究的な学びを通して、夢の実現に向かう生徒の育成(2年次) ～『「天栄ならではの教育」を目指して～
学習指導 (総合的な学習の時間)	団体	下郷町立下郷中学校	(代表) 校長 我妻雄比古	つながる学びを通して、主体的に学びに向かう生徒の育成 ～生徒と地域と教師がつながる探究的な学習の工夫～
学習指導 (国語)	個人	福島県立葵高等学校	教諭 村松こずえ	物事の本質を掴む「抽象的思考力」の育成 ～思考ツールによる可視化と、具体と抽象を往還することを通して～
特別支援教育	団体	福島県立郡山支援学校	(代表) 教諭 牧野 圭子	「3つの資質・能力の育成」を目指す学習の基盤となる「言語能力」の育成 ～3か年の取り組み～

【奨励賞】

領域等	個人 団体	学校名	職名・氏名	研究主題
学級経営	個人	矢吹町立三神小学校	教諭 大河原 旭	自己実現を図り、前向きに学習や生活に取り組むことができる児童の育成 ～学習活動と生徒指導の工夫を通して～
放射線教育	個人	相馬市立向陽中学校	主幹教諭 佐藤 拓也	福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育の実践記録 ～中村第一中学校2学年 放射線教育の実践～
特別支援教育	団体	伊達市立保原小学校	(代表) 校長 佐々木 透	友達と関わりながら主体的に活動する子どもの育成(1年次) ～自立活動の指導におけるアセスメントの充実～
特別支援教育	個人	福島県立たむら支援学校	教諭 目黒由美子	日常生活にいきる道徳教育の充実を目指して ～問題解決的な学習による「考えたくなる道徳」「表現したくなる道徳」に向けた授業づくり～

主体的に学び続ける子どもの育成

— 3つの対話による対話的な学びの充実を通して —

三島町立三島小学校 (代表) 校長 長澤 敏行
三島町立三島中学校 (代表) 校長 酒井 康雄

I 研究の構想

1 主題設定の理由

(1) 本町の教育が抱える課題から

三島町では、「知・徳・体」のバランスが取れた子どもの育成のために、それぞれ1校ずつの保育所と小学校と中学校が互いに連携し、学力向上や地域学習などの6つの重点項目を柱にした連携教育に取り組んでいる。令和4年度からは、本町の教育振興基本計画に基づき、年間4回の保・小・中連携授業研究会を開催し、連携教育のさらなる充実を図ってきた。このような一体的な取組の背景には、本町ならではの課題がある。1つ目は、小規模少人数学級のために多様な考えに触れる機会が少ないという点である。少人数のよさを生かし個に応じた支援を充実させるだけでなく、少人数であっても対話的な学びを推進し、表現力やコミュニケーション能力の育成に向けて継続的に取り組んでいく必要がある。2つ目は、町内に高校がないために義務教育修了後は町外へ遠距離通学をすることになるという点である。高校へ進学すると、これまで経験したことのない大人数の中で学習し、長時間の通学を強いられるなどの生活環境の変化に直面することになる。しかし、どのような環境であっても自らの夢や目標に向かって学び続け、自分の人生を豊かにしてほしい。そのため、義務教育段階で主体的に学び続けるための素地を育てていくことが重要となる。

こうした課題の解決に向けて、学校教育の主たる活動である授業に焦点を当て、研究主題の「主体的に学び続ける子どもの育成」を

目指して研究に取り組むこととした。資料1

(2) これまでの研究の経過から

小・中学校で年間2回ずつ計4回の研究授業を効果的なものにするためには、同じ方向性で授業づくりをしていく必要がある。そこで、令和4年度に三島町教育委員会と小・中学校の教頭、研修主任による研究推進委員会を立ち上げ、授業研究会の方針と研究推進のポイントを打ち出し、連携を図ってきた。

研究の方針としては、授業研究を行う教員の授業の善し悪しを論点とするのではなく、子どもの学びに焦点を当て、「子どもがどのように学ぶのか」という子ども理解に基づき、自らの指導観をブラッシュアップすることを目的とした。また、教員の参加意識を高め、主体的に研修に取り組むことができるようにするためには、どのような研修方法が有効かについても併せて研究することとした。

研究推進のポイントとして、福島県教育委員会の「学びの変革推進プラン」の「学びの変革」を踏まえ、一方通行の画一的な授業から、「子どもが中心となる授業」を目指して研究主題に迫ることとした。また、本町の子どもにとって必要であるとする学習の基盤となる資質・能力を、発達の段階に応じて洗い出し、「三島式『対話・発表メソッド』」と名付けて一覧表に整理した。そして、義務教育9年間で系統的かつ教科等横断的に育成に取り組むこととした。資料2

さらに、授業研究会では福島大学の研究者の先生方に継続的に指導助言をいただくことで、理論と実践を往還しながら研究を深めた

いと考えた。令和4年度は、学び合いを重視した授業づくりへの転換に取り組んだ。しかし、何のために学び合うのか、どのようにして学びを深めるのかという点で授業ごとに課題があり、小・中学校で一貫した取組になるような理念の共有と、研究方法の改善が必要であった。

2 研究主題と副主題について

(1) 「主体的に学び続ける子ども」について

本研究では、授業づくりは子どもを主語にし、子どもが主体性を発揮して学ぶことができるようにすることを理念とする。例えば、子どもがもつ「問い」を大切にすることで「話したい」「聴きたい」という思いや願いを引き出したり、子どもに選択を委ねることで「よし、やってみよう」という意思が働くようにしたりして、子どもが「学習は自分たちから始まる」ということを実感できるようにする。

子ども自らが主体的に学ぶ経験を積み重ねるからこそ、未知の状況においても主体的に対象や他者に働きかけることができるようになり、未来社会を切り拓く資質・能力を身に付けることができるものと考えます。

(2) 「主体的に学び続ける子どもの育成」のために大切にしたいこと

ア 子どもが中心となる授業の創造

- ・ 子ども自身が学び、つながり、深める授業を目指していく。(教師の視点)
- ・ 子どもがまなざしを共有し、教材と深く対話し、教科の世界に没入していく学びを目指していく。(子どもの視点)

イ 子どもが中心となる授業を支える教師の役割

- ・ 子どもを見取る。
- ・ 子どもの声を聴く。
- ・ 子どもをつなぐ。
- ・ 子どもを待つ。
- ・ 子どもに任せる。

(3) 「3つの対話による対話的な学びの充実」について

資料3～資料5

本研究では、子どもが中心となる授業をつくるために、「テキストとの対話」「他者との対話」「自己との対話」の3つの対話で学習を捉え、授業では3つの対話の場面を意図的に位置付ける。また、3つの場面ごとに期待する子どもの姿を明確にし、研究の視点とするとともに、手立てを講じて対話的な学びの充実を図ることができるようにする(表1)。

3つの対話	学習活動	期待する子どもの姿	研究の視点
テキストとの対話	「自力解決」(個人思考)	「考えてみたい」という思いや「どうしてだろう?」と問いを見出している。「何を使えば解決できるだろう?」と既習事項を基に考えている。「このやり方だとうだろう?」と解決へ向けて試行錯誤している。	視点1
他者との対話	「学び合い」(集団思考)	「どこからそう考えたのか」「ここは同じ」「ここは違う」と根拠や共通点、差異点を明らかにしようとしている。	視点2
自己との対話	「振り返り」(個人思考)	「わかったことは何か」「できるようになったことは何か」を考えている。 低学年「がんばったこと」「楽しかったこと」 中学年「疑問に思ったこと」 高学年「さらに追究してみたいこと」「試してみたいこと」	視点3

表1 3つの対話による対話的な学びの充実を図るための関連図

3 研究仮説

小・中学校が連携し、「子ども自身が学び、つながり、深める」という「子どもが中心となる授業」の理念を共有して授業づくりを行い、「テキストとの対話」「他者との対話」「自己との対話」の3つの対話による対話的な学びの充実を図ることができれば、未知の状況においても主体的に学び続ける子どもを育成することができるだろう。

4 研究の内容と方法

(1) 3つの対話を促すための手立ての設定

視点1 子どもの主体性を引き出す問いの工夫(テキストとの対話)

- 子どもの思いや願いに基づく問いの設定
- 認知的不均衡な問い(コンフリクト)の設定

◆ 「Aなの?Bなの?どっち?」の形を意識する。

- ・ 解決に必要なのはAか、Bか?
- ・ 筆者の主張は妥当と言えるか?
- ・ 兵十とごんは気持ちに通じ合ったの

か？

- ・ 世界では戦争や紛争が絶えないのに、日本は平和と言ってよいか？

○ ズレを生む問いの設定

◆ 「～なのに、なぜ・・・だろう」の形を意識する。

- ・ 馬は草食動物なのに、なぜ筋肉質なのだろうか？
- ・ 民間放送は無料なのに、なぜNHKは受信料を支払わなければいけないのだろうか？
- ・ キャベツは他の県では春に出荷が多いのに、なぜ群馬県では夏と秋に出荷が多いのだろうか？

○ 選択型の問いの設定

◆ 「あなたの考えはA、B、Cのどれか？」の形を意識する。

- ・ 詩の題名にぴったりなのはA、B、Cのどれか？
- ・ より多くの人に伝えるには、A、B、Cのどの方法がよいか？

○ 教材との出合わせ方の工夫

視点2 自分の思いや考えを伝え合う学び合いの工夫（他者との対話）

○ 子どもをつなぐコーディネート工夫

◆ 「同じ（違う）ところはどこ？」焦点化したいところを浮き彫りにする。

◆ 「～さんとどう違うの？」「～さんにながて話ができますか？」と子どもと子どもの理解をつなぐ。

◆ 首をかしげている子に「どうして首をかしげているの？」と身体的な行為を見取ってつなぐ。

◆ 「ちょっと待って。今のはどういうこと？」とつながりをもどし確かめる。

○ 考えを深める問い返しの工夫

◆ 「どこからそう思ったの？」・・・根拠を問う。

◆ 「それってどういうこと？もう少し詳しく教えて」・・・表現の意図を問う。

◆ 「たとえば、どういうこと？」・・・イメージの具体化を図る。

◆ 「つまり、どういうこと？」・・・考えを掘り下げたり、要約させたりする。

◆ 「それって本当？」・・・批判的な思考を促す。

○ 三島式「対話・発表メソッド」を生かした学び合い

○ ICTを活用した考えの可視化・共有化

視点3 学びを深める振り返りの工夫（自己との対話）

○ 発達段階に応じた振り返りの視点の設定

発達段階に応じて、振り返る内容の重点を設定する。低学年は情意面、中学年は学習内容、高学年・中学生は学習方法に視点を当てる。

◆ 低学年の振り返り

- ・ 認知と情意の区別ができない発達段階なので、「気づき」として振り返る。（生活科の指導事項と関連させる。）

【できたこと、がんばったこと、楽しかったこと】

◆ 中学年の振り返り

- ・ 学習内容を振り返り、学習したことの中心をおさえる。（国語科の指導事項と関連させる。）

【できたこと・わかったこと＋おやつ？と思ったこと】

◆ 高学年・中学生の振り返り

- ・ 学習方法（学び方）を振り返り、「自己との対話」を深め、学びを連続させる。

【できたこと・わかったことやその理由＋さらに追究してみたいこと・試してみたいこと】

○ ルーブリックによる資質・能力の共有化と自覚化

資料6

- ・ 育成を目指す資質・能力の基準（レベル）を設定し、その内容を子どもと共有してゴールに向けて学習を調整できるようにする。

- ・ 自己評価する場面を設定することで、子ども自身が身に付けた資質・能力を自覚することができるようにする。

○ 既知から未知への学びの連続性（家庭学習や次時への接続）

(2) 小中連携を促進し、当事者意識を高める授業研究会の実施方法の工夫

ア 小中連携のための ICT 活用方法の開発

まず、小・中学校教職員用の Google Classroom を作成することで、指導案や研究協議の方法などの情報を共有しやすくした。

次に、Google Jamboard を活用して研究協議を行い、話し合いの記録を共有ドライブに累積し、共有化を図った。

さらに、Google Forms を使って授業の振り返りを行い、集約したデータを AI によるテキストマイニングなどで分析し、授業の成果や課題の視覚化を図った（図 1）。

このことにより、学校が隣接していなくても情報が共有しやすくなり、成果と課題を踏まえ、連携して研究に取り組むことができるようにした。

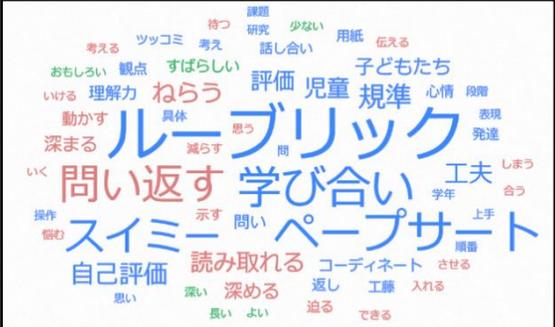


図 1 授業の振り返りのテキストマイニング分析

イ 当事者意識を高める授業研究会の実施方法の工夫

年間 4 回の授業研究会が、授業者だけでなく、参加する小・中学校の教員にとっての授業改善の機会となるように、当事者意識を高める実施方法の工夫を行った。

まず、授業者が、授業研究会前に Google Classroom で研究授業への思いを動画等で発信し、授業を担当しない学校でその内容を踏まえて事前研究会を実施するようにした。

次に、事後研究会での Google Jamboard を使った研究協議では、複数のグループに分かれ、研究の視点ごとに「授業のよかった点」と「協議したい内容」について KJ 法で話し合うようにした。「課題」ではなく「協議したい内容」を付箋紙に書くことで、先生方が自分事と捉え、授業者の批判に偏らないように配慮した。また、協議中に明らかになったポイントは、別色の付箋紙にまとめることで振り返りを共有した（図 2）。

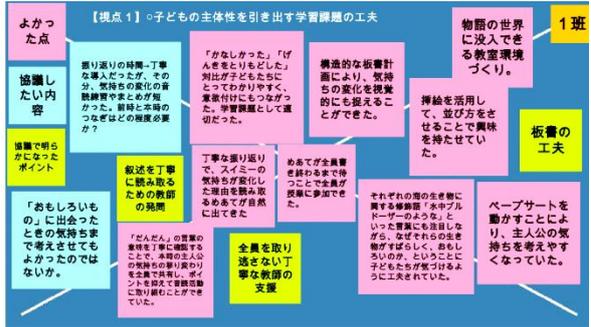


図 2 Google Jamboard を使った研究協議

さらに、事後研究会後に Google Forms を使った振り返りを全員が行い、授業についてだけでなく、「3つの対話による対話的な学びの充実のために、自分の授業に今後取り入れたいと思ったことは何か？」を振り返り、「自分の授業ではどうか？」という自分視点で考えることができるようにした。

そして、福島大学の研究者の先生方からの指導助言を研究推進委員がまとめて、小・中学校の先生方に返すことで、授業改善の視点を明確にできるようにした。年間 4 回の授業研究会では、こうした一連の流れで連続的に研究に取り組むこととした（表 2）。

資料 7

- ① 校内での事前研究会（授業担当校）
- ② 研究推進委員会による事前研究会
- ③ Google Classroom で研究授業のポイント共有し、それを基にした事前研究会（授業を担当しない学校）
- ④ 研究授業
- ⑤ 事後研究会で Google Jamboard による研究協議
- ⑥ Google Forms による振り返り

⑦ 課題の分析と指導事項の整理

⑧ 授業改善の視点の共有化

→ ①に戻り、連続的な研究にする。

表2 授業研究会実施方法の一連の流れ

II 研究の実際

1 小学校第2学年国語科「スイミー」の授業について **実践1** **資料8**

(1) 授業の概要

場面の感想を説明するとき、自由に想像を広げることができるが、叙述に基づいていないことが多いという児童の実態から、教材との出会わせ方を工夫し、ズレを生む間を設定することで、主体的に読み深めることができるようにした。また、読み取ったことを基に友達とペープサートを用いて音読で表現する言語活動を位置付けることで、児童が関わり合いながら、主体的に学び深められるようにした。そして、毎時間「スイミー日記」でスイミーに掛けたい言葉を考えて学習を振り返るとともに、ルーブリック評価で、毎時間ごとに達成度をスイミーの数で振り返ることで、自分の学びを実感できるようにした。

授業では、前時の「さびしかった」場面と「元気をとりもどした」場面の挿絵を比較することによって違いに着目させ、「スイミーはさびしかったのに、どうして元気をとりもどしたのだろう？」という問いに焦点化したことで、スイミーの思いを読み取ろうとする意欲が高まった。そして、問いに対する答えをつぶやく児童に「どこからそう思ったの？線を引いてみましょう」と問い返しをすることで、叙述を基にした読みが進められた。そのため、線を引いたところについて話し合うと、表現の仕方によって海の生き物たちがすばらしいものやおもしろいものになることに気付く様子が見られた。

読み取ったことを基にした友達とのペープサートでは、海の生き物たちの図を黒板の下部から上部へ向けて貼ることにより、スイミーが少しずつ元気を取り戻して、海の底から

上がっていく様子を、スイミーの心情に重ねて想像することができた。そのため、『だんだん元気をとりもどした』と書いてあるから、声の大きさもだんだん大きくすると思う。」という叙述に即した読みをして、音読の声の大きさやペープサートの動きを自分たちで工夫する姿が見られた(図3)。



図3 読み取ったことを発表する子どもの様子

(2) 事後研究会の概要

ア よかった点

- ・ 教師側の効果的な発問や場の設定、問い返し等により、児童の「やってみよう」という意欲を継続させることができた。
- ・ 「どうして?」「どこから?」などの問い返しにより言葉をもとに考え、物語の世界に没入することができた。

イ 協議したい内容

- ・ ルーブリック評価を使った振り返りは我々が研修を重ねていく必要がある。
- ・ 学習環境と発問の大切さを感じた。

ウ 引き継いでいく内容について

福島大学人間発達文化学類の佐藤佐敏教授からの研究授業と「主体的に学び続ける子どもの育成」についての指導助言を基に、今後引き継いでいく内容を設定した。

- ◆ 何を言ってもよい聴き合う関係性を構築する。
- ◆ 意図的に選択や判断を子どもに「委ねる」「任せる」授業を行う。
- ◆ 子ども自身が学ぶ喜びを実感できるようにするために、振り返りの時間を工夫する。(ルーブリックの検討)

- ◆ 学びの連続性を踏まえて、家庭学習との関連（特に自主学習）を積極的に図っていく。

2 中学校第2学年数学科「連立方程式」の授業について **実践2**

(1) 授業の概要

問題の中の数量や数量の関係を式に表すことが苦手な生徒が多く、問題の文章が長くなったり、条件が複雑になったりするとその傾向が強くなるという実態から、数量関係を図や表などに表して解くだけでなく、連立方程式の文章問題を自作することを課題に設定した。問題を作らせることを通して、日常の事象について見通しをもち筋道立てて考えることの大切さを実感できるようにした。また、問題を作る過程において友達と学び合うことで、多様な考えに触れ、互いの考えのよさや工夫に触れられるようにしたいと考えた。そして、前回の授業研究会の振り返りを踏まえ、挑戦的な課題を設定することで、学び合いを「委ねる」「任せる」授業により、生徒の主体性を引き出したいと考えた。

授業では、「個数と代金」「道のりと速さと時間」「割合」といった題材が書かれたカードをグループごとに選択させ、題材に基づいた連立方程式の問題を自作し、模範解答を作成するという課題の設定を行った。多くの生徒がいざ問題を作ろうとすると手が止まり、問題を作ることは生徒にとって手応えのある課題となった。そこで、過去に解いた問題を手掛かりにして問題を作ろうとした方法がきっかけとなり、生徒間での学び合いが始まった。日常生活の世界と数の世界とを行き来しながら、問題の内容と模範解答を巡って、積極的に意見を交換し、考えを深める姿が見られた。教師はできる限り介入を控え、生徒同士がつながりながら学べるように支援した。グループでの学び合いは、次第に関わりが広がって、学級全体での学び合いとなった。授業時間内では課題は解決せず、追究は家庭学習に引き

継がれる形となって終了した（図4）。



図4 グループごとに学び合う生徒の様子

(2) 事後研究会の概要

ア よかった点

- ・ ジャンプの課題（挑戦的な課題）を設定することにより、生徒の学習意欲が高まり、主体的な学びにつなげることができた。
- ・ 一人での自力解決が難しい課題のため、友達と対話する必要性が生まれる。課題の設定や学習形態の工夫などにより、他者との対話が推進された。

イ 協議したい内容

- ・ 本時のめあての「連立方程式のよさ」とは何で検証すればよかったのか。
- ・ 振り返りまで含めた時間配分をどうしたらよかったか。

ウ 引き継いでいく内容について

福島大学人間発達文化学類の坂本篤史准教授からの研究授業と「主体的に学び続ける子どもの育成」についての指導助言を基に、今後引き継いでいく内容を設定した。

- ◆ 見取りと手立てはセットで考える。子どもの学びを見取れるから、適切な手立てを講じることができるということ。
- ◆ 課題自体はつかみやすく、分かりやすい活動がよい。問題を作り、模範解答を作成するということがジャンプの課題（挑戦的な課題）になる。
- ◆ 質の高い学びを実現する授業には、ジャンプの課題への挑戦、聴き合う関係と場づくり、学びを豊かに表現するための

ツール（ICT）が必要である。

- ◆ 授業が終わった後から次の授業の間に自ら学び続ける姿を期待し、働きかけを行う。

3 小学校第4学年算数科「計算のやくそくを調べよう」の授業について **実践3**

(1) 授業の概要

図や式を示しながら、自分の考えを筋道立てて説明することがあまり得意ではない児童が多いという実態から、ICTを活用して、友達の考えた図や式を可視化・共有化し、考えを読み取って説明し合うことにより、思考を深めることができるようにした。また、導入では、あえて教師から複雑な式を提示することにより、「もっと簡単な式に表すことができないか？」という問いに焦点化することで、児童の主体性を引き出すことができるようにした。そして、前回の授業研究会の振り返りを踏まえ、終末で「次に学習したいこと」という視点を含めた振り返りを行い、発展的な問題を家庭学習に位置付けることにより、問いを連続させて学び続ける姿を期待して授業を行った。

授業では、導入で「複雑な式（たし算の長い式）」と「分かりづらい図」を提示したことで「もっと簡単にできそうだな」という児童の思いを引き出し、「どうすれば簡単に求められるのか？」という問いに焦点化することができた。教師は、ICTを活用して問題解決に取り組む児童の考えを見取り、全体で取り上げる際に1人に全部を説明させるのではなく複数人に説明させたことで、学級全体の学び合いが活性化した。また、「この式からどのように考えたのか分かる？」「この図だと式はどうなる？」などと問い返し、式と図を関連させたことで思考が深まった。振り返りでは、「できたこと」「分かったこと」「次に学習してみたいこと」「友達のよかったところ」の4つの視点で振り返らせたことにより、児童は自分の学びを見つめ直すとともに「もっとドットの数が増えた場合はどうな

るのかも考えてみたい。」といった自らの問いを深める振り返りが見られた。さらに、発展的な問題を家庭学習につなげたことで、「今日と同じ方法でできそうだな。」や「他の方法も考えてみよう。」といった学びを連続させようとする児童の姿が見られた（図5）。

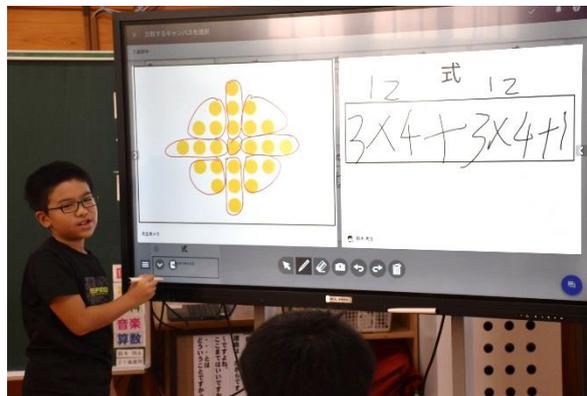


図5 式と図を関連させて発表する児童の様子

(2) 事後研究会の概要

ア よかった点

- ・ ICTを活用し、考えを表現したり共有したりする学習活動がよかった。的確な児童の見取りによる、適切な学習活動と教師の支援が位置付けられていた。
- ・ 教師は児童のつぶやきに耳を傾け、児童が自分たちで学び合いができるようコーディネートしたことで学びを深めた。

イ 協議したい内容

- ・ 少人数であるがゆえに、ペア活動やグループ活動といった小集団活動をどのように取り入れていったらよいか。
- ・ 自分から友達に関わるのが苦手な児童への支援や学び合うための学習形態の工夫について考えていきたい。

ウ 引き継いでいく内容について

福島大学人間発達文化学類の坂本篤史准教授からの研究授業と「3つの対話で授業をデザインする」についての指導助言を基に、今後引き継いでいく内容を設定した。

【自分たちで学べる子を育てる】

- ◆ ジャンプの課題（挑戦的な課題）への挑戦を位置付ける。導入は、子どもが見方・考え方を働かせられるようにできる

だけシンプルにする。

- ◆ 話し合う関係性ではなく、聴き合う関係性をつくっていく。物理的な距離を近づけ、つながりやすい学習形態にする。
- ◆ コーディネートは、「もどし」を意識する。最終的には、子ども同士でつないだり、もどしたりできるようになることを目指していく。
- ◆ ICT は、子どもが学びを豊かに表現するためのツールである。学びの履歴の共有化や学びを「つなぐ」ための道具として活用する。

4 中学校第2学年国語科「モアイは語る－地球の未来」の授業について **実践4**

(1) 授業の概要

説明的文章や論説文は、筆者の意見や主張と根拠の結び付きが分かりにくいという印象をもっている生徒が多いという実態から、筆者の主張を導くための論理展開について筋道が通っているかどうかを考える学習活動を位置付けた。そして、筆者の主張に対する根拠を吟味することを通して、筋道の通った説得力のある文章にするための表現の工夫や論理展開の仕方について考えることができるようにしたいと考えた。

授業では、文章の構成や要旨を踏まえた上で、筆者の主張が筋道の通ったものになっているかどうかについて、根拠を挙げながら自分なりの考えをもつことをねらいとした。そこで、「結論での筆者の主張とそれを支える根拠のつながりは、妥当と言えるだろうか？」という答えのない課題を設定した。まず、筆者が考えるイースター島と地球の共通点について考え、筆者がイースター島の事例を示した理由について主張との関係に着目させた。その上で、筆者の主張とそれを支える根拠のつながりについて考えを交流した。教師から「効果」や「説得力」という視点を提示したことで、生徒たちなりに根拠を考えながら「筆者の主張は説得力があり妥当だ。」や「筆者

の論理には無理があるのではないか。」と学び合う姿が見られた。また、「部分的には妥当と言えないところもある。」と折衷案を示す生徒や、「分かんなくなってきた。」と悩みながら考え続ける生徒が見られ、課題に向き合って学び深めていた。共有アプリを活用したことで、意見を聞くだけでなく全体的に見ることができたため、友達の考えを参考にしながら考えることができた(図6)。



図6 筆者の主張の妥当性を考える生徒の様子

(2) 事後研究会の概要

ア よかった点

- ・ 妥当か妥当ではないかの立場を生徒自身が選ぶことで、生徒が課題にのめり込み、主体的に自分の考えを伝えようとする意欲を引き出すことができた。
- ・ ループリックによる振り返りの積み重ねがあったことで、導入でもスムーズに前時までの振り返りができた。

イ 協議したい内容

- ・ 自分の考えをもつことは当然必要であるが、周りの考えと自分の考えを比較しながら自分の考えを調整していく力を育てていくにはどうしたらよいか。
- ・ 主体性をもたせるには、「難易度の高い問題の提示」が効果的であるが、問いが難しすぎて自分の考えをもてない生徒にはどのような手立てが必要か。

ウ 引き継いでいく内容について

福島大学人間発達文化学類の佐藤佐敏教授からの研究授業と「主体的・対話的で深い学びに向けた授業デザイン」についての指導助言を基に、次年度へ引き継ぐ内容を検討した。

【主体的に学び続ける子どもを育成する授業の理念】

- ◆ 「筆者へのツッコミはないか？」と問うことで、批判的な思考や多面的なものの見方を育む。
 - ◆ 同じ根拠でも理由が違えば読みや解釈が異なる面白さが共有される。「なるほどね。」が生まれる交流を目指す。
 - ◆ 対話的な学びを深めるために、根拠の差異についての交流と、理由の差異についての交流を意図的に行う。
 - ◆ 考えや主張が対立する認知的不均衡な問い（コンフリクト）を設定する。
- ◎ 教師の主要な仕事は学習環境整備である。そこでは、教師は極力「教える」ことをしないが、子どもがしっかりと「学ぶ」ことに責任を負う。教師が前面に立たなくても、子どもが教師や学校を学び越えていく授業を目指していく。

III 成果と課題

1 成果

(1) 三島小学校児童の意識の変容

三島小学校では、7月と12月に実施した学校評価の肯定的評価の結果を比較し、児童の意識の変容について分析した（図7）。

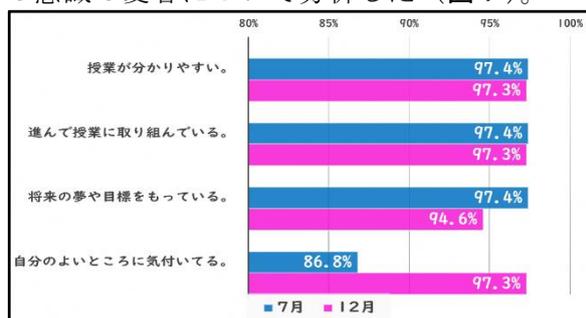


図7 学校評価における児童の意識の変容 (n=38)

授業への取組とキャリア教育に関する項目については、どれも100%に近い高い数値を維持している。母数が少ないために有意性を示すことはできないが、「自分のよいところに気付いている。」項目については、86.8%から97.3%へと10.5ポイントの上昇が見られた。小学校では、高い学習意欲に支えられて対話

的な学びが促進されたことで、友達の学びに貢献し、自己の学びが深まる経験が繰り返され、自己有用感や自己肯定感の育成につながっている可能性がある。ここでは詳細は示さないが、保護者の学校評価では、「進んで授業に取り組んでいる。」項目が、90.4%から100%に向上したことからも、子どもの学びの姿に好意的な変化が起きていると考えることができる。総じて、児童は自分事として学ぶことができるようになってきていると考えられ、主体的に学び続けるための素地の育成につながっているものと考えられる。

(2) 三島中学校生徒の意識の変容

三島中学校では、基礎的・汎用的能力の育成に向けて四半期ごとにキャリア調査を実施している。キャリア調査は、全国学力・学習状況調査やふくしま学力調査の質問紙において、基礎的・汎用的能力に該当すると考える項目を選び実施しているものである。そこで、肯定的な意見を集計して分析した（図8）。

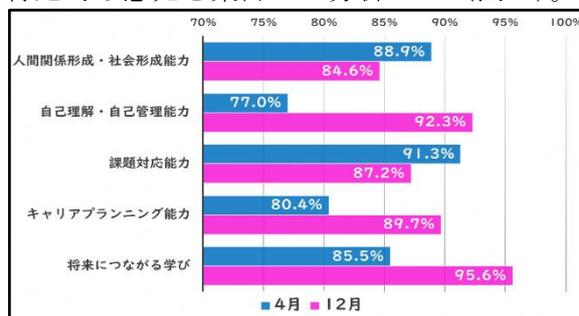


図8 キャリア調査における生徒の意識の変容 (n=14)

4月と12月のキャリア調査の結果を比較すると、人間関係形成・社会形成能力は全国比並みであったが、その他はすべての項目で全国比を上回った。また、年度当初の4月に比べて伸びが大きかったのが、自己理解・自己管理能力と将来につながる学びであった。自己理解・自己管理能力の質問項目には、「自分にはよいところがある。」が含まれており、小学校と同様の傾向が見られた。また、将来につながる学びには、「学習したことは、将来社会に出た時に役に立つと思う。」が含まれ、95.6%の生徒が自分たちの学びには汎用性があると手応えを感じている。自分たちの学び

が将来に役に立つという意識の醸成は、今後も主体的に学び続けるための基盤となる資質・能力であると考えている。また、小学校と中学校で同様に自己有用感や自己肯定感の向上という変容が見られたことは、小中連携で研究を推進し、授業改善に取り組んできたことによる成果であると考えている。

資料 9

(3) 教員の意識の変容

授業研究会後に Google forms で毎回振り返りを行うことで、授業を参観した教員のメタ認知を深める取組を継続した。「自分の授業ではどうか?」「自分は何を学んだのか?」について振り返ることを続ける中で、第4回の授業研究会後に以下のような小学校の教員の振り返りが見られた。

これまでの積み重ねがすごいと思いました。学習が一つ一つ積み重なって、今日の話合いや考えにつながっているのだと思いました。授業の最後の方で、「分かんなくなってきた!」と困りながらも楽しそうな生徒の表情が素敵で、こういう話合いができる国語科の授業をしてみたいし、できるような子どもを育てるために、小学校教諭の自分ができることをしなければならぬのだと感じました。みんなで同じ文章を読んで、いろいろな考えを交流する楽しさを実感することができた授業だと思いました。(小学校教員の振り返りから)

子どもが中心の授業づくりをしていくと、授業者の子ども理解の力量も向上し、子どもの学びの姿が見えるようになってくる。「分からないこと」の知的な楽しさを感じる生徒に、自らもそのような質の高い授業づくりをしたかと思いを新たにしている。また、小中連携の視点で、中学校へ向けて小学校ではどのような授業づくりが必要なのかと、自らの授業を問い直している。このような教員の授業改善への意識の高まりが、研究推進には必要である。今回は、その影響が校内だけでなく、小・中学校の両方に波及した。教員の意識改

革が進んだことが大きな成果であると考えている。

2 課題

(1) 授業づくりの理念の共有と継続

小学校と中学校の位置は隣接しておらず、年度ごとに教職員が変わるために、第4回の授業研究会後に見えてきた子どもが中心となる授業づくりの理念を各校でどのように引き継いでいくかという課題がある。

教師の主要な仕事は学習環境整備である。そこでは、教師は極力「教える」ことをしないが、子どもがしっかりと「学ぶ」ことに責任を負う。教師が前面に立たなくても、子どもが教師や学校を学び越えていく授業を目指していく。(実践4の助言から)

上記のような理念を示すだけでなく、実現するための方法として、これまでの実践事例や教材、振り返りなどの整理や、授業づくりのためのマニュアルなどが必要である。そこで、これまでの研究の成果を整理して、福島県教育委員会作成の「ふくしまの『授業スタンダード』」を基盤とした、三島町ならではの授業スタンダードの作成に取り組みたい。また、カウンセリング・シートを作成し効果的に活用することで、子どもの認知能力と非認知能力を一体的に捉え、変容について分析していきたい。そして、理念に基づく実践が、主体的に学び続ける子どもの育成につながっているのかを、子どもの姿を基にして今後も継続して見取っていく必要がある。

資料 10

(2) 教員の力量を高める事後研究会

研究推進校の研究公開などに参加し、授業実践だけでなく、事後研究会の実施方法等について学び、さらなる教員の力量形成につながる事後研究会の在り方について研究を進めたい。また、研究協議では、実際の子どもの姿を画像で示しながら説明できるとよいという意見があった。その画像を学びの物語としてつなげていくことで、子どもの学びの変容を捉えることができるような研究協議の仕方についても検討していきたい。

資料1

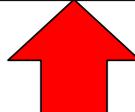
令和6年度 三島町保・小・中きずなプラン 連携構想図

<三島町教育振興基本計画>
◎ふるさとと自分に誇りを
持つひとづくり

ふるさとと自分に誇りをもち、主体的に学び続ける子ども
～「なりたい自分」を思い描き、自律・貢献に向かって歩いていく三島っ子～

<めざす子どもの姿>
・「なりたい自分」を思い描き、自律・貢献に向かっ
て歩いていく三島っ子【参照：保小中連携資質・能力表】

- <三島町の現状と課題>
- 1 少子・高齢化がますます進む傾向
 - 2 少人数の中で社会性や協調性を培う体制づくり
 - 3 未来の三島町を担う「人づくり」の推進



- <その他の課題>
- 1 情報活用能力・情報モラルの育成
 - 2 自己マネジメント力・生活習慣の確立
 - 3 中1ギャップ、小1プロブレムへの対応

<令和6年度 三島町学びのかけ橋プロジェクト>
実践テーマ：保・小・中の連続した学びの構築と保小中連携教育構想の更新

◎保小連携推進

◎小中連携推進

◎保小中連携推進

【保小中連携推進】

◎保所長 ◎小・中校長
◎小・中教頭 ◎各養護教諭
◎各地域連携担当教員 等

- 1 町授業研究会（小2回）〈中2回〉
- 2 地域を活用した学習（地域連携・貢献）と校種間交流
- 3 町教職員夏季研修会（8月）「教育講演会・研修会」
- 4 保健、衛生上の課題解決「生活リズム調べ」
- 5 メディアコントロール「メディアの利用調べ」
- 6 教育支援に必要な情報共有・引き継ぎ
- 7 年間を通じての保小中の情報交換
- 8 連携事業
①運動会 ②資質・能力表の共有 ③名簿共有
- 9 不祥事根絶スローガンの設定

【保小連携推進】

◎保所長 ◎小校長・教頭

- 1 保・小の相互訪問
- 2 園児と児童の交流活動
- 3 園児の小学校体験入学・入学前交流会
- 4 年間を通じての保小の情報交換

<6つの重点>

<重点1>

学力向上

<重点2>

地域学習

<重点3>

未来への夢を育む
心の教育

<重点4>

ICT教育

<重点5>

健康教育と
体力の向上

<重点6>

外国語教育

【小中連携推進】

◎小・中校長
◎小・中教頭

- 1 資質・能力（学力を含む）向上事業
①資質・能力表の共有
②小学校への授業派遣（小5・6年算数）
- 2 地域学習（ふるさと学習）事業
①地域行事への参加 ②伝統行事の継承
- 3 心の教育事業
①次世代の議会への参加 ②キャリア・パスの活用
- 4 ICT活用事業
- 5 体力・健康教育事業
①小学校の陸上指導 ②保小中連携運動会の実施
- 6 外国語教育事業
①小学校への授業派遣（小5・6年英語）
②プリティッシュヒルズ英語体験研修
手引き
「資質・能力を子どもの姿でつなぐ三島町の小・中
連携教育」の活用

資料2

三島式「対話・発表メソッド」

	低学年	中学年	高学年	中学校
話す	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを話す。 ・「～からです」と理由を付けて話す。 ・「まず」「次に」「最後に」など、順序を表す言葉を使って話す。 ○ 相手に聞こえるようにはっきり話す。 ・聞き手の方を見て話す。前の席の児童は後ろを向いて両側の児童は中央を向く。 ・声の大きさや速さを意識して話す。 ・「です」「ます」を使って最後まではっきりと話す。 「……だと思います。」 「……と同じ考えです。」 「はい、そうです。」 「いいえ違います。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考え(中心)を整理して話す。 ・結論を言ってから理由を話す。 「……は、……です。」 「……は、……だと思います。」 「なぜかという、……だからです。」 「理由は、……だからです。」 ・つながりを示す言葉を使って話す。 ○ 相手に分かるように話す。 ・図や表、具体物を示しながら話す。 ・相手に同意を求めながら話す。 「～ですよね、ここまではいいですか。」 ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫して話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 根拠を明確にして、自分の考えを話す。 ・根拠となる事実を基に話す。 ・まとめる言葉を使って話す。 「……と同じ考えです。」 それは、……だからです。」 「つまり、……ということです。」 「まとめると、……という考えになります。」 ○ 相手に意図が伝わるように話す。 ・資料を活用したり、例を示したりしながら話す。 ・相手の考えを引用したり、まとめたりして話す。 「○○さんよりも○○の方が、……の点でよいと思います。」 「○○さんは、……と言いましたが、私は、……だと思います。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 根拠や理由を明確にした論理的な話し方 ○ 他者に配慮した話し方 ○ 聞き取りやすい声量・速さ・声の調子、大事なところを強調したり、間の取り方を工夫した話し方。 ◇ 筋道を意識した適切な接続詞を用いる。 ① ……について、……において ② 最初に、まずは、 ③ 次に、すると、ところが、 ④ したがって、よって、以上で、
聞く	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話を最後まで聞く。 ・話し手を見て聞く。 ○ 賛成の場合には「同じです」、反対の場合には「違う意見です」とはっきり言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えと比べながら聞く。 ・話をうなずきながら聞く。 ・話の腰を折らないように最後まで聞く。 ・相手の言葉を使い、不明な点を聞き返す。 「私は……と思うけど、どうですか。」 「……とはどういうことですか。」 「もう少し……について教えてください。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し手の目的や意図をつかみながら聞く。 ・大事な言葉をメモしながら聞く。 ・要点を捉えながら聞いて、書いたり話したりする。 「なぜそう考えたのですか。」 「どこからそう思ったのですか。」 「まとめると……ということですか。」 「例えば、どんなことがありますか。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実や根拠をメモに取り、話を分析的・批判的に聞いたり、自分の意見や考えを組み立てながら聞いたりする。 ○ 相手が何を言いたいのか、共感し、言外の思いも感じ取るように聞く。 ○ 話の形態や相手との社会的関係に対応し、意図を考えながら聞き、確認すべき情報を整理して質問できる。
形態	○ ペア	○ ペア ○ 3～4人程度のグループ		○ ペア ○ 3～4人のグループ
話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話す、聞く楽しさを感じる。 ○ 安心して話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 司会の仕方を覚える。 ○ 聞く人を意識して話す。 【司会の仕方】 ・司会「では、()について話し合います。」 ・全員「お願いします。」 ・司会「時間は()分です。意見をお願いします。」 ・司会「話し合いをまとめると、()です。みなさん、どうですか。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 質問をする。 ○ 的を射て話す。 【話し合いのポイント】 ○ 全員が意見を言うようにする。 ○ 必ず理由を付けて話す。 ○ 意見を言えない人は「少し考えさせてください」と言う。 ○ 短く、「です」「ます」を使って話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なんのために話し合うのか」を明確にして、「意見を出し合う」 →「比べ合う」 →「決定する(まとめる)」 話を聞いて、吟味し、結論を見出す。

3つの対話	学習活動	期待する子どもの姿	研究の視点
テキストとの対話	「自力解決」 (個人思考)	「考えてみたい」という思いや「どうしてだろう?」と問いを見出している。 「何を使えば解決できるだろう?」と既習事項を基に考えている。 「このやり方だとどうだろう?」と解決へ向けて試行錯誤している。	視点1
他者との対話	「学び合い」 (集団思考)	「どこからそう考えたのか」「ここは同じ」「ここは違う」と根拠や共通点、差異点を明らかにしようとしている。	視点2
自己との対話	「振り返り」 (個人思考)	「わかったことは何か」「できるようになったことは何か」を考えている。 低学年「がんばったこと」 「楽しかったこと」 中学年「疑問に思ったこと」 高学年「さらに追究してみたいこと」 「試してみたいこと」	視点3

【3つの対話を促すための手立て】

視点1 子どもの主体性を引き出す問いの工夫

- 子どもの思いや願いに基づく問いの設定
- 認知的不均衡な問い(コンフリクト)の設定
- ズレを生む問いの設定
- 選択型の問いの設定
- 教材との出合わせ方の工夫

視点2 自分の思いや考えを伝え合う学び合いの工夫

- 子どもをつなぐコーディネート工夫
- 考えを深める問い返しの工夫
- 三島式「対話・発表メソッド」を生かした学び合い
- ICTを活用した考えの可視化・共有化

視点3 学びを深める振り返りの工夫

- 発達段階に応じた振り返りの視点の設定
- ルーブリックによる資質・能力の共有化と自覚化
- 既知から未知への学びの連続性(家庭学習や次時への接続)

3つの対話と子どもの学習活動、期待する子どもの姿、そのための手立てとなる研究の視点の関連を明確にすることで研究を推進した。

資料4

育成を目指す主体的に学ぶ子どもの姿

育成を目指す主体的に学ぶ子どもの姿

学習過程	期待する子どもの姿	評価の方法
自力解決 (テキストとの対話)	・「考えてみたい」「解いてみたい」という思いでやってみようとしている。 ・「どうしてだろう?」「なぜだろう?」と問いを見いだしている。 ・「何をすれば解決できるだろう?」と既習事項を基に考えている。 ・「どんな計画を立てるといいかな?」課題解決への見通しや順序を考えている。 ・「きつとこうだろう?」「このやり方だとどうだろう?」「このやり方ならできはばず」と解決へ向けて試行錯誤している。	発言、ノート、行動、ルーブリックの活用
学び合い (他者との対話)	・「どうやったの?」「どうしてそうなるの?」「分からないから教えて」と解決へ向けて友達の考えを参考にしようとしている。 ・「ここは同じだね」「ここが違うね」と共通点や差異点を明らかにしようとしている。 ・「どこからそう考えたの?」と根拠を明らかにしようとしている。 ・「それってどういうこと?もう少し詳しくわくわく教えて」と表現の意図を明らかにしようとしている。 ・「たとえば、どういうこと?」とイメージの具体化を図ろうとしている。 ・「つまり、こういうこと?」「まとめると、こういうこと?」と考えを整理しようとしている。 ・「それって本当?」「いつでもそうかな?」と批判的に考えている。	発言、ノート、行動、振り返りシート、自己評価、ルーブリックの活用、成果物
振り返り (自己との対話)	・「分かったことは何か」「できるようにになったことは何か」を考えている。 ・低学年は「がんばったこと」「楽しかったこと」を考えている。 ・中学年は「あれっ?と思ったこと」「疑問に思ったこと」を考えている。 ・高学年、中学生は「さらに追究してみたいこと」「試してみたいこと」など新たな課題を見いだしている。 ・「図で表して考えたり、友達の考えを参考にしたりすると問題が解けた」と学習方法について振り返っている。 ・学習内容とつなげて、自己の変容を自覚している。	発言、ノート、行動、成果物
全体	・ 自らの学習を調整して、粘り強く取り組んでいる。 ・ 学習したことを自分の生活や社会に生かそうとしている。 ・ 学習したことを説明したり、模造紙に書いて表したりしてアウトプットしている。	発言、ノート、行動、成果物

資料5

指導案作成の基本事項

指導案作成の基本事項

本時の目標

データの特徴や傾向に着目して比較することにより、根拠となる代表値を見いだしながら統計的に問題解決することができる。
 ※「～(学習活動【見方・考え方を働かせること】：【手図】)をすることにより、～(ねらい【資質・能力の育成】：【目的】)できる。」として本時の目標を設定する

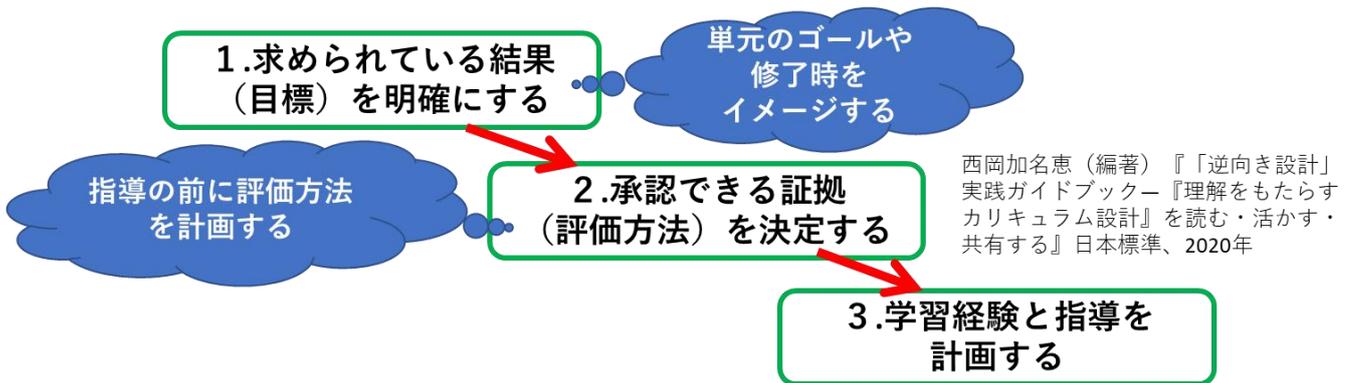
学習過程

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	評価(手段)
5	1 ～から本時のめあてを捉える。(中・高学年) つかむ。(低学年) ～から本時の課題を捉える。(中学校)	○ ～について比較することにより、それらの性質を自分で見付けようとする意欲を高めることができるようにする。 [視点] 研究の視点ごとに手立てを明記する。	[手立て]
10	2 ～のわけを自分なりに考える。 [自力解決：個人思考【テキストとの対話】]	○ ～を用いて～の視点に着目させる(手段) ことにより、～に気付くことができる(目的) ようにする。 ※「～を通して」、「～により」、「～すること」といった言葉を用いて、手段と目的の違いを明確にして記述する。 ※ 教師の支援は、「～の状況の子どもには～を用意することにより、～することができるようにする」「○と△を比較することにより、～に気付くことができるようにする」等、支援の必要な子ども達の状況や目的、具体的な支援の内容を意識して記述する。	
15 (20)	3 ～について話し合う。 [学び合い：集団思考【他者との対話】]		
10	4 適応問題に取り組む。(算数・数学のみ)		
5	5 本時のまとめをする。 [振り返り：自己との対話]	○ 「教師の支援」の内容には、資料提示や聴覚づくりといった場の設定に関する支援と、子どもの思考を促すための支援があると考える。 ○ 思考の段階には、「気付く→捉える(つかむ)→分かった場の設定→納得する」の段階があると考え、思考の深まりを意識して支援の方法を考える。 ※ 評価については、評価標準、評価方法を記述する。 ◆ ……………【ノート、発言、自己評価】	

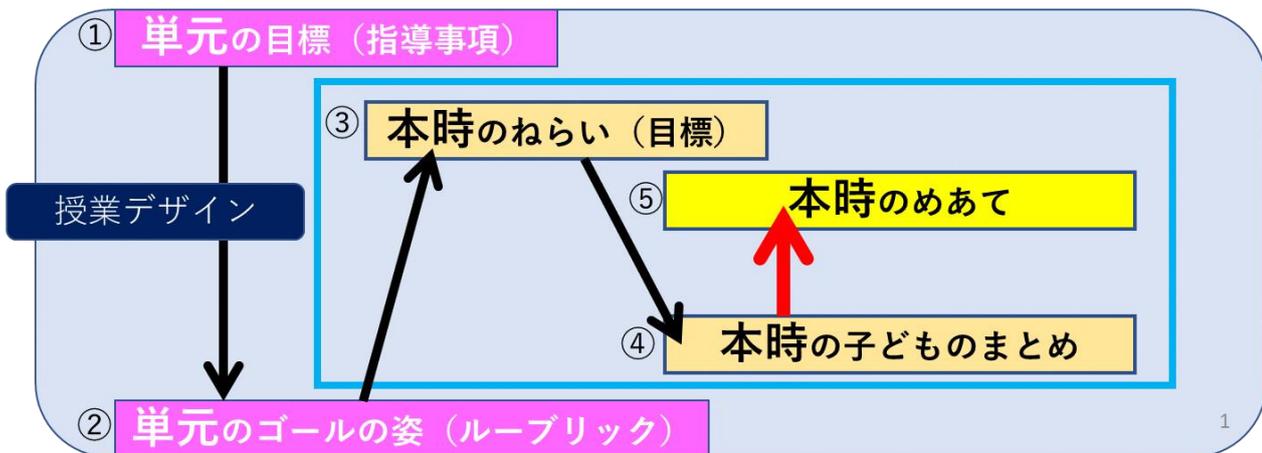
各教科の基本形で、括弧は中学校です。

【学習内容・活動における項目の段階と時間配分について】
 ○ 国語科は4段階で考える。時間配分は5分→10分→20分(25分)→10分。
 ○ 算数科は5段階で考える。時間配分は5分→10分→15分(20分)→10分→5分。

授業デザインの方法



西岡加名恵（編著）『「逆向き設計」実践ガイドブック『理解をもたらすカリキュラム設計』を読む・活かす・共有する』日本標準、2020年



ルーブリックの作り方と活用法

- ① 単元の目標（主に思考力・判断力・表現力等）に対応した3段階の評価基準表を作成する。**
 - レベルは3・2・1で表す。
 - **各教科の特質に応じた「見方・考え方」が引き出された内容になっているか検討**する。
 - 教科や内容、発達段階によっては、複数の評価項目を設けたルーブリックを設定することも可能。
 - ルーブリックによる評価は学期に1回程度でよい。
- ② ルーブリックは指導案とともに内容を検討する。**
 - 複数の視点でルーブリックについて検討することが大切。
→ 評価の妥当性と、同僚性を高めることにつながる。
- ③ ルーブリックを活用し、長期的な子どもの見取りに生かす。**
 - 複数の単元で、継続的に、類似の課題に取り組みせる。
 - **評価の視点を明確にすることで変容が見取れる。**

第1回授業研究会 佐藤佐敏先生のご指導から

～主体的に学び続ける子ども育成の7つのポイント～

研究推進委員会

1 失敗させる・間違わせる

- 「ナイスチャレンジ」と声を掛け、子どもの自主性や自発性を認める

2 何を言ってもよい空気をつくる

- オープンクエスションの問いを連発する→正解ではなく納得解・最適解
- 量をたくさん意見させる→質的にも向上する
- ツツコミの奨励 × 「反対意見ない？」 ○ 「今の意見にツツコミない？」
→ 批判的な思考力アップ

3 自分で選べるという感覚がやる気を高める

- 課題や条件、方法やゴールを選択させる

4 モデルで誘惑する

- 最初にモデルを示し、子どもに憧れをもたせる
- モデルは、上機嫌にやっている子やユーモラスにやっている子を選ぶ

5 コンフリクト場面をつくる

- 認知的不均衡をつくる→「Aなの？ Bなの？ どちら？」

6 自分の抱いた謎を追究させる

- 「自主学习帳」をつくる
- 「僕が抱いた謎」をテーマに追究する

7 学ぶ喜びを実感させる

- 「できた」、「分かった」、「もっと知りたい」を感じさせる

【主体的に学び続ける子どもの育成のアプローチは一つではない！】

- ◆ 何を言ってもよい聴き合う関係を構築する。
- ◆ 意図的に選択や判断を子どもに「委ねる」「任せる」授業を行う。
- ◆ 子ども自身が学ぶ喜びを実感できるようにするために、振り返りの時間を確保する。
- ◆ 振り返しになりますが、振り返りまで入れて授業であると捉える。
- ◆ 学びの連続性を踏まえて、家庭学習との関連(特に自主学习)を積極的に図っていく。

第2回授業研究会 坂本篤史先生のご指導から

～主体的に学び続ける子どもの育成～

研究推進委員会

1 授業力向上のために

- 学びの事実をよりよく読み取ることができるようになると力量が上がる。
→ 事後研究会などでいろいろな角度から子どもの姿を見直し、出合い直す。
いろいろな子どもの学びが実践知として蓄積されることで、子どもをつないだり、もどしたりするコーディネートができるようになる。
- 授業観を豊かにする。多様な子どもの学びを支えることになる。

2 見取りと手立てはセット

- 子どもの学びを見取れるから、適切な手立てを講じることができるということ。
→ 子どもの学びを見取れなければ、手立てを考えることはできない。

3 ペアとグループの作り方

- 小学校低学年は、ペア活動の回数を多くする。
- 小学校中学年以上は、授業の早い段階で4人グループの活動を入れる。
- タブレットがグループの壁にならない配慮が必要。

4 問題をつくるということ(数学科の場合)

- 課題自体はつかみやすく、分かりやすい活動なのがよい。
- 問題をつくり、模範解答を作成するということが、子どもにとってジャンプの課題になる。

5 子どもの学びは3つの対話の重ね合わせ

- 子どもがどうい対話を求めているかが分かると学びのコーディネートができる。

6 質の高い学びを実現する授業

- ジャンプの課題への挑戦
- 聴き合う関係(支え合い、聴き合い)と場づくり(ペア、グループ)
- 子どもが学びを豊かに表現するためのツール(ICT)

7 主体的に学び続けること～生活とのつながり～

- 授業が終わった後の間が大事。そこに自ら学び続ける姿を期待したい。
- 家庭学習と関連させて、子どもが自ら学べるように、見方・考え方が働くようにする。

【主体的に学び続ける子どもの育成のために】

- ◆ 聴き合う関係を構築する。日頃から発言は教師に向けて行うのではなく、友達へ向かうようにする。子どもたち同士で学び合えるようにすることを目指す。
- ◆ 三島式「対話・発表メソッド」を生かして、話し方や聞き方の指導を繰り返し指導する。
- ◆ 学び続けられるように家庭学習との関連(特に自主学习)を図っていく。

第3回授業研究会 坂本篤史先生のご指導から

3つの対話で授業をデザインする～子どもの質の高い学びを実現する授業に向けて～

研究推進委員会

自分たちで上手に学べる子を育てる

1 授業のデザイン:質の高い課題(ジャンプの課題)への挑戦

- 「わからない」ことが当たり前で、「わからないよね」で子どもが笑顔でつながる。
- ジャンプの課題を出すにつぶやきの多い子がだまる場面が生まれる。
今まで話せなかった子が話せるチャンスになる。
- 共有の課題(教科書レベル)からジャンプの課題(質の高い課題)へ
- 導入で前時の復習から入るとい考え方もあるが、丁寧に進めすぎると子どもが見方・考え方を働かせる余地がなくなる。導入は、できるだけシンプルにする。

2 聴き合う関係と場づくり

- 子どもはわかっているとき、自信があるときに動ける。しかし、わかったことではつながらない。わからないときに話をする。だから、わからないときに、自信がなくてもつながれるようにしていく関係性が重要。(×話し合う関係性→○聴き合う関係性)
- 自信がないときにつながりやすい学習形態を意識する。
(グループ、ペア…物理的距離が近いと、心理的距離も近くなる。)
- 対話的な学びを進めようとする、大きなつぶやきが出てくる。そうすると、大きなつぶやきのキャッチボールが始まってしまう。他の子がつぶやけなくなる。
- コーディネートのポイントは「もどし」。「今の考えてどういこと?」「もう一回グループで考えてごらん。」コーディネートが上手な先生ほど、よく聴いて授業をつくっている。
最終的には、子ども同士でつないだり、もどしたりできるようにすることを目指していく。

3 子どもが学びを豊かに表現するためのツール

- ICTによる学びの履歴の共有財化(スクールタクト、ジャムボード等)
- ICTは子どもの学びを「つなぐ」ための道具である。(子どもと社会、他の学級とも)。ただし、ICTに閉じこもらないように配慮しなければならぬ。
- 振り返り(〇〇日記→メタ認知による認知の深まりや「学び方の学び」の自覚化を推進振り返りの「レベル4」は有効な手法である。

4 「わからない」という言葉から子どもの内なる学びを肌で感じる

- 「わからない」と教材との関係:「わからない」という意見である。
- 「わからない」と他者との関係:「わからない」からつながりが始まる。
- 「わからない」と自己との関係:「わからなさ」を認め、乗り越える。

第4回授業研究会 佐藤佐敏先生のご指導から

～主体的・対話的に深い学びに向けた授業デザイン～

研究推進委員会

1 本日の授業のよかったところ

- 何を言ってもよい空気(担任の村松先生に対する生徒の信頼◎)
- 筆者へのツツコミ(批判的な思考・多面的なもの見方)
- コンフリクト場面(認知的不均衡をつくる→「Aなの？ Bなの？ どちら?」)
→ 大学生並みの思考をしていた生徒を褒めたい。「ナイスチャレンジ!」子どもへの称賛。

2 教材分析の難しさ

- 今回は「類推」思考を用いた説明文だったため、主張と事例を整合させる説明文とは論理が異なっていた。論理の「構造」に着目して「類推した」説明文だった。

3 深い対話的な学びとは?

- 同じ根拠でも理由が違えば読みや解釈が異なる面白さが共有される。
- 「なるほどね」が生まれる交流になっている。

4 深い対話的な学びを実現する授業づくり

- ① 根拠の差異についての交流(着眼する根拠をたくさん交流する)
- ② 理由の差異についての交流(理由付ける経験や知識をたくさん交流する)
※ フィンランドでは「～である。なぜなら～」の文型を徹底して指導している。

5 解釈のアクション・モデル by佐藤佐敏

- 認知的不均衡な問い→「Aなの？ Bなの？ どちら?」「A or B or C or D どれ?」
- 根拠と理由に基づく解釈としての課題・問題設定が有効。

6 授業づくりに大切なもの

- 教材に対する「熱い思い」
- 「遊び」の中にある「学び」
- 学んだことと日常がつながる「実感」

【主体的に学び続ける子どもを育成する授業の理念】

- ◆ コンフリクト場面の設定(問いの工夫)
- ◆ 「なるほどね」が生まれる交流(根拠と理由の差異に着目して)の設定
- ◎ 「教師の主要な仕事は学習環境整備である。そこでは、教師は極力「教える」ことをしないが、子どもがしっかりと「学ぶ」ことに責任を負う。」by 奈須正裕(上智大学教授)
教師が前面に立たなくても、子どもが教師や学校を学び越えていく授業を目指しよう。

4 本時の展開

時間	学習活動・内容	留意点	評価	研究の視点
5 全体	1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを捉える。 ④ スイミーはかなしかったのに、どうして元気をとりもどしたのかな。	○ 種絵を提示し、前時のスイミーの「さびしかった」と本時のスイミーの「元気をとりもどした」を比較することで、どうしてスイミーは元気をとりもどしたのだろうという問いを引き出し、スイミーの思いを読み取ろうとする意欲を高めよう。	○ 種絵を提示し、前時のスイミーの「さびしかった」と本時のスイミーの「元気をとりもどした」を比較することで、どうしてスイミーは元気をとりもどしたのだろうという問いを引き出し、スイミーの思いを読み取ろうとする意欲を高めよう。	○ 種絵を提示し、前時のスイミーの「さびしかった」と本時のスイミーの「元気をとりもどした」を比較することで、どうしてスイミーは元気をとりもどしたのだろうという問いを引き出し、スイミーの思いを読み取ろうとする意欲を高めよう。
5 個人	2 どうして元気をとりもどしたのかを考えよう。 (1) 元気をとりもどしたわけと思うところに赤で線を引く。	○ 「どこからそう思ったの？」と問い返しをすることで、叙述を基に捉えられるようにする。 ○ 教科書に線を引いたところについて話し合うことで表現の仕方によってすばらしいもの、おもしろいものになることに気付くことができるようにする。	○ 「どこからそう思ったの？」と問い返しをすることで、叙述を基に捉えられるようにする。 ○ 教科書に線を引いたところについて話し合うことで表現の仕方によってすばらしいもの、おもしろいものになることに気付くことができるようにする。	○ 「どこからそう思ったの？」と問い返しをすることで、叙述を基に捉えられるようにする。 ○ 教科書に線を引いたところについて話し合うことで表現の仕方によってすばらしいもの、おもしろいものになることに気付くことができるようにする。
10 全体	(2) 海のすばらしいもの、おもしろいものについて話し合う。	○ 「だんだん」の言葉に着目させることで、スイミーが急に元気をとりもどしたわけではないことに気付くことができるようにする。 ○ 黒板に登場人物のイラストを下部から上部に向けて貼ることにより、スイミーの元気が少しずつ元気を取り戻し、海の底から上がっていく様子を想像することができるようにする。	○ 「だんだん」の言葉に着目させることで、スイミーが急に元気をとりもどしたわけではないことに気付くことができるようにする。 ○ 黒板に登場人物のイラストを下部から上部に向けて貼ることにより、スイミーの元気が少しずつ元気を取り戻し、海の底から上がっていく様子を想像することができるようにする。	○ 「だんだん」の言葉に着目させることで、スイミーが急に元気をとりもどしたわけではないことに気付くことができるようにする。 ○ 黒板に登場人物のイラストを下部から上部に向けて貼ることにより、スイミーの元気が少しずつ元気を取り戻し、海の底から上がっていく様子を想像することができるようにする。
15 グループ	3 読み取ったことをグループで話し、ペーパーサートを用いて、音読する。 (1) グループで役割分担（音読役、ペーパーサート役）をして練習する。 (2) 場面の様子がわかるように音読とペーパーサートで発表をする。	○ 「さびしかった」「だんだん元気をとりもどした」という叙述に着目させることで、スイミーの心情を音読の大きさやペーパーサートで表現できるようにする。 ◆ スイミーの行動を想像し、ペーパーサートを用いて音読で表現することができる。	○ 「さびしかった」「だんだん元気をとりもどした」という叙述に着目させることで、スイミーの心情を音読の大きさやペーパーサートで表現できるようにする。 ◆ スイミーの行動を想像し、ペーパーサートを用いて音読で表現することができる。	○ 「さびしかった」「だんだん元気をとりもどした」という叙述に着目させることで、スイミーの心情を音読の大きさやペーパーサートで表現できるようにする。 ◆ スイミーの行動を想像し、ペーパーサートを用いて音読で表現することができる。
10 全体	4 まとめをする。 (1) めあてに対する本時のまとめをする。 ⑤ 海のすばらしいもの、おもしろいものに出会ったから。	○ 海のすばらしいものと出会った場面の出来事や様子を言葉で表現すること、スイミー日記でスイミーの世界を表現すること「スイミー日記を書いていくこと」を確認し、学習を進める見直しをもつ。 (1) 登場人物のしたことや出来事を中心に語の流れを確認し、スイミーの人物像をまとめよう。 (2) まぐろに襲われた場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (3) 海の素晴らしいものと出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (4) 小さな魚の兄弟達と出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (5) 大きな魚を追い出した場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 3 ペーパーサートを使ってスイミーを音読する動画を撮影し、感想を伝え合い、学習を振り返る。・・・2時間	○ 海のすばらしいものと出会った場面の出来事や様子を言葉で表現すること、スイミー日記でスイミーの世界を表現すること「スイミー日記を書いていくこと」を確認し、学習を進める見直しをもつ。 (1) 登場人物のしたことや出来事を中心に語の流れを確認し、スイミーの人物像をまとめよう。 (2) まぐろに襲われた場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (3) 海の素晴らしいものと出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (4) 小さな魚の兄弟達と出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (5) 大きな魚を追い出した場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 3 ペーパーサートを使ってスイミーを音読する動画を撮影し、感想を伝え合い、学習を振り返る。・・・2時間	○ 海のすばらしいものと出会った場面の出来事や様子を言葉で表現すること、スイミー日記でスイミーの世界を表現すること「スイミー日記を書いていくこと」を確認し、学習を進める見直しをもつ。 (1) 登場人物のしたことや出来事を中心に語の流れを確認し、スイミーの人物像をまとめよう。 (2) まぐろに襲われた場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (3) 海の素晴らしいものと出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (4) 小さな魚の兄弟達と出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 (5) 大きな魚を追い出した場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。 3 ペーパーサートを使ってスイミーを音読する動画を撮影し、感想を伝え合い、学習を振り返る。・・・2時間
個人	(2) スイミー日記を短冊に書く。	○ 本時の学習を振り返り、友達のはかったところやがんばったところを発表させ、次の学習の意欲につなげるようにする。	○ 本時の学習を振り返り、友達のはかったところやがんばったところを発表させ、次の学習の意欲につなげるようにする。	○ 本時の学習を振り返り、友達のはかったところやがんばったところを発表させ、次の学習の意欲につなげるようにする。

第2学年 国語科学習指導案

令和5年 6月 28日 (水) 第5校時
場所 2年教室 指導者

1 単元名 お話を読んで、しようかいしよう「スイミー」(レオ・レオ二)

2 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く。語彙を豊かにすることができる。
 - 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
 - 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
 - 言葉のもつよさを感知し、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
- (学習目標に向かう力、人間性等)

3 本時のねらいにせまるために

本時のねらい (めざす子どもの姿)

海のすばらしいものと出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、スイミーの行動を想像し、ペーパーサートを用いて音読で表現したり、スイミー日記で想像を膨らませたりすることができる。



視点1 「子どもの主体性を引き出す学習課題の工夫」：教材との出会わせ方や発問の工夫

前時の「さびしかった」場面と本時の「元気をとりもどした」場面を比較することによって、違いに着目させ、本時のめあてを捉えられるようにする。

視点2 「自分の思いや考えを伝え合う学び合いの工夫」 考えを深める問い返しの工夫

自分の考えを話すときに、教科書のどこに書かれていたかを、「○ページの○行目に○と書かれていたからです」発表させることで、叙述を基にしてスイミーの行動を具体的に想像することができるようにする。

視点3 「当事者意識を高める繰り返りの工夫」 ルーブリック評価による資質・能力の共有化と自覚化

ルーブリック評価で目指す力を教室に掲示し、毎時間ごとに達成度をスイミーの数で振り返ることで、自分たちの学びを実感できるようにする。前時の「さびしかった」場面と本時の「元気をとりもどした」場面を比較することによって、違いに着目させ、本時のめあてを捉えられるようにする。



子どもの実態

- 読み聞かせを集中して楽しむことができる。
- 活発で経験したことや知っていることを教師や友達に伝えようとする児童が多い。
- 場面の感想や説明をするときに、自由に想像を広げることができるが、叙述に基づいていないことがある。

学習計画 (総時数9時間) <本時 5/9>

- 1 初読の感想を発表し、「ペーパーサートでスイミーの世界を表現すること」「スイミー日記を書いていくこと」を確認し、学習を進める見直しをもつ。
・・・1時間
・・・6時間
- 2 本文を読む。
(1) 登場人物のしたことや出来事を中心に語の流れを確認し、スイミーの人物像をまとめよう。
(2) まぐろに襲われた場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。

(3) 海の素晴らしいものと出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。(本時)

(4) 小さな魚の兄弟達と出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。

(5) 大きな魚を追い出した場面の出来事や様子が分かる言葉を確認し、ペーパーサートを用いて音読で表現する。

3 ペーパーサートを使ってスイミーを音読する動画を撮影し、感想を伝え合い、学習を振り返る。・・・2時間

実践事例紹介

第1回授業研究会の小学校第2学年国語科「スイミー」の指導案と単元のルーブリック

板書計画



海のはびりつらものは、おぼつらものに出会ったから。

おそろしい まぐろ
の
挿絵

いそぎん
ちやく
の
挿絵

もも色の
やしの木みたい

うなぎ
の
挿絵

かおを見るころには
しつぽをわすれる
ほどながい。

こんぶ
や
わかめ
の
挿絵

ドロップ
みたいな
林

魚たち
の
挿絵

見えない糸で
ひっぱられている。

いせえび
の
挿絵

水中ブルドー
ザーみたいなの

くらげ
の
挿絵

にじ色のゼリー
のような

けれど

こわかった。
さびしかった。
とてもかなしか
った。

だんだん
元気をとりもど
した。



スイミーはかなしかったのに、どうして元気をとりもどしたのかな。

スイミー

レオレオレ

ルーブリック評価

<p>一匹きの大きな魚みたいにな ったスイミーと小さな魚のき ょうだいたちの挿絵</p>	<p>レベ ル3</p>	<p>小さな魚のきょうだ いたちとスイミーの 挿絵</p>	<p>レベ ル2</p>	<p>レベ ル1</p>	<p>つける力</p>
<p>せいめい じゅんじょよく せつめい が できる。</p>	<p>スイミーの海での できごとを じゅんじょよく せつめいすること ができる。</p>	<p>できごと がわかる。</p>	<p>どうじょう がわかる。</p>	<p>スイミーの どうじょう がわかる。</p>	<p>ないようがわかって よむ力</p>
<p>りゅうを そうぞう する。</p>	<p>ばめんのようすを かんがえて、スイ ミーのこうどうの りゅうを そうぞうする。</p>	<p>かんがえて、スイ ミーのこうどうを そうぞうする。</p>	<p>ばめんのようすを かんがえて、スイ ミーのこうどうを そうぞうする。</p>	<p>スイミーの こうどう がわかる。</p>	<p>そうぞうする力</p>

スイミーでつける「よむ力」「

各学力調査の質問紙において基礎的・汎用的能力とした項目

【3年】 ※ () は全国学力・学習状況調査の質問紙の番号

〈人間関係形成・社会形成能力〉

- 1 人が困っているときは、進んで助けていますか。(8)
- 2 友達関係に満足していますか。(14)
- 3 学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。(40)

〈自己理解・自己管理能力〉

- 4 自分には、よいところがあると思いますか。(4)
- 5 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(13)
- 6 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。(15)

〈課題対応能力〉

- 7 家庭で、自分で計画を立てて勉強していますか。(学校の授業の予習や復習を含む) (16)
- 8 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。(37)
- 9 授業で学んだことを、他の学習で生かしていますか。(42)

〈キャリアプランニング能力〉

- 10 将来の夢や目標をもっていますか。(7)
- 11 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(11)
- 12 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。(41)

〈将来につながる学び〉【1～3年共通】

- 13 学校に行くのは楽しいと思いますか。(12)
- 14 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(30)
- 15 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。(43)
- 16 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。(46)
- 17 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(50)
- 18 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(58)
- 19 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(62)

【2年】 ※ () はふくしま学力調査の質問紙の番号

〈人間関係形成・社会形成能力〉

- 1 時と場に応じた適切な言葉遣いができていますか。(33)
- 2 相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができていますか。(34)
- 3 先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができていますか。(36)

〈自己理解・自己管理能力〉

- 4 あなたの勉強のやり方について、問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する。(2 エ)
- 5 授業の難しさ、先生こと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっている方だと思う。(10)
- 6 自分には、よいところがあると思いますか。(19)

〈課題対応能力〉

- 7 あなたの普段の勉強のやり方について、新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する。(2 キ)
- 8 あなたの普段の勉強のやり方について、勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う。(2 チ)
- 9 難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。(20)

〈キャリアプランニング能力〉

- 10 あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか。(1)
- 11 将来の夢や目標をもっていますか。(22)
- 12 将来どの学校まで進みたいと思いますか。(23)

【1年】 ※ () はふくしま学力調査の質問紙の番号

〈人間関係形成・社会形成能力〉

- 1 時と場に応じた適切な言葉遣いができていますか。(38)
- 2 相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができていますか。(39)
- 3 先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができていますか。(41)

〈自己理解・自己管理能力〉

- 4 あなたの勉強のやり方について、問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する。(2 エ)
- 5 授業の難しさ、先生こと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっている方だと思う。(10)
- 6 自分には、よいところがあると思いますか。(24)

〈課題対応能力〉

- 7 あなたの普段の勉強のやり方について、新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する。(2 キ)
- 8 あなたの普段の勉強のやり方について、勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う。(2 チ)
- 9 難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。(25)

〈キャリアプランニング能力〉

- 10 あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか。(1)
- 11 将来の夢や目標をもっていますか。(27)
- 12 将来どの学校まで進みたいと思いますか。(28)

資料10

個の実態に応じた支援に生かすためのカウンセリング・シート

--	--

ISS	56
-----	----

学力期待値	43
-------	----

英検	5
----	---

新体力テスト	B
--------	---

基礎的・汎用的能力(質問紙) R4.11			
	スコア 前回比	全国比	県比
人間関係形成・社会形成能力	83.3 UP	△	△
自己理解・自己管理能力	75.0 UP	△	△
課題対応能力	83.3 UP	◎	◎
キャリアプランニング能力	91.7 UP	◎	◎

学校生活意欲(QU) R4.11					
	得点 前回比	全国比		得点 前回比	全国比
友人	16.0 UP	△	学習	17.0	◎
教師	16.0	◎	進路	17.0 UP	◎
学級	15.0 UP	△	部活	- 14.0	-

学級満足度(QU)	
満足	
前回	非承認

ソーシャルスキル(QU)	
バランスよい	
前回	配慮

【基礎的・汎用的能力との対応】 ◎上回る, △下回る
(友人・教師)人間関係形成, (学級)社会形成, (学習)課題対応, (進路)キャリアプランニング

◎大きく上回る, ○上回る, △下回る

標準学力調査(NRT) R4.3		
	偏差値	OA/UA
教科 平均値	44	-
国語	50	-
数学	48	-
英語	33	UA
理科	45	-
社会	42	-

全国学力・学習状況調査 R4.4			
	正答率	全国比	県比
国語	50.0	△	△
数学	28.6	△	△
理科	52.4	○	○

ふくしま学力調査 R4.4				
	正答率	県比	レベル	伸び
国語	46.7	△	7-C	-
数学	53.1	△	7-A	-
英語	-	-	-	-

業者テスト R4.10		
	偏差値 前回比	OA/UA
計	39.9 UP	-
国語	45.9 UP	-
数学	41.7 Down	-
英語	34.3 Down	UA
理科	43.2 UP	-
社会	40.1 UP	-

◎大きく上回る, ○上回る, △下回る

◎大きく上回る, ○上回る, △下回る

課題等	国▲情報の取扱, ▲書くこと, ▲話すこと, ▲記述式
	数▲数と式, ▲図形, ▲関数, ▲データの活用, ▲短答式, ▲記述式
	英▲語や文を正確に聞き取る, ▲考えや気持ちを正しく伝える
	理▲エネルギー領域, ▲地球領域, ▲短答式
	社▲産業などの面から見た日本の姿, ▲幕藩体制の確立と鎖国

(OA)学力期待値より大きく上回る, (UA)同下回る

(課題等)全国・ふくしま学調及びNRTより考察, ▲課題, ○優れている項目

カウンセリング・シートは、児童生徒一人一人の各種調査(知能検査、英検、新体力テスト、QU、全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査、各質問紙調査、NRT、業者テスト等)の結果を1枚のシートにまとめることで、子どもを見取り、適切な手立てや支援につなげることができるようにすることを目的とする。

また、カウンセリング・シートを小学校から中学校へ引き継ぐことで、中1ギャップ解消の手立てとして活用することができるようにする。

【カウンセリング・シートの見方と活用方法】

上段・・・非認知能力(質問紙やQUのデータ)

下段・・・認知能力(学調や各テストのデータ)

※ 非認知能力と認知能力(学力)を一体として捉えることが重要である。PISA や TIMSS の国際調査で、一体として教育活動を行っている参加国ほど、学力が高いことが明白となった。

※ 非認知能力・認知能力ともにデータとして、関連付けて教育活動を行うと効果的である。

※ カウンセリング・シートは、教職員間で共有し、定期的に更新することで最新のデータをもとに指導に生かす。

番号	学年	教科	単元名もしくは教材名	日時
実践1	小学2年	国語科	お話を読んで紹介しよう「スイミー」(レオ・レオニ)	6月28日
	本時の目標		海のすばらしいものと出会った場面の出来事や様子が分かる言葉を確認、スイミーの行動を想像し、ペープサートを用いて音読したり、スイミー日記で想像を膨らませたりすることができる。	
	本時のめあて		スイミーは悲しかったのに、どうして元気を取り戻したのかな。	
	指導助言者		福島大学人間発達文化学類 教授 佐藤 佐敏 様	
実践2	中学2年	数学科	連立方程式	7月14日
	本時の目標		連立方程式の文章問題とその模範解答を作成し、説明することができる。	
	本時の課題		連立方程式のよさがるような問題を作るためには、どうすればよいか。	
	指導助言者		福島大学人間発達文化学類 准教授 坂本 篤史 様 県立会津大学 特任教授 古川 一博 様	
夏季研修会	対象	三島保育所、三島小学校、三島中学校教職員 他		8月4日
	指導助言者	京都教育大学附属桃山小学校 主幹教諭 若松 俊介 様		
	演題	「主体的に学び続ける子」を育て、支えるための授業・学級づくり ～教師の役割、在り方を問い直す～		
実践3	小学4年	算数科	計算のやくそくを調べよう	9月22日
	本時の目標		ドットの並び方やまとまりに着目することにより、ドットの求め方を図や一つの式に表したり、図や式から考え方を読み取り説明したりすることができる。	
	本時のめあて		●の数は、どうすれば簡単に求められるかな。	
	指導助言者		福島大学人間発達文化学類 准教授 坂本 篤史 様	
実践4	中学2年	国語科	「モアイは語るー地球の未来」(安田喜憲)	11月9日
	本時の目標		筆者の主張と根拠のつながりの妥当性について、根拠を挙げて考えることができる。	
	本時の課題		結論での筆者の主張とそれを支える根拠のつながりは、妥当と言えるだろうか。	
	指導助言者		福島大学人間発達文化学類 教授 佐藤 佐敏 様	
ブリティッシュヒルズ英語研修	対象	三島小学校5・6年児童、三島中学校1・2年生徒		11月21日

□ 参考文献・引用文献

- 1) 小学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省 2017年)
- 2) 小学校学習指導要領解説 国語編(文部科学省 2017年)
- 3) 小学校学習指導要領解説 算数編(文部科学省 2017年)
- 4) 中学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省 2017年)
- 5) 中学校学習指導要領解説 国語編(文部科学省 2017年)
- 6) 中学校学習指導要領解説 数学編(文部科学省 2017年)
- 7) 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(文部科学省 2021年)
- 8) 第7次福島県総合教育計画(福島県教育委員会 2021年)
- 9) 学びの変革推進プラン(福島県教育委員会 2024年)
- 10) ふくしまの「授業スタンダード」(福島県教育委員会 2017年)
- 11) 中学校国語 指導スキル大全(佐藤佐敏・門島伸佳 明治図書 2022年)
- 12) 学校教育と学習の心理学(秋田喜代美・坂本篤史 岩波書店 2015年)
- 13) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して(奈須正裕・他 北大路書房 2023年)
- 14) 学校を改革する 学びの共同体の構想と実践(佐藤学 岩波ブックレット 2012年)
- 15) 教師のいない授業のつくり方(若松俊介 明治図書 2020年)
- 16) 教師のいない学級のつくり方(若松俊介 明治図書 2021年)
- 17) 授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善(澤井陽介 東洋館出版社 2017年)
- 18) 今求められる学力と学びとは-コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影-(石井英真 日本標準 2015年)
- 19) GIGA スクールの中で教育の本質を問う 子ども主語の学びと現場主語の改革へ
(石井英真・河田祥司 日本標準 2022年)
- 20) Q&A でよくわかる! 「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価(西岡加名恵・石井英真 明治図書 2018年)
- 21) 「逆向き設計」実践ガイドブック『理解をもたらすカリキュラム設計』を読む・活かす・共有する
(奥村好美・西岡加名恵 日本標準 2020年)

研究主題

地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成 ～家庭、地域と共につくる道徳教育を目指して～



きらりん



ふわりん



おもいやりん

親切、思いやり
キャラクター

福島市立飯野小学校（代表）校長 佐藤 育男

I 研究の構想

1 主題設定の理由

(1) 児童の実態より

① 教師のアンケートより

本校の児童は、友達と仲良く関わり、協力したり、助け合ったりすることができる。一方で、教師アンケートからは、自分に自信がなく、自己表出を苦手とする児童や、自分と考えの違う友達を受け入れることができない児童の実態があることがうかがえた。

② 令和4年度全国学力・学習状況調査児童質問紙より

令和4年度全国学力・学習状況調査児童質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」という項目では、本校は30.8%と、全国や県の平均を大きく下回っており、自他のよさに気付くことや認め合うことが不十分であり、自己肯定感が低い実態があることがわかった。

全国	39.4%
県	38.3%
県北	37.7%
飯野小学校	30.8%

表1 令和4年度全国学力・学習状況調査児童質問紙

「自分にはよいところがあると思いますか」

こうした児童の実態を基に、多様な他者とのつながり、互いを認め合いながら、共によりよく生きようとする子どもを育てていきたいと考えた。

(2) 地域の特性を生かして

飯野町は三世帯同居世帯が多く、子どもたちは地域の様々な世代の人々との関わりが深い。また、飯野町には、古くから伝わる行事

やお祭りなどが残っている。学校教育活動でも、総合的な学習の時間で、飯野の人や自然・文化や先人の生き方から学習テーマを設定し、充実した体験活動を取り入れた「いいの地元学」を推進している。

このように、地元学で体験的な学習が多く行われているが、体験的な関わりのみになり、自己を振り返ったり、他者を認めたりする学びの深まりまでには至っていない。そこで、他者を認めるために、まず「自己を見つめる」ことを大切にしていこう必要があると考えた。

友達や保護者、地域の方々や地域とのつながりの中で自己を見つめ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養いたいと考え、本主題を設定した。

2 目指す子どもの姿について

他者とのつながり認め合い、自己をじっくりと見つめることを通して、よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子ども

〈道徳教育の合言葉〉

つながり 見つめ 一步踏み出す 飯野っ子

3 令和5年度の重点内容項目について

令和5年度は、道徳教育の重点内容項目を、「親切、思いやり」の一つとし、焦点を絞って道徳教育を推進することにした。

4 研究仮説

子どもを取り巻く友達・家庭・地域とのつながりを大切にし、多様な思いや考えに触れながら、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己をじっくりと見つめ直すことを積み重ねていけば、他者との認め合いを基盤に、自分のよさや課題を自覚しながら、

よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子どもを育むことができるであろう。

5 研究内容について

道徳教育は、学校で行われる全ての教育活動に関わるものである。道徳性を養うことを目指すうえで、その中核的な役割を果たすのが道徳科の授業である。道徳科の指導において、各教科等で行われる道徳教育を補ったり、それを深めたり、相互の関連を考えて発展させ、統合させたりすることで、学校における道徳教育を充実させる。

令和5年度は、道徳科を中核に据え、生活科、総合的な学習の時間の授業を中心に以下の内容で研究を行う。

(1) 道徳科の授業づくりについて

【手立て1】 多面的・多角的に考える

- 発問を工夫したり意図的指名を行ったりすることで、多様な思いや考えを引き出し、児童一人一人の価値観を広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・ 児童の考えをゆさぶる発問を用意する。
- ・ 児童が具体的、実践的に考えられるように役割演技や動作化を取り入れる。
- ・ 「みんなの心のものさし」を活用することで、思考を可視化することも必要に応じて取り入れる。
- ・ 保護者参加型の授業を構想する。その中で、参加している保護者の考えも引き出すことで、児童が多様な考えに触れることができるようにする。

【手立て2】 自己を見つめ直す

- 「書く活動」を取り入れ、一人一人が「できた経験」や「できなかった経験」等を具体的に振り返ることができるようにする。また、できた（できなかった）理由やその時の気持ちも引き出すことで、実感をもってより深く見つめられるようにする。さらに、見つめたよさを友達や家族と共有していく。
- ・ 児童がじっくりと自己を見つめられるよ

うに、振り返りを15分間程度確保する。

- ・ 自己の考えを深められるように、「自分の心のものさし」を活用することをきっかけとする。

【手立て3】 家庭・地域とつながる

- 「家庭・地域とつながる」場を設けることで、多くの児童がつながることのよさを感じながら、学びを深めることができるようにする。
- ・ 保護者参加型の授業を実施することで、学校と家庭で価値観を共有する。
- ・ 保護者や地域人材等、ゲストティーチャーを積極的に活用し、共に授業をつくる。

(2) 研究全体について

【視点1】 道徳教育の組織的取組について

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

- 校長の方針の下、教職員や保護者の願いを実現できるよう、道徳教育の重点内容項目を「親切、思いやり」とし、全体計画を作成する。 **資料1**
- 別葉は、重点内容項目の「親切、思いやり」に焦点化を図り、各教科及び家庭・地域との連携等に関連付けて捉えられるようにする。 **資料2**

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点・配慮点〉

- 別葉の活用
振り返りを加筆できる欄を設け、週案に綴じる。学級・学年で確認・追加・修正することで、様々な場面で重点内容項目を意識して指導できるようにする。 **資料2**
- 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組
学校教育目標や子どもの実態から目指す子どもの姿を設定し、全職員で共有する。また、道徳教育推進教師が別葉作成・改善の中心となり、全教職員に情報提供する。
- 「全校・学級道徳コーナー」の運営
学年や学級に関係なく、全校生が友達の「親切、思いやり」につながる姿を共有できるように、道徳コーナーを全校生が目にする

る昇降口付近に設けた。地域の方や保護者にも参加を呼びかけ、家庭や地域も含めた取組とする。また、学級にも道德コーナーを設けた。

【視点2】 自己を見つめ、深い学びを実現する道德科授業の工夫

上掲(5)(1)道德科の授業づくりについてのとおり

【視点3】 一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- 「飯野っ子心のノート」を発達段階に応じて作成・活用し、授業後は担任や保護者が、一人一人の考えを受け止め、励ます言葉掛けをしたり、コメントを書き込んだりする。
- 年間を通して「飯野っ子心のノート」への記述を累積することで、児童の内面的な変容を長期的に見取る。

【視点4】 「ふくしま道德教育資料集」等の活用について

- 年間指導計画に、「ふくしま道德教育資料集」を教材として扱う時間を全学年で位置付け、本校の重点内容項目に関わる教材を積極的に活用できるようにする。
- 「ふくしま道德教育資料集」と合わせて、身近な人の体験談を聞くことを大切にする。郷土である飯野町や、家族に対する思いを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 授業の中で震災当時のことについて保護者と共に考えたり、話し合ったりする場を設けることで、学びを家庭にも広げることができるようにする。

【視点5】 家庭・地域との連携を生かした取組について

- 道德教育の様子を学校だよりや学年だより、ホームページに掲載し、家庭や地域へ発信する。
- 保護者参加の授業を複数回実施したり、道德の授業後に「飯野っ子心のノート」を家庭に持ち帰らせたりすることで、家庭で

も道德科の内容を一緒に考えられるようにする。

- 道德教育講演会を年に2回開催し、保護者にも参加を呼びかけ、子どもと一緒に聞くことができるようにする。

6 研究の進め方

(1) 教育活動全体を通して

- 「研究内容」に示した内容について、学校全体として、年間を通して取り組む。

(2) 道德科の授業について

- 全体授業
 - ・ 年間で学年ごとに授業を公開し、講師を招聘して指導を仰ぐ。
 - ・ 授業実践部を中心に事前研究、模擬授業を行う。
 - ・ 全員が授業を参観し、事後研究会に参加する。
 - ・ 授業参観者は、3つの手立てについて付箋に成果や課題を書き込む。
 - ・ 事後研究会では、3つの手立てについてKJ法によるグループ協議を行う。
 - ・ レシピシートを活用して気軽に事前検討を行ったり、互見授業を実施したりする。

(3) 各種研修会、書籍等による研修

- ・ 先進校を視察し、伝達講習をする。
- ・ 文献研究を進め、理論を構築する。

II 研究の実際

(1) レシピシートを活用した授業づくり

「令和5年度【県北版】学校教育指導の重点 幸せを紡ぐ県北教育」には、豊かな心を育むために、心に響く道德教育の推進として「自己を見つめる」授業づくりが挙げられている。そこで、本時の「振り返り」の姿をスタートとし、本時における子どもの姿を明確に描き、発問を精選するために「レシピシートを活用した授業づくり」を行い、学習指導案は検討後に作成することとした。 **資料3**

(2) 模擬授業を踏まえた授業づくり

実施した12回の研究授業では、事前に模擬授業を行い、検討を重ねてきた。

① つながる授業について

模擬授業では、教師が話している時間が長くなったり、教師と児童の1対1のやり取りが多くなったりすることが課題であった。そこで、どのようにすると児童自らが思いや考えを表出し、友達や保護者とつながることができるのか、教師はどのような働きかけをすればよいのかについて



写真1 模擬授業の様子

て検討を重ねた。

② 教材の提示について

教材文の内容理解がスムーズにできるよう、内容を整理してから範読を行うことや、事前に教材文を読んでおくこと、ペープサート等を取り入れることなど、児童の発達段階や実態に適した教材提示の仕方について検討した。

③ 学習テーマについて

児童が学習テーマを自分事として考えることができるようにするために、どのような言葉やタイミングで提示したらよいのかについて検討を重ねた。アンケート結果を提示し、問題意識や必要感を高めたりすることや、本時の道徳的価値に関する日常の写真を提示し、児童が具体的な場面を想起しやすくすること等、児童の発達段階や実態を考慮した。

④ 教師のコーディネートについて

児童が多面的・多角的に考えられるよう、必要に応じて「みんなの心のものさし」を活用して、児童の考えの可視化を図ってきた。さらに、ねらいとする道徳的価値に対する考えを深めるためには、どのような順序で指名したり、どのようなゆさぶりの発問を投げかけたりすればよいのかについて検討した。

Ⅲ 授業の実践及び考察

(1) 第1学年の実践について

資料4

主題名：親切の心地よさ

教材名：はしの上のおおかみ（わたしたちの道徳1・2年生／文部科学省）

本時のねらい：優しくくまと出会った場面の

役割演技を通して親切にされたときの心地よさに気づき、身近な人に対して思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

① 「多面的・多角的に考える」について

保護者参加の授業を計画し、全体での役割演技に加えて、小グループで保護者と役割演技を行うことを通して、本時のねらいに迫る。中心発問を「くまに抱き上げられ、反対側を下ろしてもらったおおかみは、どんなことを考えていたのか」とし、役割演技を通して、じっくりと考えることで、親切にされる心地よさを感じることができるようにした。

【役割演技後】

- C1 くまさんはやさしいね。
C2 でもさ、おおかみはどうして意地悪をしたくなったのかな。
T どうして心に手を当てたのかな。
C3 心でありがとうって思ったから。
C1 優しくしてもらってうれしかったから、気持ちが温かくなって心に手を当てた。
T どうしてくまさんは優しいなって思ったのかな。
C1 (沈黙)
T (全体へ) どうして優しいなって思ったのかな。
C5 持ち上げてくれて優しい。
C6 くまさんは怒ったりしないで、優しく教えてくれたから。
T C1さんもそういう気持ちでありがとうと言ったのかな。

○ 役割演技を取り入れることで、児童が自分事としておおかみの心の中をじっくりと考えることができた。全体での役割演技に加えて、小グループで役割演技を行い、全員がくま役の保護者に抱きかかえられることで、ほとんどの児童が親切にされる心地よさを感じ取ることができた。



写真2 親切にされるよさを実感する姿

- 教師が「どうしてそう思ったのか」と理由を尋ねたり、見ている児童にも「どう思うか」尋ねたりしたことで、役割演技に参加した児童だけでなく、見ている児童も、考えを深めることができた。
- 授業に参加している友達のお父さんやお母さんにも振り返りカードを見せに行くなど、友達や保護者と、自らつながろうとする姿が見られるようになった。

②「自己を見つめ直す」について

「自分の心のものさし」を使って振り返ることを通して、自己をじっくりと見つめられるようにする。また、親切にできた理由やその時の気持ちについて引き出すことで、周りの人に親切にすることの大切さについて実感をもって考えることができるようにする。さらに、幼稚園児や幼稚園の先生からの感謝のメッセージを聞くことで、親切にすることの心地よさを感じながら、実践意欲を高めたとい考えた。

- T 今度は、自分のことを考えてみるよ。お面を外して、机の上に置いてください。これまでの自分は、おおかみやクマのように、周りの人にやさしくすることができていたかな。
- C 1 できていた。(心のものさしを記入しながらのつぶやき)
- C 2 最初はできていなかったけれど、最後はできた。(心のものさしを記入しながらのつぶやき)
- C 3 できていなかった。(心のものさしを記入しながらのつぶやき)
- T 6月と10月の年長さんとの交流会はどうだったかな。これは、ドッジボール中の写真かな。(写真提示) これは最後の終わりの会の写真。(写真提示)
- T みんなで頑張っていた学習発表会の時はどうだったかな。これは、練習をしている時。(写真提示) これは、お片付けしている時。(写真提示)

- C (ワークシートに記入)
- C 4 けがをしている友達に「大丈夫」と声を掛けた。
- T そんなC 4さんのことをC 5さんはどう思う。
- C 5 声を掛けてもらってうれしい。
- C 6 給食当番の時、C 7ちゃんが何をやるのかわからなかったから教えてあげました。
- T どうして教えてあげたの。
- C 6 わからなくて、困っていたから。
- T 迷っている友達に教えてくれたC 6さんのことをどう思う。
- C 7 やさしい。

- 言葉での表現が難しい児童には、教師が言語化し、自己を振り返ることにつなげた。回数を積み重ねることで、1年生の児童も自己を見つめることができるようになった。



写真3 真剣な表情でこれまでの自分を振り返る姿

- 保護者に見守られながら、温かい雰囲気の中で授業を行ってきたことで、児童は素直な考えを意欲的に表出することができた。さらに、友達の発表の際には顔を見て聞き、それにつなげて発表したり、振り返り際には、自己をじっくりと見つめて振り返りを書いたりすることができた。

【児童の振り返りより】

- ・ けがをしているともだちに、だいじょうぶってこえをかけた。
- ・ 年長さんが、ならぶばしょがわからなそうだったのでおしえてあげた。そのあとのしそうにあそんでいて、うれしかった。

③「家庭・地域とつながる」について

役割演技や振り返りの場面で、保護者や幼稚園児・幼稚園の先生方とつながる機会を設定した。さらに、参加保護者数が毎回10名以上いる本学級の強みを生かし、10名の保護者に積極的に子どもたちに関わっていただ

くことで、子どもたちだけでは気付けない考えや思いに触れながら、考えを深められるようにした。

- 保護者の授業参加を複数回行ってきたことで、児童も保護者も積極的に役割演技に取り組んだ。児童がおおかみの気持ちをうまく言えない時には、役割演技を2回行ったり、保護者が「どう思ったの」と児童に聞いたりするなど、保護者が個々の児童に柔軟に対応することで、教師が想定する以上に多様な考えを引き出すことができた。



写真4 保護者との役割演技で自分の思いを語る姿

- 2学期の道徳授業参加の依頼(計4回分)を早めに保護者に伝えたことで、毎回10名以上の保護者の参加につながった。自分の子どものみならず、学級の児童全体に目を向け、多くの児童と関わっていただいた。
- 幼稚園の先生や園児からの感謝のメッセージを嬉しそうに聞く姿から、親切にすることの心地よさを感じることができ、実践意欲を高めることにつながったと考える。



写真5 幼稚園の先生とつながる姿



写真6 園児と映像でつながる姿

【保護者の感想より】

くま役として前に立ちましたが、子どもたちが言った言葉に対して、優しい気持ちを言葉で伝える難しさを感じました。やはり言葉だけでなく、日頃から行動で表していくことで、子どもに優しさや思いやりの気持ちは伝わると感じたので、今後は今まで以上に行動や態度で示していきたいと思えます。

(2) 第6学年の実践について **資料5**
 主題名：かけがえのない家族 教材名：私の誕生日(ふくしま道徳教育資料集 第II集)

本時のねらい:親の思いについて考えることを通して、家族が深い愛情をもって自分を大切に育てていることに気づき、かけがえのない家族を大切にしていこうとする心情を育てる。

①「多面的・多角的に考える」について

主人公に対する家族の思いを保護者と一緒に考えた後、実際に保護者の我が子に対する思いを聞くことで、家族の深い愛情や願いを感じることができるようにした。また、主人公に対する「家族の思い」と主人公自身の「家族への思い」、そして児童の自分に対する「家族の思い」と児童自身の「家族への思い」を対比して板書することで、それぞれの立場から家族とはどんな存在なのかについて考えることができるようにした。

- T うつむいていた春香が、叔母の話を聞いて顔を上げると、父と母は春香の方を見て、ほほえんでいました。父と母は、どんな思いでほほえんでいたのかな。
- C 1 春香が生まれた大切な日だから。
- C 2 小さいころ病気をしたけれど、今元気であるから嬉しい。
- C 3 家族にとっては最高に嬉しい日。
- T 家族にとって春香はどんな存在なのだろう？
- C 4 大事な存在。かけがえのない存在。

- 保護者が話し合いに参加し、思いを交流することで、児童は自分の考えをより広げたり深めたりすることができた。保護者からの問いかけに、じっくりと考えながら発言する児童の姿も見られた。



写真7 児童と保護者で考えを交流する姿

- 主人公春香に対する「家族の思い」と春香自身の「家族への思い」、そして自分たちに対する「家族の思い」と児童自身の「家族への思い」を対比しながら板書することで、それぞれの立場から家族とはどんな存在なのかについて考えることができた。

な存在なのかについて、思考をつながげながら考えを深めることができた。児童の発言に対して、「それはどういうことかな」「みんなにもそういう思いをしたことがあるかな」「どんな時にそう思う」といった問い返しや揺さぶる発問を効果的に行うことで、さらに考えを広げたり深めたりすることができたと考える。

②「自己を見つめ直す」について

参加している保護者から震災時のことや生まれたときの喜びなどのエピソードを直接聞いたり、事前に親から子への手紙を書いてもらい、授業の最後にその手紙を読んでもらったりすることで、震災時の家族の大変さや自分への無償の愛、そして家族に支えられていることに気づき、家族への思いをじっくりと見つめ、かけがえのない存在である家族について考えを深めることができた。

- 授業に参加した保護者から直接思いを聞くことで、児童一人一人が自分の家族と重ね合わせて、自分事として家族について考えることができた。保護者の話を聞く児童のまなざしが真剣で、直接児童に伝えたからこそ児童の心に響いたと実感した。
- 自己を見つめ直す時間を十分に確保したことで、家族に対する思いをじっくりと考えることができた。「自分にとって家族とはどんな存在なのか」、さらに「どうしてそう思うのか」ということを具体的に振り返る発問を投げかけたことで、自分の生活を見つめ、家族に対する感謝の思いについて素直に話したり、涙を浮かべながら聞いたりする児童の姿が見られた。



写真8 家族からの手紙を読み、愛情を実感する姿
【児童の振り返りと学習後の「飯野っ子心のノート」による家族とのやり取り】

【児童の振り返り】

自分にとって家族とは、信頼できて、いつでも背中を押して、助けてくれる存在。理由は、負けてしまったときに、お母さんはいつも励まして背中を押してくれるから。

【家族のコメント】

2年生からドッジボールを始めて、いつも真面目にひたむきに頑張る姿をそばで見してきました。「信頼できて、助けてくれる存在」と思っていたことを知り嬉しかったです。お父さんもお母さんも、あなたが私たちの子どもに生まれてきてくれて、健やかに成長してくれて、いろいろな面で活躍してくれて、とても誇らしいです。これから先、不安なことや困難なこと、「壁」にぶち当たる時が来ると思います。その時は、いつでも遠慮なく頼ってほしいです。(母)

③「家庭・地域とつながる」について

2名の保護者の授業参加を計画し、児童と保護者が互いの考えを交流したり、子への思いを直接伝えてもらったりすることで、家族の深い愛情や願いを実感できるようにした。また、家族に対する児童の思いを聞いた感想を保護者に話してもらうことで、児童が自己の学びを感じ取ることができるようにした。授業後には、自分の思いを書き込んだ「飯野っ子心のノート」を持ち帰り、家族からメッセージをもらうことで、家族に授業の内容や自分の思いを伝え、家庭と学校で道德教育の内容を共有し、家庭と学校がつながるようにした。

【保護者の感想より】

子どもたちが、感じたことを自分の言葉で表現して発表する姿を見ることができました。それぞれに、受け取り方、考え方の違いがあって、ペアで話し合う事で、その事にも気付くことができた授業だったなと感じました。親や他の保護者の話を、子どもたちも聞くことができ、なかなかこうした交流の場は少ないので、とてもよい機会でした。

子どもたちの思いは、すごいなと思うことばかりでした。思春期の真っ只中で、親子同士でも本当の思いを伝える機会がなかったので、よい経験となりました。涙した子を見

たり、話を聞いたりして、心の中ではお互いに感謝しているのだなと感じました。

- 家族に授業のことや自分の思いを伝えることで、家庭と学校で道徳教育の内容を共有し、家庭と学校がつながることができた。
- 参加した保護者に授業の感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返る機会となった。

IV 研究の成果と課題

①「多面的・多角的に考える」について

道徳科の授業では、あらかじめ児童の考えを想定し、多様な考えに対応する複数のゆさぶりの発問を用意した。また、意図的指名をすることで、多様な考えを引き出し、一人一人が考えを深めることにつながった。さらに、保護者や地域の方の思いや考えを聞くことで、児童だけでは気付かない思いや考えに触れ、児童は自らの考えや価値観を広げたり深めたりすることができた。



写真9 みんなの心のよさで意図的に指名する様子

②「自己を見つめ直す」について

道徳科の授業では、振り返りの時間を15分程度確保し、できた（できなかった）理由やその時の気持ちも引き出すことで、児童が自己をじっくりと見つめる姿が見られた。また、振り返りカードに友達が書いたエピソードを自分のことのように受け止めて一緒に喜ぶ姿や、授業に参加している友達のお父さんやお母さんにも、振り返りカードを見せに行く姿が見られ、認められる心地よさも感じることができた。



写真10 友達の思いを自分事として受け止める姿

③「家庭・地域とつながる」について

- (1) 各学年で家庭・地域とつながる授業を複数回行ってきた。保護者や地域の方々には、

多くの児童に対し、我が子のように積極的に関わっていただいた。児童は、進んで保護者や地域の方と関わり、他者とつながるこ



写真11 地域の方の体験談を聞く姿

とのよさを感じながら、学びを深めることができた。学校が中心となり、家庭や地域に発信していくことが、それぞれの学びを広げたり、深めたりすることにつながった。

- (2) 参加した保護者に授業の感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返る機会となった。全国学力・学習状況調査の質問紙で「自分にはよいところがある」に対して肯定的ではない回答の児童が少なくないため、今後も、保護者や地域の方に認められる機会を増やし、自他のよさに気付くことができるようにしていきたい。

④ 全体を通して

(1)「重点内容項目」とつなぐ

道徳教育の重点内容項目「親切、思いやり」に焦点化を図った別葉を作成したことで、年間を通して見直しをもち、共通理解の下、計画的に授業をしたり、意識して指導したりすることができた。

(2)「全校道徳コーナー」でつなぐ 資料6

星カードを嬉しそうに読む児童や、放送での紹介を心待ちにする児童もおり、多くの児童が「親切、思いやり」を意識して生活することができた。学校行事の際に保護者や地域の方にも書いていただくことで、家庭や地域と児童のよさを共有することができた。学級のコーナーにも、多くの星が積み重ねられた。

(3)「道徳教育講演会」でつなぐ 資料7

道徳教育講演会では、児童がポスターや講演題を作成する等の事前準備を行ったり、あらかじめ講演の内容や講師について調べたりすることで、講演会当日は心のノートにメモを取りながら熱心に聞くことができた。講演後には自ら質問する児童もおり、児童の心に

響く講演会にすることができたと感じている。また、児童と保護者が価値観を共有することができ、家庭と学校が連携して児童の道徳性を養うことにつながった。

日出子さんは、一歩をふみ出すのは、いいと言っていたのでわたしも、できないじゃなくて、一歩をふみ出すことを心がけてがんばりたいと思います。

〈第1回 道徳教育講演会
児童の感想〉



図1 児童作成の
ポスター

【講演会に参加した保護者の感想より】

震災の話は何度聞いても切なくなります。最後の最後まで人を助けて亡くなった高校生の話は、本当に切なく、自分の子だったらと思うと、お母さんの気持ちも何とも言えない気持ちでした。自分は家族のことを守れるだろうか。・・・もう12年と数か月が経ち、まだまだ復興は終わっていないということに、自分はこれから何ができるだろうと講演を聞いて、考えなくてはならないと強く思いました。

(4)「児童会」がつなぐ

代表委員会では、「飯野小学校を今よりも親切・思いやりいっぱい



写真12 全校生へ「親切、思いやり」キャラクター発表

の学校にしたい」という思いから、全校生へ募集を呼びかけ、親切、思いやりのキャラクターを作成した。6学年児童がキャラクターの仕上げやポスター製作を担当することで、自分たちで制作したキャラクターに愛着や親しみをもち、大切にしようとする意識をもつことができた。完成したキャラクターは、職員室前の道徳コーナーに掲示し、毎日児童が目にすることができるようにした。また、各学級の道徳コーナーに掲示したり、学校行事等でも活用をしたりして、児童がキャラクターに親しみをもち、より親切、思いやりを意識して生活することにつながった。

V これまでの研究を振り返って

(1) つながる授業を目指して見えた姿

「家庭、地域と共につくる道徳教育」を目指して、「つながる」ことを大切に、研究を進めてきた。子どもたちが、多くの人と関わる中で、「つながる」ことよきや楽しさを感じながら、学習する様子が見られた。私たちは、そうしたつながりを通して、子どもたちの表情が変化したり、考えが広がったりする様子を間近で見ることができた。資料8

① 友達とのつながり

道徳教育の研究を通して、道徳科のみならず全教育活動で意識的に取り組んできたことが、子ども同士がつながることである。ペアやグループで話し合う場を設定したり、考えを共有させるための働きかけを意識的にすることで、友達の考えに興味をもって聞いたり、共感したりする様子が見られた。友達とつながり、共に学ぶことを通して、友達がいることよきや、自分とは違う様々な考えがあることよきに気付くことができた。

② 家庭とのつながり

2学期からは、どの学級でも保護者からの手紙やアンケートに加えて、保護者が子どもたちと一緒に考えたり、話し合ったりする授業への参加を積極的に計画し、実施してきた。初めは恥ずかしがっていた子どもたちも、回数を重ねる度に、一緒に考えることに慣れ、積極的に関わる姿が見られるようになった。保護者の参加により、子どもたちだけでは気付かなかった思いや考えに触れ、考えを広げたり、深めたりすることができた。保護者の温かい言葉に、目を輝かせて聞き入る姿や、自分の考えを生き生きと保護者に伝える姿は、保護者の参加があつてこその一歩踏み出す姿であると感じた。児童の豊かな心を育てるために、家庭と学校が連携することよき大切さを改めて実感することができた。

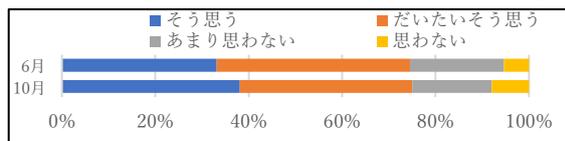
③ 地域とのつながり

各学年の生活科や総合的な学習の時間に、

地域の方にゲストティーチャーとして来校していただき、複数回関わりながら学習を進めてきた。令和5年度は、これまでの子どもたちと地域のつながりをさらに広げたため、自分が住んでいる飯野町のよさに気付きながら、より積極的に地域の方と関わる姿が見られた。子どもたちのよりよい成長のために、地域との協力が欠かせないと強く感じた。

(2) 道徳教育アンケートより

6月と10月に2回アンケートを実施した。「自分にはよいところがあると思いますか」という設問に対し、「そう思う」と回答した児童が大きく増加した。道徳コーナーをきっかけに、友達や上級生、下級生、教師、保護者や地域の方に自分の他者に対する思いやりの心をほめてもらうことで、自分のよさに改めて気付くことができた児童もあり、自己肯定感を育むことにつながったと考える。



グラフ1 道徳教育アンケート
「自分にはよいところがある」(2～6年)

(3) 子どもの姿より

2年生の帰りの会「今日のキラキラさん教えてコーナー」を通し、子どもたちの友達のよさを見つける目が、着実に育っている。学級みんなに「いいね!」と、ほめられた児童は、友達に認められる心地よさを感じることができた。毎日続けるうちに、子どもたちの姿が変わり、教室全員の子どもたちの心が、発表する子どもに向けられるようになった。発表する子どもも、学級の中で大切にされている自分を自覚しているようであった。教室の思いやりの星を一つ、また一つ増やすことができた。



写真13 心に向けて
友達の話聞く姿

令和6年6月のことである。3年生のA児は、修学旅行へ出かけている6年生へ思いを馳せ、1組、2組それぞれに手紙を書いた。

帰校後、黑板に貼られた手紙を読んだ6年生からは、笑顔があふれた。他者を思いやることのよさを実感しているA児は、6年生に向けて、その一歩を力強く踏み出したと考える。

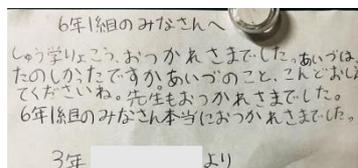


写真14 A児が
書いた手紙

(4) 互いに高め合える教員同士のつながりを目指して

本研究を通して、教員同士のつながりをより強いものにすることができた。レシピシートによる事前研究や模擬授業を通して、授業者のみならず多くの教員が授業について真剣に考え、授業をよりよいものにしていくことができた。職員室で声を掛けると自然と人が集まり、授業について悩んでいることを気軽に相談し合える関係は、何よりも心強いつながりとなったと感じる。今後も、教員同士がつながり、共に考えることを通して、互いを高め合える研究を進めていきたい。

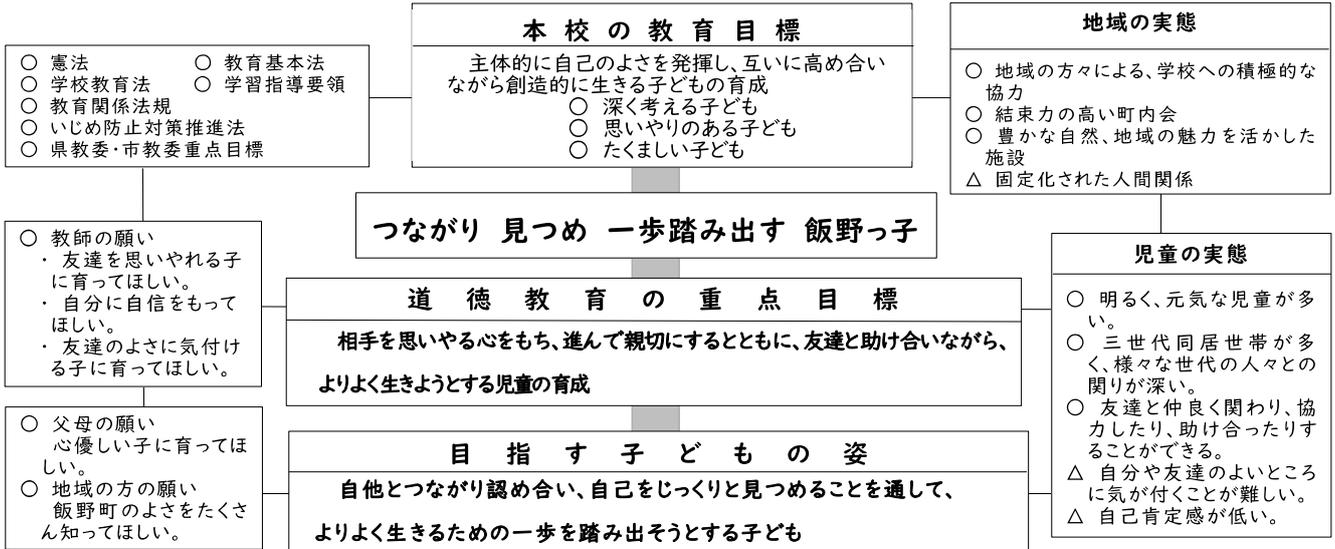
【教員の感想より】

「つながり、見つけ、一歩踏み出す飯野っ子」この合言葉の下重ねてきた実践がまさにつながり、広がりました。私たちから始める一歩を、子どもたちの一歩につなげていきたいです。

VI 子どもの成長を共に願って

11月10日(金)に本校で行われた、道徳教育地区別推進協議会では、秋田公立美術大学副学長の毛内嘉威氏より、ご講演をいただいた。その中で、最も印象に残っているのは、「学校には発信力があり、学校が地域や社会とのつながりをつくることで、道徳教育が変わり、子どもの価値観が変わる。」という言葉である。保護者参加型の授業を重ねる度に来校する保護者が増え、協力をお願いすると地域の方も快く引き受けて下さった。今後も、こうした多くの「つながり」を力にすることを基盤とした、家庭や地域と共に飯野っ子の道徳性をよりよく養う「飯野小学校ならではの道徳教育」を推進していきたい。

令和5年度道徳教育全体計画



学年別重点目標		
低学年(1・2年)	中学年(3・4年)	高学年(5・6年)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ○ 友達と仲良くし、助け合う。 ○ 家族など、日頃世話になっている人々に感謝する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 ○ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 ○ 家族など、支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。 ○ 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていく。 ○ 日々の生活が、家族や過去から多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応える。

他教科	
国語	国語で正確に理解し、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。思考力や想像力を養うこと及び、言語感覚を豊かにする。
社会	国土と歴史に対する理解と愛情を育み、自他の人格を尊重する公民的資質・能力を育む。
算数	日常の事象について筋道を立てて考えたり、判断したりできる力を育む。
理科	自然に親しみ、科学的な見方や考え方、自然を愛する心情、問題解決の能力を育てる。
生活	身近な人々や社会、自然と関わる活動を通して、自立し、生活を豊かにしようとする態度を養う。
音楽	音楽を愛好する心情や感性を育み、美しいものや崇高なものを尊重する心情を育てる。
図工	つくり出す喜びを味わい、美しいものや崇高なものを尊重する心情を育てる。
家庭	家庭生活をよりよくしようとする資質・能力や、家庭生活を大切にすることを育む。
体育	粘り強さ、あいさつ、仲間との協力、勝敗を受け入れる、公正・公平な判断、仲間の考え方や取組を理解し、生活習慣の大切さを知り、自己の生活を見直す態度を養う。

要としての道徳科

◎ 児童が自己の生き方についての考えを深められるように、以下の3点を手立てとして道徳科授業の指導を工夫する。

- 1 児童が「多面的・多角的に考える」場を設ける。
- 2 児童が「自己を見つめ直す」場を設ける。
- 3 「家庭・地域とつながる」場を設ける。

家庭・地域との連携

- ・ 授業参観やフリー参観日等で、道徳科授業を全学年実施
- ・ 道徳授業への参加の呼びかけ(複数回)
- ・ 「飯野っ子心のノート」の持ち帰りによる、家庭と道徳の授業内容(価値観)の共有
- ・ 学校だよりや学年だより、ホームページでの道徳教育の発信
- ・ 教育講演会への参加
- ・ 道徳コーナーへの参加

幼保小中の連携

- ・ 学期1回の幼保小中による情報交換会
- ・ 小学校と中学校による授業公開
- ・ 異校種での教員の1日交流授業
- ・ 職場体験
- ・ 交流授業の実施

特別活動

〈学級活動〉
 学校生活の充実と向上のための自発的、自治的活動を促進する。
 基本的な生活習慣と望ましい人間関係を育成する。

〈児童会・クラブ活動〉
 児童の発想を生かした創意ある活動を促進する。
 異年齢集団活動の充実を図る。

〈学校行事〉
 体験的な活動を充実させるとともに、自主的な活動を促進する。
 集団活動を通して、所属感を深めるとともに、規範意識を高める。

総合的な学習の時間

主体的な探究活動を通して、飯野町のよさや伝統等、地域の人々が守り受け継いできたものや思いにも目を向けることを通して、地域への愛着をもつとともに、自己の生き方についての考えを深める。

外国語活動

外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、多面的に思考する態度を養う。

教育環境の整備

学校環境の美化・緑化

道徳教育全体計画 別葉 令和5年度 重点内容項目「親切、思いやり」 第1学年	
つながり 見つけ 一歩踏み出す 飯野っ子 目指す子どもの姿 他者をつながり認め合い、自己をじっくりと見つめようとする子ども よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子ども	
教科等	家庭・地域とのつながり
4月 縦割り活動 ○ 異学年との接し方を学び、上学年に掃除の仕方を優しく教わる。	5月 行事 [運動会] ○ 友達と動かし合いながら競技に取り組む。
4～6月 生活 単元名「がっこうだいすき」 ○ 学校にいる様々な先生にお世話になっていることに気づき、思いやりや感謝の気持ちをもち、お礼の手紙を書いたり、お礼の気持ちを伝える。	7月 主題名「あたたかいこころ」 教材名「はやとのゴール」 【ねらい】相手のことを考えて、優しく接することの大切が分かり、親切な行為をしていこうとする態度を養う。 【振り返り】主人公の気持ちや考え、最後に、自分について振り返り返すこと。親切にすることの大切さへの理解を深めてきた。
8月 国語 単元名「かいがい」 ○ 友達に思いやりを持って接する気持ちをもつ。	9月 学級活動 題材名「かかりのしごとをしよう」 ○ 学級のために友達と活動することの楽しさを感じる。
9月 国語 単元名「カラダで元気」 ○ 思いやりをもって行動する気持ちを育てる。	10月 学級活動 題材名「飯野地元学フィールドワーク」 ○ 地域の方に、地域の名所を案内してもらい、地域に親しむとともに、案内してくれた方に感謝の気持ちを伝える。 【振り返り】「見だこ、聞いたことと実際に訪ねてきたこと。自分を知りたい、お礼の気持ちを伝えたい。自分を知りたい、お礼の気持ちを伝えたい。自分を知りたい、お礼の気持ちを伝えたい。」
10月 生活 単元名「もくもく2ねんせい」 ○ 新1年生を紹介する小学校への期待感をもってもてるように準備、発表をする。	11月 行事 [学習発表会] ○ 仲間と教え合ったり、声をかけ合った練習を、互いに達成感を味わう。
2月 生活 単元名「ちかちか」 ○ 小学校への期待感をもってもてるように準備、発表をする。	12月 生活 単元名「じぶんでできるよ」 ○ 自分でできることを実践する。 【振り返り】「登り物の思いやりの気持ちを伝えたい。登り物の思いやりの気持ちを伝えたい。登り物の思いやりの気持ちを伝えたい。」
3月 行事 [6年生を送る会] ○ お世話になった6年生の姿や、友達と協力して準備をする。	2月 学級活動 題材名「みなななかよし」 ○ 友達の良いところを見つけて、カードに書いて渡す。 【ねらい】相手の気持ちを考え、友達の良いところを見つけて、カードに書いて渡す。 【振り返り】「相手の気持ちを考え、友達の良いところを見つけて、カードに書いて渡す。」
【学年全体の振り返り】 学年全体の振り返り、思いやりの気持ちを伝えること、お礼の手紙を書くこと、お礼の手紙を書くこと、お礼の手紙を書くこと。	【学年全体の振り返り】 学年全体の振り返り、思いやりの気持ちを伝えること、お礼の手紙を書くこと、お礼の手紙を書くこと、お礼の手紙を書くこと。

道徳教育全体計画 別葉 令和5年度 重点内容項目「親切、思いやり」 第6学年	
つながり 見つけ 一歩踏み出す 飯野っ子 目指す子どもの姿 他者をつながり認め合い、自己をじっくりと見つめようとする子ども よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子ども	
教科等	家庭・地域とのつながり
4月 国語 単元名「サボテンの花」 ○ 相手に親切にする気持ちを育てる。	5月 行事 [運動会] ○ 最高学年として、相手の気持ちを思いやり、声をかけ合える。
5月 学級活動 題材名「最上級生の役割」 ○ 最高学年としての役割を確かめ、振り返る。	7月 主題名「悪いを形に」 教材名「温かい行為が生まれるとき」 【ねらい】相手の状況を想像して、温かい思いや行為の関係を多様に考えようとする心構えを育てる。 【振り返り】相手の状況から状況を想像し、相手への思いやりの行為が本人の心にも伝わる。
8月 国語 単元名「かみゆき」 ○ 友達に思いやりを持って接する気持ちを育てる。	6月 行事 [修学旅行] ○ 集団で宿泊することを通して、望ましい人間関係の在り方を身に付ける。
9月 国語 単元名「カラダで元気」 ○ 思いやりをもって行動する気持ちを育てる。	8月 (2組) 11月 (1組) 主題名「私の誕生日」 教材名「家族の無償の愛に気付く、感謝する」とともに、家族の信頼関係と深い絆を大切にしようとする心構えを育てる。 【振り返り】家族の無償の愛に気付く、感謝する。
10月 生活 単元名「もくもく2ねんせい」 ○ 新1年生を紹介する小学校への期待感をもってもてるように準備、発表をする。	10月 行事 [学習発表会] ○ 保護者や地域の方に学習の成果を発表し、仲間と協力して完成していく喜びを味わう。
2月 生活 単元名「ちかちか」 ○ 小学校への期待感をもってもてるように準備、発表をする。	1月 学級活動 題材名「自分のできるボランティア」 ○ お世話になった方々に、自分たちができることを話し合い、活動する。
3月 行事 [6年生を送る会] ○ お世話になった6年生の姿や、友達と協力して準備をする。	1月 学級活動 題材名「本場の親切」 【ねらい】誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立つて親切にしようとする心構えを育てる。 【振り返り】親切な行為が本人の心にも伝わる。
【学年全体の振り返り】 学年全体の振り返り、思いやりの気持ちを伝えること、お礼の手紙を書くこと、お礼の手紙を書くこと、お礼の手紙を書くこと。	2月 家庭科 単元名「共に生きる」 ○ 地域の方を思いやりに、自分ができることを考え、実行する。

令和5年11月10日（金）2校時
場所：1年教室

授業テーマ

おおかみがかくまの優しくなごころにふれ、感動する場面の役割演技で、児童一人一人がおおかみに共感しながら心の中をじっくりと考えることを通して、親切にされたり親切にしたりすることの心地よさを実感することができる授業

1 主題名 親切の心地よさ [B (7) 親切, 思いやり]

2 教材名 「はしの上のおおかみ」(わたしたちの道徳1・2年 文部科学省)

3 本時に寄せる思い

(1) 道徳的価値について

本主題は、低学年の内容項目B (7) 「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を、ねらいとしている。指導内容は、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち親切にすることに關するものである。家族だけでなく身近にいる様々な人々とのかかわりの中で、相手のことを考えて、優しく接することができるようになることは、対人関係において欠かせないものである。そして、相手の喜びを自分のこととして受け入れられるように、親切な行為ができるようになることが重要である。

(2) 児童の実態について

本学級は、素直で優しい児童が多く、誰かが困っていたら自分から声をかけ、励ましたり手助けをしたりする姿が多く見られる。また、学級や学校のために思っていることを進んで行動するなど、様々な人々の関わりを通して、相手の気持ちに気付いたり、想像したりすることができるようになってきた。一方で、相手が困っていることに気付かなかつたり、自分の思いを優先したりする自分本位の考えで行動してしまう児童も見られる。

(3) 教材について

本教材は、大きなくまとの関わりで変化したおおかみの気持ちを考えることを通して、ねらいに迫るものである。一本橋で、自分よりも小さいうさぎやきつねを追い返していたおおかみだったが、大きなくまに優しくされたことから、相手を思いやり、親切にすることの心地よさに気付く内容である。おおかみが、大きなくまの優しい態度に接して、今までの自分の行動を振り返り、誰に対しても思いやりの心をもって接することのよさに気付いた点から、親切にすることの大切さについて考えることができる教材である。

(4) 指導について

指導にあたっては、まず、自分より小さい動物に対しては威張って、優越感を感じているおおかみの気持ちに気付かせる。そして、自分より大きなくまの優しくなごころにふれて感動する気持ちについて、保護者も参加する役割演技を通してじっくり考えさせることで、誰に対しても思いやりの心をもって接することについてより深く考えることができるようにしたい。終末には、これまでの自分、周りの人に優しくすることができていたかを振り返ることで、「親切にすること」について自分事として捉え、身近な人に温かい心で接し、親切にすることの心地よさについて、実感をもって考えることができるようにしたい。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

優しくなごころと出会った場面の役割演技を通して親切にされたときの心地よさに気付く、身近な人に対して思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

(2) 本時のねらいにせまるための手立て

【手立て1】多面的・多角的に考える

役割演技を通しておおかみの心の中について考える際、役割演技を見ている児童からも考えを引き出すことで、温かい心で親切にすることの大切さについての考えを広げたり、深めたりすることができるようになる。

【手立て2】自己を見つめ直す

これまでの自分が、周りの人に対して思いやり、思いやりの心をもって親切にすることができていたかを共通体験である幼小交流活動、学習発表会練習の写真を提示しながら具体的に想起することで、自分をじっくりと見つめることができるようにする。また、どうしてそうしようと思ったのか、できた理由やその時の気持ちについて引き出すことで、親切にすることの心地よさについて実感をもって考えることができるようにする。

【手立て3】家庭・地域とつながる

保護者も児童と同じように役割演技に加わり、児童がおおかみに共感しながらくまの優しさに触れることで、親切、思いやりについての考えを深めることができるようにする。

幼稚園の先生や園児から、幼小交流活動の際の親切エピソードや感謝のメッセージをもらい、その動画を視聴することで、親切にすることの心地よさを感じたり、実践意欲を高めたりすることができるようになる。

5 事前と事後の活動

〔事前〕 幼小交流活動での年下の子との関わりについて振り返る。

〔事後〕 身近な人に優しくなごころを振り返った「心のノート」を保護者に見てもらい、励ましのコメントをもらう。

6 板書計画

7 本時の展開

学習活動	時間	指導上の留意点 ◇手立て ※評価
<p>◎中心発問 ○主な発問・予想される児童の反応</p> <p>1 本時の学習テーマをつかむ。</p> <p>(1) アンケートの結果から、身近な人(親切)にしてみたら、どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この時、どんな気持ちでしたか。 ・ 助けてもらって、嬉しかった。 ・ 優しくされて、心が温かくなった。 <p>(2) 本時の学習テーマをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>やさしくすると、どんなきもちになるのかな。</p> </div> <p>2 教材文を読んで考える。</p> <p>(1) 「はしの上のおおかみ」のお話を聞く。</p> <p>(2) おおかみの気持ちについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ うさぎやきつねを追い返した時、おおかみはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・ 俺は大きくて強いから、先に渡る。 ・ 通せんぼうするのは、おもしろいな。 ・ 言いなりになって、おもしろいな。 ・ いい気持ちだ。 <p>◎ くまに抱き上げられ、反対側に行ってもらったおおかみは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡らせてくれてありがとう。 ・ 俺は、うさぎやきつねに比べて通せんぼうしてしまっただのに、くまは渡らせてくれてすごいな。 ・ 怖いくまだと思っただけれど、優しいな。 ・ 追い返すのではなくて、抱えて渡らせてあげるといいのかな。 	3	<p>○ 親切にされた経験のアンケート結果を提示し、その時の気持ちを考えることで、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識を高めることができるようにする。</p> <p>○ 登場人物と場面を紹介し、教材への関心を高める。</p> <p>○ パネルシアターで教材を提示し、より深く物語の世界に入り込めるようにする。</p>
<p>○ 自分が考えたいおおかみの気持ちを受けて、保護者にはくまの気持ちを話してもらおうようにする。</p> <p>◇ 役割演技を見ている児童からも考えを引き出すことで、親切についての考えを広めたり、深めたりすることができるようにする。【手立て1】</p> <p>※ くまに抱き上げられ、反対側に行ってもらったおおかみの心の中について、自分の考えと友達、保護者の考えを比べて考えている。(発言)</p> <p>○ 親切になると、相手だけでなく自分もよい気持ちになることに気付くことができるようにする。</p> <p>◇ 幼小交流活動や学習発表会練習の写真を提示し、共通体験を生かして振り返ることで、自分をじっくりと見つめられるようにする。また、できた理由やその時の気持ちについて引き出すことで、周りの人に親切にするための心地よさについて実感をもって考えることができるようにする。【手立て2】</p> <p>※ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることができていたか、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。(ワークシート・発言)</p> <p>◇ 幼稚園の先生や園児からの、児童の親切な行動についてのエピソードやそのことへの感謝のメッセージを収録した動画を視聴することで、親切にすることの心地よさを感じたり、実践意欲を高めたりすることができるようにする。【手立て3】</p>	27	<p>・ 何だかすごくいい気持ちだな。</p> <p>○ うさぎを抱き上げて反対側に行ろしてあげたおおかみは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今度は、うさぎに優しくできたいな。 ・ 意地悪おおかみから優しいおおかみになれたぞ。 ・ くまみたいに自分も優しくできたいな。 ・ これからは、いつもこうしよう。 <p>3 自分を見つめ直す。</p> <p>(1) これまでの自分を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの自分は周りの人にやさしくすることができていましたか。 ・ 年長さんとの交流会の時、並ぶ場所を教えた。 ・ 学習発表会の劇の練習で、台詞を忘れた友達に教えた。 <p>(2) 幼稚園の先生や園児からもらった、幼小交流活動についてのお礼のメッセージ動画を視聴する。</p>

授業テーマ

主人公に対する家族の思いを考えたり、保護者の思いを実際に聞いたりすることを通して、家族の深い愛情や願いを感じるとともに、家族に支えられている自分に気づき、かけがえのない存在である家族について考えを深めることができる授業

1 主題名 かけがえのない家族 [C(15) 家族愛, 家族生活の充実]

2 教材名 「私の誕生日」(ふくしま道徳教育資料集 第II集)

3 本時に寄せる思い

(1) 道徳的価値について

本主題は、高学年の内容項目C(15)「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。」をねらいとしている。また、指導の要点に、「家族の一員としての自覚をもって、家庭生活に貢献できる」児童を育成するよう示している。自分の成長を願い、愛情をもって育ててくれている家族に対して、尊敬や感謝の気持ちを持ち、家族の幸せのために自分には何ができるのかを考えることが求められる。家族が信頼関係と深い絆で結ばれていることに気づき、家族や家庭生活を大切にしようとする気持ちを深めることが重要である。

38

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、友達から親切にしてもらったことに対して「ありがとう」と素直に伝えたり、下級生に対して優しく思いやりで接したりすることができている。しかし、家族が自分に対して行ってくれていることに対しては、当たり前のよう感じている児童が多い。東日本大震災の年に生まれた自分たちが、困難な状況の中でいかに守られて育てられたのか話を聞いたとき成長を振り返ったりして、自分に対する家族の深い愛情や願いについて考える機会はない。また、質問紙調査の「自分にはよいところがある」に対して、肯定的ではない回答をしている児童も少なくない。3月に小学校卒業を控える今、家族の深い愛情に支えられながら成長している自分について改めて考えることは、たいへん意義深いことであると考える。

(3) 教材について

本教材では、誕生日が震災の日と同じ3月11日である主人公の春香が、自分の誕生日を祝ってもらっているのか悩むが、春香に対する両親の思いや両親の思いを受け止めた春香の思いを考えるところで、家族の深い愛情に気づくことができる。また、保護者の事前アンケートより、震災の時のエピソードや生まれたときの喜びなど、自分たちの誕生や生育に関わる保護者の思いに触れることを通して、家族の温かな愛情について実感をもって感じ取ることができると考える。

(4) 指導について

指導にあたっては、事前に保護者と児童からアンケートを取ることで、家族に対する互いの意

識を捉える。導入では、「家族はどんな存在か」という児童アンケートの結果から、肯定的な考え、否定的な考えの両面について提示することで、家族に対する問題意識を高めることができるようにする。展開場面における中心発問では、父と母がほえむわいわけや春香が力強くうなずいたときの思いについて、保護者にも話合いに参加してもらい、互いの考えを交流することで、家族の願いや深い愛情に気づくことができるようにする。また、保護者のアンケートから、我が子の出産や子育てにおいて苦労したエピソードをいくつか紹介することで、自分たちに対する親の愛情を受け止めることができるようにする。自己を見つめる段階では、子ども一人ひとりのエピソードをもとに見つめることを通して考えを深めていきたい。終末では、親から子への手紙を読むことで、家族の深い思いを実感できるようにする。また、児童の家族に対する思いを聞いた感想を保護者に話してもらうことで、児童が自己の学びを感じ取ることができる機会にしたい。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

親の思いについて考えることを通して、家族が深い愛情をもって自分を大切に育てていることに気づき、かけがえのない家族を大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) 本時のねらいにせまるための手立て

【手立て1】 多面的・多角的に考える

教材の中で主人公に対する家族の思いを考えたり、保護者から我が子への思いを実際に聞いたりすることで、家族の深い愛情や願いを感じることができるようにする。

【手立て2】 自己を見つめ直す

保護者アンケートや親から子への手紙を通して、震災時の家族の大変さや自分への無償の愛、そして家族に支えられていることに気づき、家族への思いをじっくりと見つめ、かけがえのない存在である家族について考えを深めることができるようにする。

【手立て3】 家庭・地域とつながる

保護者の授業参加により、児童と保護者が互いの考えを交流したり、子への思いを直接伝えたりもつたりすることで、家族の深い思いを実感できるようにする。また、児童の家族に対する思いを聞いた感想を保護者に話してもらうことで、児童が自己の学びを感じ取ることができるようになる。

5 事前と事後の子どもの活動

[事前] ○ 事前アンケートで、自分にとっての家族の存在について振り返る。

[事後] ○ 「飯野っ子心のノート」を持ち帰り、自分の思いを家族に伝え、コメントをもらう。

6 板書計画

家族の思い

家族への自分の思い



三月十一日に
誕生日を祝って
いいのかな。

家族にとって大切な存在だよ。

- ・ 元気に育つてね。
- ・ 生まれてきてくれてありがとう。
- ・ 家族にとって大切な存在だよ。

家族のみんなが私の誕生日を喜んでくれていて、大切にされているんだよ。

自分にとって、家族とはどんな存在なのだろう。

7 本時の展開

学習活動	時間	指導上の留意点	手立て	※ 評価
<p>◎中心発問○主な発問・予想される児童の反応</p> <p>1 本時の学習テーマを設定する。 (1) 自分がとって、家族はどんな存在なのか、アンケート結果を基に考える。 ・ 助けてくれる。 ・ 応援してくれる。 ・ いつもそばにいてくれる。 ・ うるさいときもある。 (2) 本時の学習テーマをつかまね。 自分にとって、家族とはどんな存在なのだろう。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族に対する肯定的な考え、否定的な考えの両面について提示することで、家族に対する問題意識を高めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指向上的留意点 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 評価
<p>2 教材文を読んで考える。 (1) 「私の誕生日」を聞く。 (2) 父母の思いやそれに対する春香の思いを考える。 ○ 誕生日に思わずつぶやいてしまった春香は、どんなことを考えたのだろうか。 ・ たくさんの命が失われた3月</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらすじや登場人物を紹介し、話の内容を捉えやすくする。また、震災から1年経った後も、未だに行方不明の方や避難している方がいる状況であることを押さえる。 ○ 1年前の震災で未だつらい思いをしている人がたくさんいる中で、自分が誕生日を祝ってもらうことを迷う春香に共感できるようにする。 ○ 父と母の思いやそれに対する春香の思いを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導上の留意点 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 評価

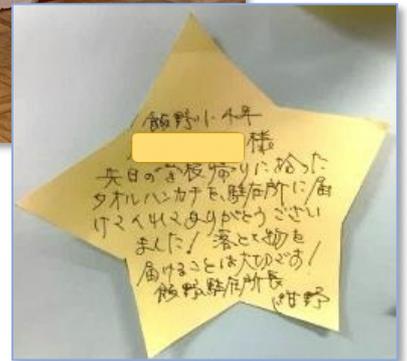
<p>11日に、誕生日を祝ってもらっているのかな。</p> <p>◎ 父と母は、どんな思いで春香の方を見て(おはえん)でいたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元気に育つてね。 ・ 生まれてきてくれてありがとう。 ・ 家族にとって大切な存在だよ。 <p>○ 春香は力強くうなずいたとき、どんなことを考えていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族のみんなが私の誕生日を喜んでくれていたのかな。 ・ 家族に大切にされているのかな。 <p>3 保護者の我が子に対する思いを紹介する。 ○ おうちの人は、どのような思いでみんなのことを育ててきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災時、子どもたちを守ることで必死だった。 ・ 生まれてきてくれたことが、とても嬉しかった。 ・ 笑顔を見ると、大変なことも忘れられる。 ・ 元気に育ってほしい。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 参加している保護者からエピソードを直接聞くことで、親の我が子への切実な思いについて考えられることができるようにする。【手立て3】 ○ 保護者に対する事前アンケートを基に、事前打合せを行い、話す内容について決めておくようにする。 	<p>ことで、家族の願いや愛情について気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 保護者も交えたグループでの話し合いを設定し、友達や保護者と考えを交流することで、自分の考えと同じところや違うところを見つけ、考えを広げたり深めたりできるようにする。【手立て1】 ※ 父母の思いについて、自分の考えと友達の考え、他者の考えを比べて考えている。(発言) ○ 家族の思いを受け止めた春香に共感し、温かな心について感じることができるようになる。
<p>4 自己を見つめ直す。 (1) 家族に対する思いを伝え合う。 ○ 自分とはどんな時に、家族に大切にされていると感じるのだろうか。 ・ おいしいご飯を作ってもらった時 ・ 看病してもらった時 ・ 自分の考えを尊重してもらった時 ・ だめなことをだめだと言ってもらえた時 (2) 保護者の感想を聞く。 ○ 子どもたちの家族への思いを聞いて、どのように感じましたか。</p> <p>5 保護者からの手紙を讀む。</p>	13	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分が家族に大切にされていると感じたことについて、じっくりと考える時間を確保する。家族にとって自分も大切な存在であることについて考えられることができるようにする。【手立て2】 ※ 家族の思いを受け止め、自分が家族に大切にされていると感じたことについて、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。(心のノート・発表) ◇ 参加した保護者に、感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返ることができるようになる。【手立て3】 ◇ 事前に親から子への手紙を書いてもらい、子ども一人一人が家族の愛情を実感できるようにする。【手立て2】 	<p>ことで、家族の願いや愛情について気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 保護者も交えたグループでの話し合いを設定し、友達や保護者と考えを交流することで、自分の考えと同じところや違うところを見つけ、考えを広げたり深めたりできるようにする。【手立て1】 ※ 父母の思いについて、自分の考えと友達の考え、他者の考えを比べて考えている。(発言) ○ 家族の思いを受け止めた春香に共感し、温かな心について感じることができるようになる。

資料6

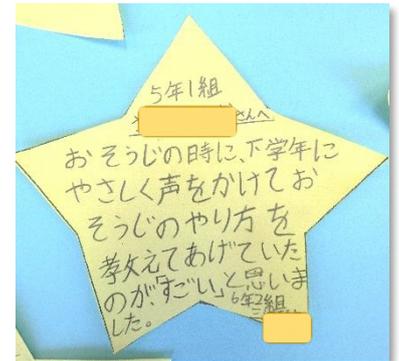
〈思いやりの星カードが輝く「全校道徳コーナー」〉



〈星カードが重なり合う「学級道徳コーナー」〉



飯野駐在所長さんから4年生へ



6年生から5年生へ

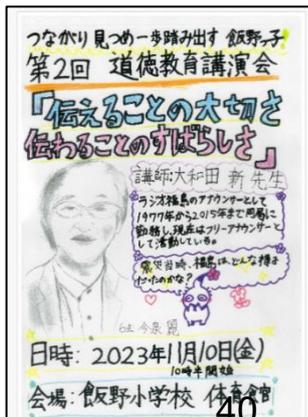
資料7

〈「道徳教育講演会」に向けた児童の取組〉



第1回道徳教育講演会

第2回道徳教育講演会



家庭・地域と育む道徳教育

「地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成」

～家庭、地域と共につくる道徳教育を目指して～

つながる姿

友達とつながる



〈思いやりの姿を見つけ合う姿〉



〈友達と思いを伝え合う姿〉

家庭とつながる

いつも本当に助かっています。たくさんの手伝いに感謝しています。いつもありがとう。私の右うでだよ。

〈5年：振り返りカードへの保護者コメントより〉

子どもが生まれるということは、両親が大切に、望んで生まれてきたのです。けんかもするでしょうし、嫌なこともあるでしょう。でも、我が子を大切に思わない親はいないのです。…

〈6年：保護者アンケートより〉

相手を思って動き出す



〈上級生が下級生に寄り添う姿〉



〈児童会で募集・作成した「親切、思いやり」キャラクター〉

家庭とつながる



〈保護者に認められる姿〉



〈友達と思いを伝え合う姿〉

地域とつながる



〈地域の方の体験談を聞く姿〉

見つめる姿

仲間と共に考える



〈友達の思いを自分事として受け止める姿〉



つながり
見つめ
一歩踏み出す
飯野っ子

一歩踏み出す姿

勇気を力に一歩踏み出す



〈地域の方に作成したポスターを届ける姿〉



〈思いを受け止め自ら質問する姿〉

保護者と共に考える



〈保護者との役割演技で考えを深める姿〉



〈保護者の体験談に引き込まれる姿〉

《参考文献》

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編 / 文部科学省
- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編 / 文部科学省
- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編 / 文部科学省
- 令和4年度道徳教育の礎（いしずえ） / 福島県教育委員会
- ふくしまの「授業スタンダード」 / 福島県教育委員会
- 令和5年度学校教育指導の重点 / 福島県教育委員会
- 令和5年度【県北版】学校教育指導の重点 幸せを紡ぐ県北の教育 / 県北教育事務所
- 教材研究のとびら / 県北教育事務所
- 令和5年度学校教育指導の重点 / 福島市教育委員会
- 日々の授業・保育の充実に向けて 令和4年度学校訪問の総括 / 福島市教育委員会
- こだわりの道徳授業レシピ～あなたはどんな授業がお好みですか？～ / 浅見 哲也 著
- 道徳科 授業構想グランドデザイン / 浅見 哲也 著
- 「生活・総合」の新しい授業づくり / 田村 学・齋藤 博伸 監修



〈地域の方のあいさつに迎えられて登校する姿〉



〈始業式の校長先生のあいさつより
～思いやりいっぱいの学校に～〉



〈昼休みにお気に入りの「おもいやりん」を描く姿〉

研究主題 「対話的な学び」のある道徳科の授業実践

～「発問」と「問い返し」を授業づくりの主軸として～

いわき市立中央台東小学校 教諭 久保木 壮平

I 研究主題設定の理由

1 道徳科における「対話的な学び」

学習指導要領では道徳科の目標を次のように示している。

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

このような児童の姿は「対話的な学び」を創り出すことによって実現できる。それは単に「活発な伝え合い」ではない。教材や課題との対話、教師・児童同士・学級全体との対話、過去・現在・未来の自分との対話などを通して、自分の生き方について考えを深めていく学びである。

中教審答申(2016)では、道徳科の「対話的な学び」として『道徳的な問題を自分事として捉え、議論し、探究するプロセスを重視』するとしており、その例として『自我関与を中心とした学習』『問題や課題を主体的に解決する学習』『道徳的行為に関する体験的な学習』が挙げられている。

2 児童の実態と過去の実践から

担任する学級(5年)の課題には、主に次の2点が挙げられる。

1点目に、発言や話し合いに対する積極性の二極化である。自信が無く「全体での対話」で発言する意欲が低い児童が多く、ペアでの交流は「対話」に至らず「伝え合い」に留まることも多い。積極的な特定の児童による発表だけでは、「意見発表会」に過ぎない。昨

年度1学年を担当した際の「二わのことり(親切、思いやり)」の一場面を挙げる。

【発問】迷いながらうぐいすの家に行ったみそさざいは心の中でどんな事を考えていたかな。㊦㊧

- ・寂しそうだな。やまがらさん、ごめんね。
- ・ぼくだけでも行けばよかったのかな。
- ・皆と一緒に来ちゃったけど、どうすればよかったのかな。(略)

【問い返し】迷う気持ち、皆は分かる?㊨㊩

- ・分かる。(多数) ・演奏会の練習も大事。
- ・途中で抜ければ、どっちにも行けるよ。
- ・やまがらさんどうしてるかなって心配。
- ・「よし行こう」って思ったと思う。

問い返し以降は、自由な対話である。

2点目の課題として「きれいごと」に終始する傾向である。「きれいごと」も授業としては貴重な意見だが、『なかなか実現することができない人間の弱さ(学習指導要領)』を問い返し、対話したい。 ※以下は続き

【問い返し】でもやまがらさんの家は遠いし行かなくても仕方ないのかもしれないね。㊪㊫

- ・仕方ない…。 ・仕方くない!(略)
- ・誕生日は年に1回。・今すぐ行くよ!って。

【発問】そして、行くことを決めたんだよね。飛んで向かいながら心の中で何て言ってる?㊬㊭

- ・もう寂しくないよ。 ・悲しまないで。
- ・ぼく一人でもいいから行かなくちゃ!
- ・やまがらさん、本当にごめんね。(略)

【問い返し】小鳥達は仲良しじゃなくなったかな㊮

- ・それはない! ・どっちも仲良し。

【問い返し】でも抜け出しちゃった訳でしょ?㊯

- ・本当のことを話せば分かってくれると思う。

・どっちも大事。 ・次からは皆でやまがらさん家に行ったり、皆で練習したりできる。

【問い返し】そっか。じゃあ、仲良しになるには、どういうことが大切なんだろうね。㊦㊧

・優しさ。 ・思いやり。 ・悲しませない。
・一人だけにしないこと。 ・どっちも大事にする。 ・相手の気持ちを考えて行動する。

㊦㊧は「弱さ」の立場からの問い返し、㊦は自我関与させる発問、㊧は主人公の行為の背景を考えさせる問い返し、㊦は複数の側面から価値を統一的に創る問い返しである。内容項目を理解させる授業ではなく、考え議論し価値を統一的に捉えさせたい。本時の内容項目「親切、思いやり」で考えれば「困っている人は助ける」と幼い年齢でも言えるが、『「自分が主人公だったら」と投影的に考え(2019 永田)』、『価値がもつ意味の複数性を多面的に考える』『条件や観点の多様性を多角的に考える』必要がある。(2020 高宮)

以上2点から、発問と問い返しを「セット」にすることで、話合いに広がりや深まりが生まれることを実感し、今年度はその点に着目して授業を実践したいと考えた。特に重点を置くことは、①「伝え合い」ではなく「話合い」にすること、②「全体での対話」を授業の根幹に据えることである。

3 文献研究から

(1) 教師や友達との「対話的な学び」

「対話的な学び」とは、『子供同士の協働、教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める(浅見 2021)』ことである。道徳科での「対話」は「考え、議論する」ことだが「議論」は目的ではなく手段である。内容項目に書かれた文言に縛られ、『価値観の押し付けであり絶対的なものとして指導すべきではない(2020 高宮)』。『道徳的価値観の多様さ(他者理解)、自分に引き付けて考えること(自己理解)、人間としての弱さ・強さ(人間理解)などを引き出す(永田 2017)』ことが授業に求められる。また、『「全体での話合い」を授業

の根幹に据えることでブレずに筋が通り、授業にストーリーが生まれ、学級づくりに直結(2019 加藤)』するのである。

(2) 「発問」と「問い返し」について

『「発問で内容項目や教材の内容にググッと迫る直球道徳」で(略)「二球目以降の変化球で LIVE 感を」(2022 中村)』大切に。二球目以降の変化球＝問い返しである。「発問」は『問題発見的・問題解決的・吟味・批判・創造・汎用・自我関与・価値追求(2018 柳沼)』の8視点がある。「問い返し」は『「意見発表会にならないために①別の子に言い換えさせる ②比較検討させる ③即答できない問い返しをする」ことで「自らを問うために考えるポイントを返す」(2019 加藤)』ことが重要である。また『教材に自我関与させた上で(略)連続性を意識し「教材と経験を行き来させる」(2021 森岡)』こと、『話合いで「合意形成させること」「個人思考の差を埋めること(2020 大野)』も効果的である。

II 研究仮説

教師が「発問」と「問い返し」を工夫した「対話的な学び」のある授業を実践することにより、児童は多面的・多角的に考えを広げ、自分の生き方について考えを深めることができるだろう。

III 研究計画

1 研究内容

(1) 発問と問い返しの例と活用

ア 効果的な発問

イ 効果的な問い返し

(2) 「全体での対話」における発問と問い返し

ア 対話で児童個々の価値を創る

イ 対話で固定観念を覆し、見方を広げる

ウ 対話で「人間の弱さ」に迫る

エ 対話で深め、「気付き」を創る

(3) 「全体での対話」から「自分との対話」へ

ア 対話で、教材と実生活を往還させる

イ 対話で本時の学びを整理する

2 研究方法

(1) 研究の対象 令和5年度5年2組27名

(2) 検証のための資料

授業観察（発言・反応）、授業の撮影映像、児童の記述、板書写真、児童の写真等

IV 研究の実際

(1) 発問と問い返しの例と活用

ア 効果的な発問

以下、文献や筆者の実践をもとに、効果的な発問を年度毎に更新している一覧である。

普段よく用いる主な 発問 例	
導入	○○とは何か。（価値のイメージ） ～についてどう思うか。（現在の思い） ～ことはあるか。（教材文に似た経験）
展開前段	何が問題になっているか。（問題発見） どんな気持ちか。 A （心情・自我関与） どんな思いからか。 B （行為の根拠） 本当ならどうすべきか。（希望的判断） なぜそうしたのか。 C （判断の理由） 自分ならどうするか。（投影・判断） 自分なら何と言うか。 D （投影・自我関与） 主人公の行為をどう思うか。（客観視） 結果、どうなただろう。（因果性） どうしたら納得できるか。（納得解） どちらがよいか。（最善解、比較検討） 自分ならどう感じるか。 E （自我関与） 相手はどう思っただろうか。（可逆性） どんな事を考えているか。 F （多様に） この後どうしただろうか。（未来・創造）
展開後段	皆で言えば、例えば？（実生活へ） 自分も～だったことはあるか。（共感） ～できなかったことはあるか。（共感） どう思ったか。（ある場面の心情から） 大切なことは何か。 G （学びの整理）
終末	～とは何か。 H （再度問い、変容をみる） 今思うことは何か。 I （本時の振り返り） 学んだことは何か。（自分・友達から） 今までは（過去）・今日は（本時）・これからは（未来）…書き出し例3点提示

発問は、導入1つ・前段2つ・後段1つ・終末1つ程度としている。前段・後段を1つ

の大きな問いで貫く時もある。事前に用意するが、児童の思考に沿って問うため、問い方や言い回しはワークシートに載せず、その場の判断で決定する。「どんな気持ち？」と問えば「嬉しい、悲しい、清々しい」など心情を表す言葉で返ってくるが、「なぜ」と問えば背景や心情を考察し「～だから」と理由付けて返ってくる。想定通りいかないのが「全体での対話」であり、その場で生まれる問いで繋いでいくことで話合いは広がり、深まる。

イ 効果的な問い返し

『向かう方向を（教師が）見据えながら、自分達ので行き着くために、考えるべきポイントを問うて返す（2019 加藤）』必要がある。以下は普段よく用いる問い返しの例である。
※①～③は前述 I, 3 (2) (2019 加藤) の分類。

普段よく用いる主な 問い返し の例	
①	今の意見はどういうことか。 J （具体化） 他に見方はあるか。（視点を広げる） ～の気持ち、分かる？ K （多角的に） 同じような経験はあるか。 L （自我関与） 仕方ないのでは…。 M （弱さに迫る） ～どうすればよいのか。（行動・判断）
②	もし～できなかつたら。（逆の仮定） どちらが大切か。（対立的価値の葛藤） この2つは同じか、違うか。 N （比較） 大切なことは何か。 O （学びの整理） ～するといいんだね？（限定） 違い（共通点）は何か。 P （比較・焦点化） 今後に どう生かせるか。（汎用性） この○○は○○か。（板書の活用） ここは（それは）なぜか。 Q （内容・文脈）
③	本当にそれでいいのか。（吟味・批判） 本当に～だろうか。 R （価値・本音に迫る） ～できているか。（理想と経験の矛盾） なぜ大切なのか。（価値への気づき） 自分達はどうか。 S （実生活へ広げる） 相手が誰でもできるか。 T （普遍的に）

児童と共に授業を創る LIVE 感を大切にするため、用意した問い返しの半分以上は使わ

ず、その場で児童の発言に合わせて考え、問い返していく。問い返しは授業の方向性を大きく左右する。あえて分からないふりをして沈黙を創る演技も、児童の次の呟きを創る「返し」の一つだ。やっと言葉になるほどの児童の小さな呟きも拾いたい。

以下④～⑩は、上記一覧から活用した。

(2) 「全体での対話」における発問と問い返し

毎回の授業で「ペアでの対話」（固定ペア・自由ペア）は数回取り入れる。消極的な児童も含めた全員の対話の機会を確保し、自他の意見を比較させるためである。しかし、授業の根幹は「全体での対話」（I, 3 (1)）であるとともに、最もコーディネートが難しく、最大の課題である。そのため(2)以降は「全体での対話」のみに着目して述べることにする。

ア 対話で児童個々の価値を創る

「遠足の子ども達」（善悪の判断、自律、自由と責任）（資料1①）

【発問②】ルールを守る小学生を見て、「私」が爽やかな気持ちに変わったのはなぜか。◎

- ・静かだったことで気持ちが楽になったから。
- ・思っていた小学生ではなかったから。
- ・静かで「休める」と思えたから。
- ・きまりを守る姿を見て爽やかになったから。
- ・自分も落ち着くことができたから。（略）
- ・ルールを守った小学生もいると知って、決めつけている自分に気付けたから。

【問い返し】なぜ、行動できたの？ ◎

- ・ルールを話合ったから。 ・ルールを守ったから。
- ・自分で考えて自由に行動したから。（略）

【問い返し】大きく2つ、何が挙がった？

- ・ルールを守ること。 ・自分で考えて、自由にしていること。（略）

【問い返し】その2つは同じ？違う？ ⑨

- ・全然違う！（多数） ・全く逆。 ・違うかな。
- ・自由と…きまりは…。 ・違くもないか。
- ・いや、全く違う訳ではないんじゃない？
- ・何をしてもいいって訳ではないよ。（略）

【問い返し】ルールと自由は、同じもの？⑩

- ・50、50じゃない？ ・99.9%違う。
- ・反対に感じる…。 ・けれど全く違う訳ではない。
- ・どっちも「自分で考える」ってことなんだよ。
- ・んー…どっちも「自由」に考えるんだよ。
- ・どっちにしても自分で一度考えること。（略）

【問い返し】ちょっと待って？最初に「自由って何」って聞いたら「好きなように」「決まり・縛りが無い」「好き勝手」「思い通り」って挙がってたよ。じゃあ「自由」はどっち？⑨

（※板書の「ルール」「考えて行動」を指す）

- ・自由はルールにも入る。 ・入る！（多数）
- ・いや、ちがう。入らないでしょ？
- ・でも…待ってよ。 ・ルールに入る訳ではないけど、ルールは「しましょう」なんだよ。
- ・自分で考えるかが大事でしょう？ （略）
- ・どっちにも入らないかなあ…。 （児童N）

【問い返し】Nさん、今なぜそう思った？◎

- ・ルールを守れば自由にしてもいいけど「自由だ」って言うと、何も考えてないみたい…
- ・自由とは言っても、何をすべきか自分で考えなければならないと思う。
- ・「自分の考え」があるか無いかが大変。（略）
- ・「自由」でも、何が大事かを考えるんだよ。（略 ※休み時間の「自由」が話題に）
- ・自由の範囲を自分で決めることが大切。
- ・ルールの範囲の中で自由にすること！
- ・それだと、ルールあつてのことじゃん？
- ・何をしてもいいの。でも、考えるの！（略）
- ・自由の中にも思いやりが大事なんだよ。 ※ア

【問い返し】思いやりかあ。なるほどね。

- ・思いやりがルール。 ・さっきYさんが「廊下は走らない」って言ったけど、怪我をする人が出るから他の人を思いやって、自分なりの範囲を決めて生活することが大事。
- ・自由の中にもルールがあつて、ルールの中にも自由がある。
- ・えー、だけど…それじゃ自由じゃないんだよな。「自由」なのにさ。ルールってなると絶対に守らなきゃならないじゃん。（略）
- ・周りの人、相手が嫌な思いをしないか…そ

ういうことを考えながら行動するのが自由。

【発問③】 (略) 今日の課題だった「自由とは～」改めて考えて、書いてみましょう。㊦

- ・ 限度を超えずに楽しく過ごすこと。
- ・ 嫌な思いをさせず、ルールもある中で楽しく好きなようにすること。
- ・ 自分も他人も嫌な気持ちにならないように、自分で範囲を決めて自由にする事。
- ・ 自由とは、やっつけていいことと悪いことを考えて、人を思いやること。 (略)

【児童の記述】

- 何をしてもいい。でも自由の中には範囲がある。嫌な気持ちになる人がいたらそれは自由の範囲を越えている。
- 相手も自分も嫌な気持ちにならないこと。範囲を越えずにやりたい事をやること。

(写真①)



【結果・考察】

内容項目「自由～(略)」の授業をする際、相反する内容項目はおよそ「規則の尊重」だろう。2つの『価値・反価値の「価値葛藤の場」(2018 荒木)』がモラルジレンマである。当然、自由も規則も大切であり、どちらかに偏ると社会の秩序は壊れる。バランスが大切だからこそ「何が大切か」と問う価値がある。どちらが大切かを結論付けるのではない。ジレンマを自分事として捉え、道徳的な判断力を高めていくのだ。前述※アは内容項目で言えば「親切、思いやり」であり、【発問③】にかけて①自由、②規則、③思いやりに派生している。これは「ブレた」のだろうか。『一つの事象は複数の価値が関連し合っていて(略)得たことを統合的に考えたり、新たな考え方を発展的に生み出したり(2021 赤堀)』とあるように、「自由の中に規則も思いやりもあって…」と児童が統合的に理解することが価値理解なのだ。道徳科での「まとめ」は、

終末での児童一人一人の発言や記述である。

イ 対話で固定観念を覆し、見方を広げる

「お父さんは救急救命士」(勤労、公共の精神)

(資料1②)

【発問①】お父さんは人工呼吸をしている時、どんなことを考えていただろう。㊦

- ・ 呼吸が戻ってくれ。 ・ 死なないで…。
- ・ 救急車はまだか。 ・ この子を助けなきゃ。
- ・ この子の命は絶対に助けるんだ！
- ・ ここでやめてしまったら負けだ。 ※イ(略)

【問い返し】負けってどういう事だろう。㊦

- ・ 救急救命士としての負け。 ・ プライド？
- ・ 覚悟。 ・ 人を助ける為に働いてるから。(略)

【問い返し】…でも最初の皆の意見、働くのは「お金・生活・家族のため」って… ※ウ

- ・ ああ、そっか。 ・ 人を助けるために救急救命士がいる…。 ・ お金だけじゃなくて…。
- ・ 自分は救急救命士だから、休みの日だけど、仕事の役割を果たしたいから？
- ・ 仕事を全うする。 ・ プライドがあるから。
- ・ 人のために。 ・ 皆のために働く。

【発問②】人のためと思って人工呼吸をするお父さんを見て主人公はどう思ったかな。㊦

- ・ お父さんのように人を助けたい。 (略)
- ・ お父さんはどんな時も人のために頑張ってるから、私も人の役に立ちたい。
- ・ 私も救助を手伝いたいけど今はできない。
- ・ これが「助ける」ということか。
- ・ 覚悟をもって仕事をしている。 ※エ

【問い返し】「覚悟」なるほどね。今日の課題をもう一度。人は何の為に働くのか。㊦

- ・ 人のため。 ・ 皆のため。 ・ 世の中のため。
- ・ 人の役に立つため。 ・ 他の誰かを支えるため。 ・ 自分のため。 ・ 嬉しさがあるから。

【問い返し】皆はどんな時に嬉しく感じる？㊦

- ・ 誰かの役に立った時。 ・ 何かを達成した時。
- ・ 喜んでもらえた時。 ・ やりがいを感じた時。

【児童の記述】

- 皆のため誰かのために働くことは自分のためになるのかもしれない。

○「なぜ当番の仕事を続けるの？」と聞かれた時「楽しいから」と言える人になりたい。

【結果・考察】

「～すべきだ」という価値観は、小学校2・3年生くらいで大体言葉として言えるものだろう。しかし「人のために働くべきだ」と分かっている、委員会や当番、行事の運営など役割が増えてくる高学年になるにつれて、仕事を「面倒だ」と言う児童が増える傾向がある。高学年での「勤労、公共の精神」は「報酬や見返りを求めない働きへの対価＝やりがい、喜び」を実感できるかが重要である。やりがいや喜びの無い勤労は「大変、辛い、面倒」という苦役になる。本時は小学生と社会人の勤労が大きく異なる点「報酬」に焦点を当てるため、利益や報酬と無関係な「負け」※イという発言を拾い、問い返した。この教材は、休日の救急救命士の救助だ。『予定調和をひっくり返す(2019 加藤)』ことで、働くことへの固定観念を覆したいと考えた。導入の意見※ウは予想していた反応であり、導入との矛盾点を問い返し、人の為に働く喜びや嬉しさ、覚悟※エに感覚を広げたい思いがあった。

(写真②)



ウ 対話で「人間の弱さ」に迫る

「駅前広場は誰のもの」(規則の尊重)(資料1③)

【発問①】放置自転車やゴミを見て、自分ならどう思いますか。㊦

- ・汚い街だと思われるし、迷惑をかけてモヤモヤしてしまう。・自分で拾ってほしい。
- ・自然を大切にできてない。・なぜここに放置？
- ・拾う人がどんな思いをしているのか。(略)
- ・なぜ捨てるのか。面倒くさいと思うのか。
- ・1人ルールを破ると皆「いいや」って思う。

【問い返し】「拾う人の思い」っていう意見も拳がったけど、どんな思いで拾うんだろう。

さっき、クリーン活動でゴミ拾いたね。㊦

- ・なんでこんな所にゴミ？ ・汚かった…
- ・いっぱいありすぎ。・本当にやめてほしい。
- ・なんで？ どういう気持ちで？ って。(略)

【問い返し】なぜポイ捨てるんだろう。㊦

- ・癖がついちゃってる。捨てる癖。
- ・捨てる時、拾う側は気持ちよくないはずだし、捨てる側も気持ちよくはないのに。
- ・捨てるほうも？ ・皆気持ちよくはない。
- ・自分も、気持ちよくないでしょ。
- ・でも「別にいいだろ」って思うんじゃない？

【問い返し】「ポイ捨てるはダメ」なんて小さい子でも分かるって最初に皆言ったね？でもなぜポイ捨てるは無くなるのか。※オ㊦

- ・気持ちに、悪い癖がついちゃってる。(略)
- ・そうやって昔から捨ててたのかもしれない。
- ・バレなきゃいい、見えない所ならいいって。
- ・奥の方なら、誰も見てないなら…って。
- ・「いいや」っていう気持ちがあるんだよ。
- ・心の隅っこに「別にいいや」がある。※カ

【児童の記述】

- 皆が生活しやすいようにきまりを作り、それを守り、皆が気持ちよく過ごすため。
- きまりを破ってまでやったことは、結局自分のためにならないと思う。

【結果・考察】

学習指導要領「規則の尊重」では、5・6学年は『きまりの意義を理解し(略)自他の権利を大切に』とされている。「ポイ捨てる・違法駐輪はよくない」程度で留まれば、1・2年『きまりを守り(略)物を大切に』の段階である。目標の解説には『道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さを理解する』と書かれている。つまり「人間理解」は『教材の中の悪人探しではなく、自分にもある弱さを自覚すること(略)自我関与によって価値の自覚を促すこと(2020 高宮)』が重要なのだ。それを踏まえ※オの問い返しを入れた所、※カのような意見が出た。この後「きまり」についての考え

を記述させたが、人間の弱さを知った上で、さらに自分を見つめさせる時間を多く確保できなかったことが反省点である。



(写真③)

エ 対話で深め、「気づき」を創る

「同じ空の下で」(国際理解、国際親善)

(資料1④、資料3)

【発問②】あなたと世界中の(写真の)子ども達「同じ」「似ている」ことはどんな事?⑥

- ・家族がいること。 ・感情の表し方。(略)
- ・嬉しい、楽しい、悲しい、感情があること。
- ・仲間と一緒に遊んだり笑ったりすること。
- ・一人の人間であること。 ・誰かを慰めること。
- ・自分の目標に向かって努力していること。
- ・同じ地球に住んでいる。同じ気持ちになる。

【問い返し】国は違うんだよね。でも今挙げた意見から…どういことが言える? ①

- ・全てが違う訳ではない。(同様多数、略)

【問い返し】この(写真)海外の子ども達と皆は「友達」ですか? ※ケ

- ・んー、友達… ・友達ではないけど…(略)

【問い返し】「関係がある人」ですか? ※ケ

- ・関係…。 ・関係が無いとは…言えない。
- ・少し、関係している。 ・同じ、「人」。
- ・同じ地球に住んでるから…。
- ・関係が無いとは言い切れない。(略)

【問い返し】なぜ、そう思う? ※キ②

- ・同じ地球に住む、同じ人間だから。
- ・「人」だということは、繋がってる。
- ・繋がろうとすれば、繋がるかもしれない。
- ・寄付とか、リモートとか? ・んー…。

【問い返し】繋がることは難しいのかなあ。今日の課題「遠い国」なんだろうね…? ※ク

- ・遠いけど、近い。 ・遠いようで近い。
- ・人として考えれば近いんじゃない?
- ・国と国は遠いけれど、人と人は近い。(児童H)

【問い返し】Hさんが言ってることって、どういうことだと思う? 皆は。 ※キ①

- ・場所は離れてる。でも一人一人の存在価値は同じだし、「人」は近いと思う。(皆頷く)

【発問③】(略)5秒に1人亡くなっているという話は衝撃だったね。(日本の医療現場・食料廃棄の写真提示)今、何を思いますか。①

- ・その人達の為にどうしたらいいんだろう…。
- ・その人達の分まで生きる、とか…?
- ・私達が勉強したり遊んだりしてる5秒に1人が亡くなっていることが本当に可哀想。
- ・今自分は子どもだから、できることは少ないけど、できることは何だろうって思った。

【問い返し】今の自分。何ができるだろう。

- ・募金。 ・寄付。 ・食べ物を残さない。(略)
- ・フードロスってよく聞く。 ・結構残してる。
- ・人生の1秒1秒を大切に生きることが大事。
- ・そういう事実を、まず知ったり思ったりすることが大事なんだと思う。(略)

【問い返し】授業の最初、皆「遠い国」って言ってたけど…どう? ※ク④

- ・物理的に遠いだけかも。 ・人としては近い。
- ・距離も、近いのかもしれない。



(写真④)

【児童の記述】

- 声は届かなくても、知って思ったり応援したりすることが大切。場所は遠いけど、近い存在であることが分かった。
- 遠い国だとしか考えてなかったけど、自分と近い所もあるから関係していて、人として近いんだなと思った。

【結果・考察】

「遠い」と「近い」という簡単で真逆のワードで揺さぶりながら45分間を貫き、物理的な距離と心理的な距離に気付かせたいと考えた。令和5年度の本校は校内研修で外国語教育を研究してきたことも踏まえ、単なる「第二言語習得」に捉われず、他国を「近い」と

感じさせ、他者理解・国際理解の感覚を広げさせることが、次へのステップだと感じていた。教師の思いが強いほど問い返しが多くなることは反省点だが、問い返しは「拾う・広げる・覆す・揺さぶる・迫る」だけでなく、時には「気付かせる」効果もあり、『吟味を促す(2018 柳沼)』視点も大切だ。

また、前述 I, 3 (2) 『①一人の発言を別の子に言い換えさせる※キ、②比較検討させる※ク、③子どもの発言を受けて、即答できない返しをする※ケ』も効果がある。(2019 加藤)

(3) 「全体での対話」から「自分との対話」へ
ア 対話で、教材と実生活を往還させる

「心のレシーブ」(友情、信頼)(資料1⑤)

【問い返し】「いつも一緒」じゃない人は仲間ではないんだね? …ん? じゃあ、何?

- ・友達と仲間は少し違う気もするんだけど…。
- ・違うの? ・え、何だろ。(略)

【問い返し】皆は仲間を理解できている? ※コ①

- ・はい(1/3) ・いいえ(1/3) ・微妙(1/3)

【問い返し】できてない人はなぜそう思う? ②

- ・まだまだ知らない部分がある…。(多数、略)

【発問③】心が一つになったのはなぜだろう。③

- ・(多数、略) ・お互いの頑張りを理解したい。
- ・言葉を掛け合うことが大事。 ・相手のことを分かったから。 ・仲間の頑張りが分かった。
- ・一人が頑張ると周りも前向きになる。(略)
- ・仲間の努力を認めて、受け入れたから。
- ・チームの中で気持ちが重なったから。

【問い返し】重なった事、ある? ※コ④

- ・あります(多数) ・運動会とか ・激励会
- ・「勝ちたい」「頑張りたい」が重なる。
- ・気持ちが一つにまとまるっていうか…。

【問い返し】皆もそういう時ある? ※コ⑤

【発問④】この話のように友達のよい所や頑張りを見つけて受け入れた時、ある? ※コ⑥

- ・一輪車が初めは苦手だったけれど、一緒に遊んだり教えてくれたりして上達できた。
- ・怪我した時に、心配して励ましてくれた。

- ・私が算数が苦手なことを、分かってくれて授業が終わっても教えてくれた。
- ・男子女子って区別しないで「頑張ろう」って友達が言っていたのがすごいなと思った。

(写真⑤)



【結果・考察】

「皆は～経験ある? 皆はどう? ※コ」のように、教材の内容を実生活と往還させて考えさせる。教科書の教材を見ると、「自分事」に置き換える初期段階の低学年の登場人物は動物が多い。中学年は同世代の小学生が多く、高学年は小学生に加えて偉人や著名人が増える。発達段階に合わせて「置き換える」対象が広がっていく中で大切にしたいことは、展開後段や終末で突然「皆は? 自分は?」と問うのではなく、導入・展開・終末で、何度も教材と実生活と往還させることである。特に導入で実生活の話題で対話したり、事前アンケートを生かして1～2分の短時間で幅広く生活経験を拾ったりすることは、その後の思考の幅を広げることにも繋がる。(資料8)

イ 対話で本時の学びを整理する

「どんな感じかなあ」(公正、公平、社会正義) ※絵本「どんな感じかなあ」自由国民社

【発問②】ひろくんは(登場人物の)3人に会ってどんなことを考えただろう。 ②

- (略) ・その人の気持ちになると発見がある。
- ・普通って何だろ。 ・普通って難しい。 ※サ

【問い返し】「普通」って何なんだろうね。 ①

- ・皆が勝手に決めつけていること。
- ・車椅子の人なら、それはその人の普通。
- ・人によって「普通」は違うんだよ。(略)
- ・不自由っていうより「苦手」というか。
- ・嫌なことばかりじゃないからさ。(略)
- ・その人の立場で考えなきゃ分からない。
- ・人それぞれ得意、不得意はある。(略)

【問い返し】初めの写真（白杖を持つ人、義足のアスリート、車椅子の人）皆は「可哀想」だと言ってたね。本当に「可哀想」かな。⑧

- ・可哀想と言えば可哀想かもしれないけど…。
- ・その人自身がどう考えるかが大事なんだよ。
- ・確かに。全てその人しか持っていない物。
- ・目が不自由だと、他の人より聴く力が凄い。
- ・足、耳、目が不自由でも人と関わるだけでそれはもう可哀想ではなくて幸せ。（略）

【問い返し】ここまでを踏まえて、もう一度聞きます。「普通」とは、何だろう。⑨

- ・そもそも「普通」なんて無いんだと思う。
- ・無い訳でもない。人それぞれだよ。 ※シ
- ・一人一人の「普通」がある。 ・皆違う。
- ・自分の「普通」は人の「普通」ではない。
- ・「普通は…」っていう言葉が差別を生む。
- ・「普通はこうだろ」って言っちゃいけない。
- ・マイナスな事ばかりじゃないし、その分、得意な能力が高まる。自分がどう思うか。

【発問③】この授業で、どんな事が大切だと考えた？（※終末の書く活動、発表） ⑩

- ・可哀想だとか考えるよりも、人それぞれ「普通」は違うんだと分かってるほうが大切。
- ・人の数だけ、たくさん「普通」がある。
- ・その人になって考えると色々な発見がある。
- ・その人にしかない、いいものがある。
- ・個人差は必ずあって、それが良さ。
- ・できて当たり前みたいなことが「普通」とされがちだけど、得意なことでも不得意なことでも「個性」と考えた方がいい。（略）
- ・不得意な分だけ、得意な事の力が高いだろうし、相手のそれを見つけてあげること。

【結果・考察】

「転校生がやってきた」（公正、公平、社会正義）を実施した上で、同じ内容項目で、翌週は余剰時間で絵本（写真⑥）を用いた。翌々週には「心のレシーブ」（友情、信頼）を実施し、『複数の授業で多様な面から考えさせるパッケージ型ユニット』（2017 諸富）を意識し

て他者理解を目指した。対話の中で「普通」※サという言葉が挙がり、主題「差別、偏見の無い～(略)」と大きく関係することから、事前の予定を変更し「普通とは何か」を問い返すことにした。「人それぞれの普通がある」※シというような発言が複数挙がった上で、終末は「どんなことが大切だと考えたか」と発問して整理したことで、児童一人一人の本時のまとめにつながっていく。発問③以降をみると「公正、公平、社会正義」「個性の伸長」「相互理解、寛容」「友情、信頼」に関する意見が挙がり、複数の内容項目の視点から、主題「差別、偏見の無い～(略)」を統合的に捉えることができたと考えられる。

「ひろくん、かんがえすぎー」

あ、ぼくはしゅわができない。

だから、さのくんは、ほとんど ぼくのくちをみていて、
いうことがわかるんだ。

それも すごいでしょ。

（写真⑥）

V 成果と課題

1 成果

- (1) 昨年度まで効果を感じていた様々な指導法を継続しつつ、今年度は特に「発問と問い返し」に主軸を置いて取り組んだことで、児童の学びの広がりや深まりを感じる「対話的な学び」の場面を多くすることができた。
- (2) 発問を考える上で大切な視点は、①教材文のどこに注目して発問するか、②問い方や言い回しをどう工夫するか、③どんな終末に向かいたいのかを考えることだと感じた。

問い返しの目的は児童の考えを広げ深めることであり、対話の中で「用意した問い返し」を生かし、「その場での問い返し」を瞬時に考えながら対話を創る必要性を感じた。

- (3) 考えや記述を発表させるだけであれば容易だが「全体での対話」で深めることは難しい。発問と問い返しをセットで組み合わせていくことで、児童の発言を拾えるようになり、発言・発表がつながっていき「対話」となる。

「課題・教材との対話」から始まり、教師・全体との対話、児童同士の対話を合わせたものが「全体での対話」となり、さらには「自分との対話」につながっていく。

2 課題

(1) 「対話的な学び」の最大の難点は、止めることのできない時間の流れを、授業者の瞬間的な判断の連続で創っていくことである。事前準備をした通りにはいくはずが無い反面、授業者である担任が事前準備の段階でどこまでイメージができていたかが重要だ。担任にしか見えない日々の時間的な連続の見取りを、授業と関連付けていくことが大切だと感じた。

(2) 発言の拾い方、教師の「耳」である。「全体での対話」は発表ではないため、誰の発言や呟きをどのタイミングで拾うかが授業を左右する。内容項目の文言に囚われると、教師が目指す方向性に一致した言葉だけを拾ってしまう。児童の声を広く拾い、広く受けとめる「耳」が求められる。また、「全体での対話」を児童に預ける・任せる感覚や、時には沈黙の間を我慢して待つ覚悟も必要になる。

(3) 「全体での対話」を授業の根幹に据える効果は大きいですが、高学年になるにつれて発言する自信の差は広がり、発言できる児童に限られた対話になりがちである。その対策として、①記述を拾って称賛し、自信をもたせること、②ペアやグループなど少人数でのアウトプットの機会を生かすこと、③対話の流れの中でも、小さな声も拾うこと、④個々の思考する速度を考慮し、個で考えさせる時間を確保すること等が必要不可欠だと感じた。

3 おわりに

当番活動等にあまり意欲的ではない児童M。「勤労、公共の精神」の授業前半で「働くのは面倒だし、何か見返りが欲しくなる。」と発言したが、終末には「人のためになる事をしたら、自分も嬉しいかもしれない。」と呟いた。Mは絵画や工作が得意である。6年生を送る会に向けた体育館の飾り付け担当に立

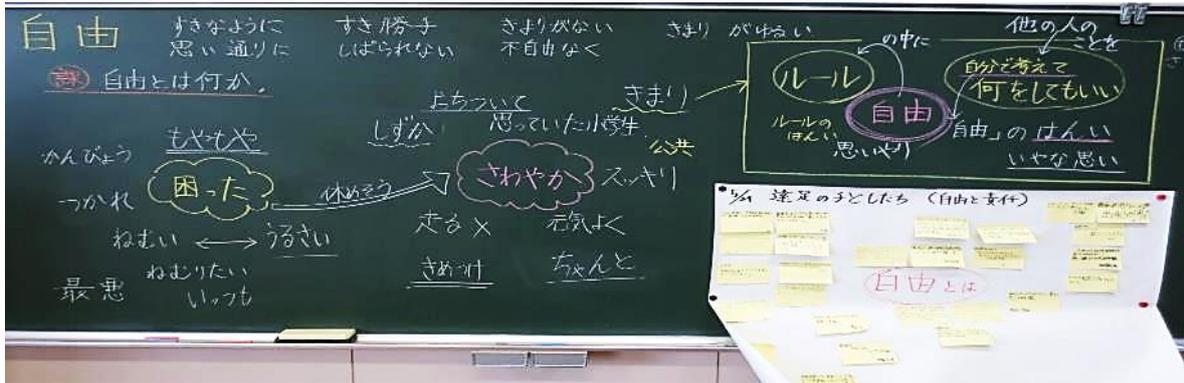
候補し、意欲的に取り組んだり、「イラスト、私がやってもいいですか？」と次年度の新生歓迎掲示を自ら休み時間に作ったりする姿が見られた。「ありがとうね、素敵な飾り。きっと喜んでもらえるよ。」と声を掛けると、「私、やりたくてやってるんです。すごく楽しいし。」と話していた。道徳性の発達を評価するということは、変容を見取ることだと実感すると共に、その変容を認め励ましていける教師で在りたいと感じた瞬間だった。

【主な参考文献・引用文献】

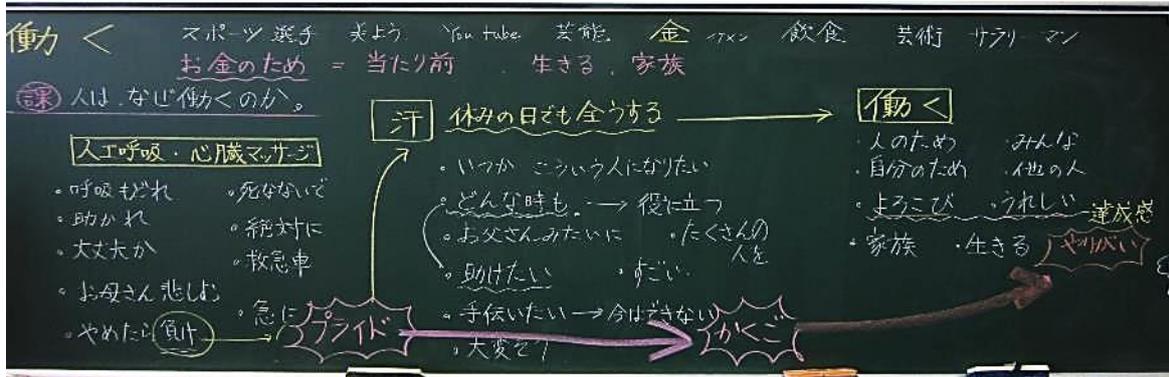
- ・文部科学省(2018)「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳 編」
- ・中央教育審議会(2016)「考える道徳への転換に向けたWG」
- ・赤堀博行(2021)「道徳教育キーワード辞典」東洋館出版社
- ・永田繁雄(2017)「学習指導要領改訂のポイント小学校・中学校特別の教科道徳」明治図書
- ・永田繁雄(2019)「小学校道徳指導スキル大全」明治図書
- ・浅見哲也(2021)「道徳科授業構想グランドデザイン」明治図書
- ・高宮正貴(2020)「価値観を広げる道徳授業づくり」北大路書房
- ・加藤宣行(2019)「話し合い&道徳ノートの鉄則45」明治図書
- ・柳沼良太(2018)「小学校道徳科『問題解決的な学習』をつくるキー発問50」明治図書
- ・中村優輝(2022)「直球で問いかける小学校道徳科授業づくり」東洋館出版社
- ・森岡健太(2021)「おもしろすぎて授業したくなる道徳図解」明治図書
- ・大野睦仁(2020)「6ステップでつくる！本気で考える道徳授業」明治図書
- ・荒木紀幸(2018)「小学校新モラルジレンマ教材と授業展開」明治図書
- ・諸富祥彦(2017)「考え、議論する道徳科授業の新しいアプローチ10」明治図書

【資料1】板書の実例

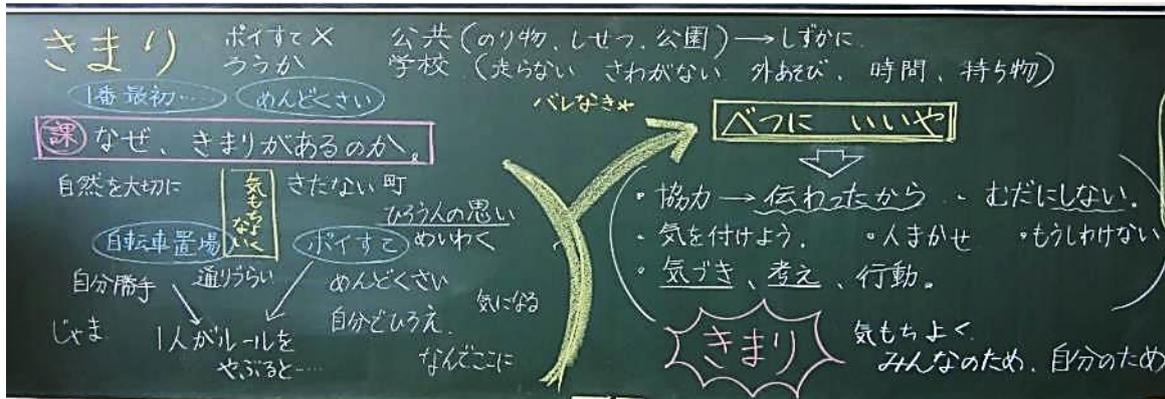
① 「遠足の子供たち」 (善悪の判断、自律、自由と責任)



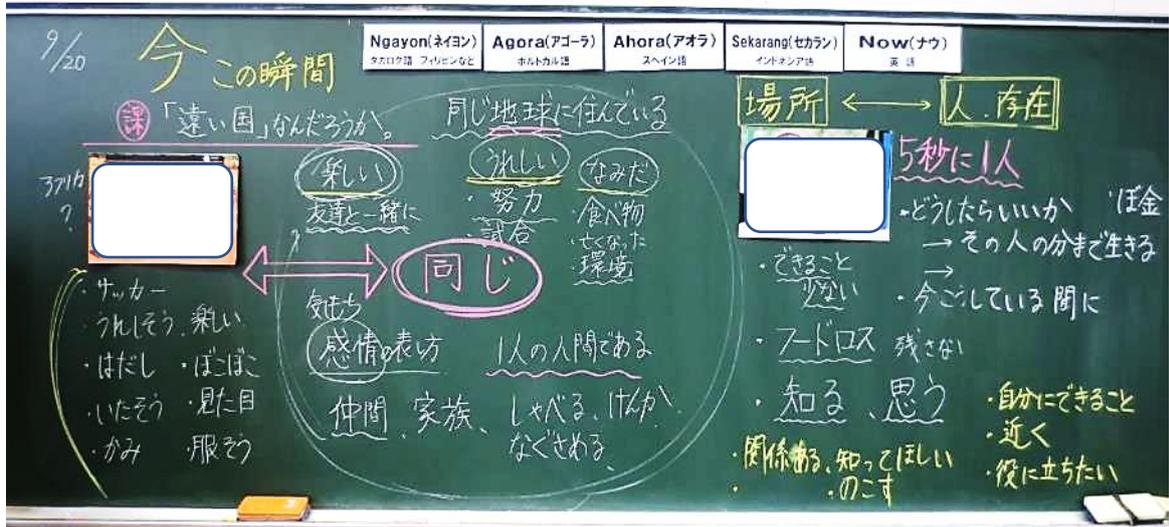
② 「お父さんは救急救命士」 (勤労、公共の精神)



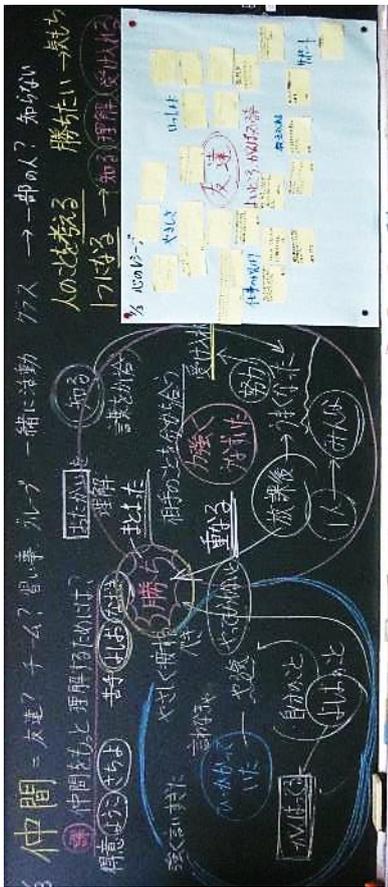
③ 「駅前広場は誰のもの」 (規則の尊重)



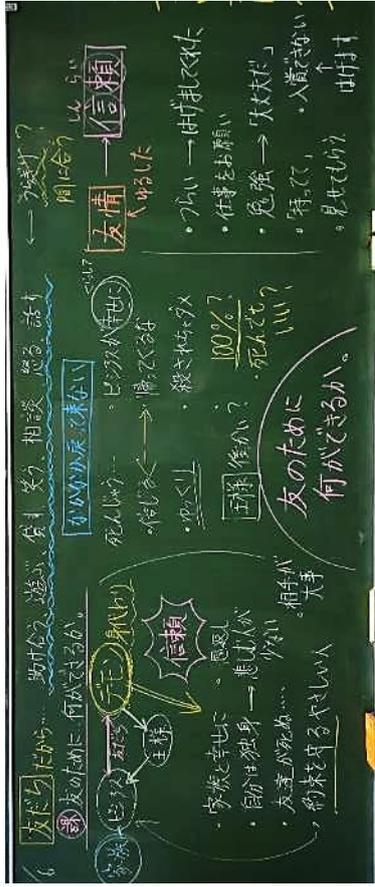
④ 「同じ空の下で」 (国際理解、国際親善)



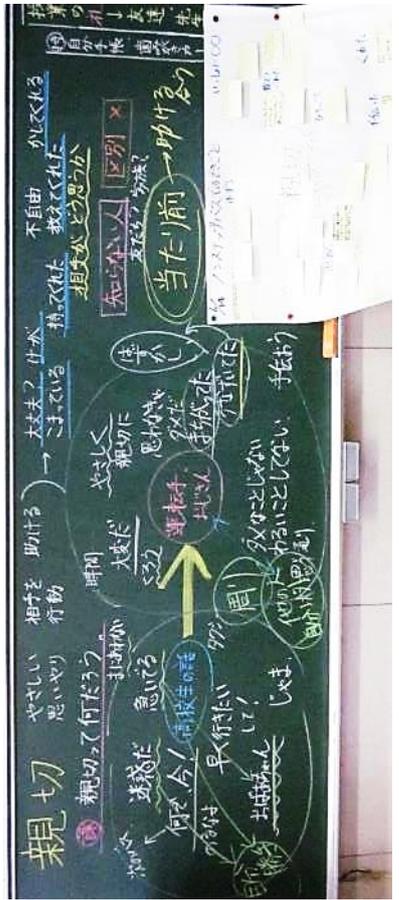
⑤ 「心のレシネープ」 (友情、信頼)



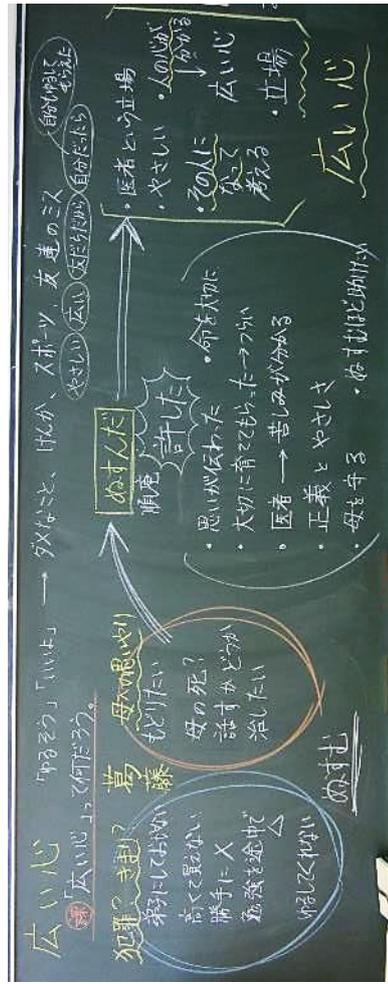
⑦ 「友の命」 (友情、信頼)



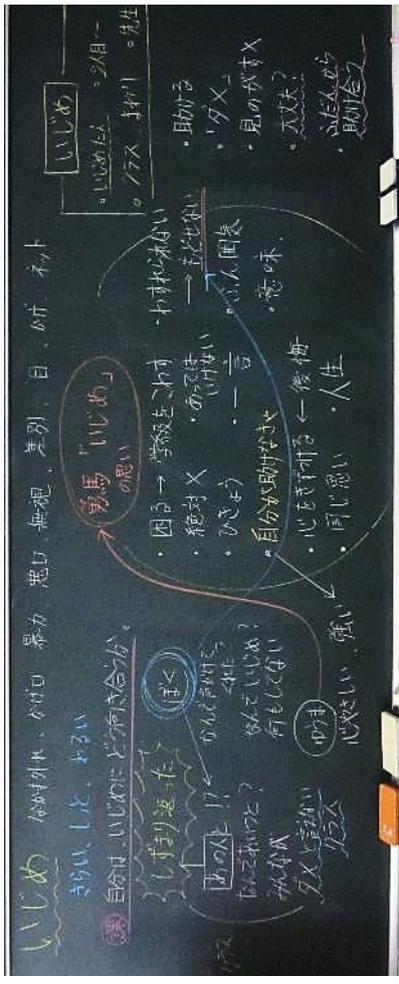
⑨ 「ノンストップバスでのできごと」 (親切、思いやり)



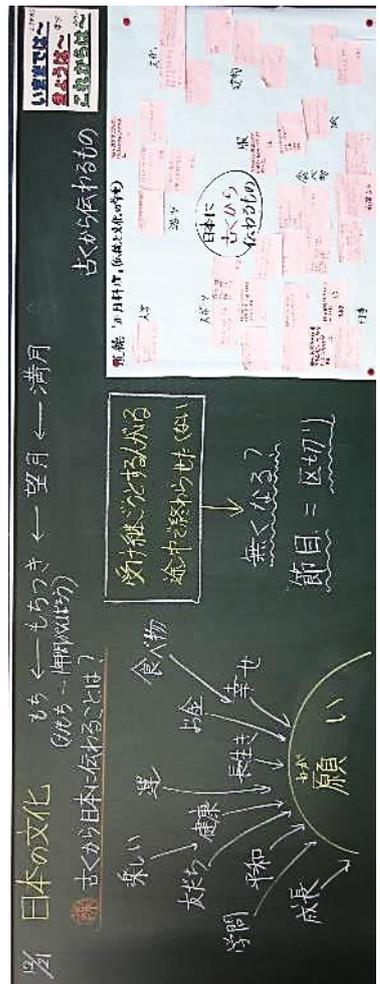
⑥ 「名医、順庵」 (相互理解、寛容)



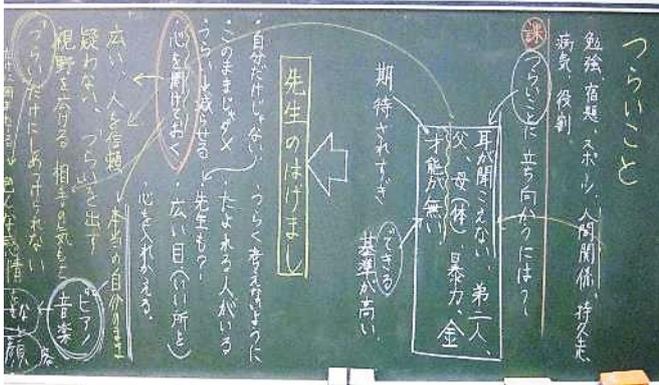
⑧ 「転校生がやってきた」 (公正、公平、社会正義)



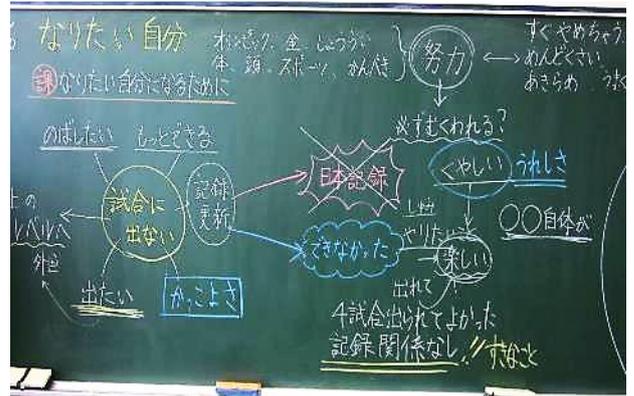
⑩ 「正月料理」 (伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)



⑪「ベートーベン」(希望と勇気、努力と強い意志)



⑫「いつも全力で」(希望と勇気、努力と強い意志)



【資料2】授業準備メモの例

「心のレシーブ」(友情、信頼)

発問 (黒字)

◎中心発問、○基本発問・補助発問。
言い回しは、話し合いに応じて変える。
発問ごとに変更することもある。

問い返し (青字)

用意した問い返しの全ては使わない。
この他、児童の発言に応じて「その場の問い返し」を入れていく。

確認事項(緑字)や準備物(緑字)

活動(赤字)
書く、ペア、全体など

(事前)タブレット、アンケート、...

23 心のレシーブ(友情、信頼)
(導入) ①「仲間」ってどんな人? 「友達」とはちがうの? 一緒に遊ぼうか?
② 仲間のことを理解できているか
なぜだろう? どうすれば理解できるのか、いい所?

結果 仲間をもっと理解するためには
(オーガナイザー) [得意]はうみさちよ [苦手]はおさ、おま

◎ ① 「よしおさんだてがんばっている」引っかけた
どんなことを考えていたのさ? どうして? 全体
でも、なぜ陽子は強い口調なのさ? 認める 発表 勝手に

◎ ② 「よし、次は勝つぞ」~うなずいた
チームが1つになれたのはなぜだろう、書く → ペア → 全体
陽子は何を反省しているか、
共通 (放課後練習の2人の思いは?) そのことを知っていたら、
得意な女子2人の「?」 仲間をもっと理解するためには 大切なことは何か、
認める、励ます、いい所を認める、
受け入れる、勝つための... 発表

◎ ③ 皆もそういう経験ある?
(いい所を見つけた、がんばった所、すてきな所) (理解し合えた)
タブレット オクリンク? 模造紙 発表

④ ふりかえり 書く → 発表

仲間 → 整理
仲間を... 模造紙
仲間 → 整理
仲間を... 模造紙

板書(下部) 構造のみ考える。挙がってほしい言葉を書いてしまうと、そこに話し合いを引っ張ってしまふ。板書は児童の言葉で創っていく。

1冊のノートに、毎回同じように15分程度でメモを作る。年間35回の道徳科の授業を、いつも同じ準備量で進めていく上で「できるだけ短時間で効率よく」という意識で教材研究を行う。

毎回の質にこだわりたいと思うと、大切になってくることは「発問と問い返し」である。「発問と問い返し」を考えることは、道徳科に限らず他教科にも汎用性があり大切だと改めて感じる。

第5学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和5年 9月 20日（水）3校時

場所：5年2組教室 授業者：久保木壮平

【研究テーマ】 伝え合い・聴き合い・深め合う子どもを育む 対話的な学び
【ブロックテーマ】 対話的な学びを目指して、多様な思いや考えを関連付けて話し合い、自分の学びを深めることのできる子どもの育成

1 主題名 「同じ空の下で」（東京書籍） 【C 国際理解、国際親善】

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

地球には200以上の国と地域があり、当然、言葉や文化、考え方は様々である。しかし、平和を願う気持ち、命や人を大切に思う気持ち、自国の伝統や文化を愛する気持ちなど、共通する「思い」があることも確かである。グローバル化・情報化社会の進展や、争いが絶えない世界情勢において、国際理解や国際親善は重要な課題である。

5・6学年での内容項目「国際理解、国際親善」は「他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること」とされている。遠く離れた国で生活する人々や海外で活躍する人のことを扱う教材が多く、児童が「自分事」に置き換えて捉えることが難しいと考えられるため、教材に自我関与させるための工夫が必要である。

本時の学習を通して、どの国でも独自の伝統と文化があることや共通する願い・思いがあること、国の域を越えて解決すべき課題があること等への理解を深め、自他を尊重する態度を養い、進んで他国とつながろうとする意欲を高めていきたい。

(2) 教材について

本教材は主人公が登場するような読み物教材ではないため、心情の変化や行動に着目させるような指導は行わない。他の教材文より、わずかだが比較的量が少ない内容である。

他国に住む子どもと、日本に住む自分達には「違うこと」と「同じこと」がある。教材の前半では、挨拶の仕方や言葉が大きく違うことが挙げられている。それに対して、宝物を持っていたり、涙を流したり、友達と肩を組んで笑ったりしている他国の子どもの写真が挙げられ、「大きな違いはありましたか」と問いかけている。「違うこと」と「同じこと」の比較を通して、価値理解を深めることのできる教材である。

教材の後半では、食糧不足や健康上の問題から、5歳以下の子が5秒に1人の割合で死亡している現状について書かれている。遠く離れた「違う」国でのことではなく、「同じ」空の下で生きる子どものことであることを理解し、地球に住む1人としての自覚をもてるよう工夫したい。

(3) 児童の実態について

道徳科の授業で見た場合、教材の登場人物の心情を考えて、記述したり発言したりできる児童はあまり多くない。記述したことをペアで伝え合う場面や発表する場面では積極的な姿が見られるが、教師の問いかけに対して、学級全体で話し合う場面での積極性には個人差があり、考えをもてない

児童や、考えをもっているが発言できない児童が多い。また、教材と実生活を関連付け、自分事に置き換えて考えることに難しさを感じている児童が数名おり、個別に支援している。

他教科や特別活動における「他者理解」という点で見ると、クラス替え直後の4月に比べ、少しずつだが交流が広がっている。その反面、自由な時間や自由に交流をする学習では、以前から仲の良い友達や同性のみに関わる傾向が強い。まだまだ、広い交流だとは言えない。

本校は外国語教育の研究の指定を受けており、外国語専科による授業も充実し、英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする児童が多い。休み時間、ALTに自分から声をかけて会話をする姿も見られる。外国語科の学習を深めていく過程において、英語という言語の習得だけでなく、この機会に、他国に視野を広げて国際親善に努めようとする心情を育てたい、そのきっかけを創りたいと考え、本主題を設定した。

(4) 指導について

本時の学習過程は、他国の人々が我が国と同じように、国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることを前提として考えていく。国を越えた関わりについて考えること（道徳的判断力）、他国の人々と互いの違いに捉われることなく、認め合い、気持ちを理解し合うこと（道徳的心情）、進んで他国のことを理解し、交流を広げようとする国際親善の態度を養うこと（道徳的実践意欲と態度）の3点を大切にしたい。

以上を踏まえ、本時の導入では、同じ意味の5か国語を提示したり、日本の子どもが遊ぶ様子との違いを考えさせたりすることを通して、「異文化」のイメージをもたせる。その上で、「『遠い国』なんだろうか』という問いを投げかけ、物理的な距離と心の距離について考えるきっかけとする。展開前段部分では、児童にとって遠い他国の子どもにも、自分達と共通する点があることに気付いて理解を深められるよう、発問と問い返しを工夫する。また、多面的・多角的に考えを広げられるようにペアでの交流や全体での話し合い、板書の仕方を工夫する。さらに、「5歳以下の子が、5秒に1人亡くなっている」という事実を知らせ、考えさせる際には、写真の提示や発問の仕方を工夫し、日本に住む自分達と対比的に捉えさせる。展開後段部分では、生活経験や現在の思いを踏まえて考えを書けるようにする。ここまでの学習過程で計3回の書く活動を取り入れているのは、教材に自我関与させたり、自分と向き合わせて考えをもたせたりするためである。今回の終末では、絵本の読み聞かせを行う。学級の実態として「友達」という認識・感覚の狭さを感じることや、今すぐ海外に向けた大きな行動ができなくても「思いを寄せることはできる」ということ等、担任として思うことを児童も考えるきっかけになればと思い、価値を押しつけることなく余韻をもたせて授業を終えたい。

3 研究テーマに迫るための手立て

【手立て①】 多様に考えを広げ、ねらいに近づけるための発問や問い返しの工夫。

【手立て②】 「自分事」として捉えさせるための教材や資料の提示の工夫。

【手立て③】 教材や自分に向き合わせるための書く活動の工夫。

4 本時のねらい

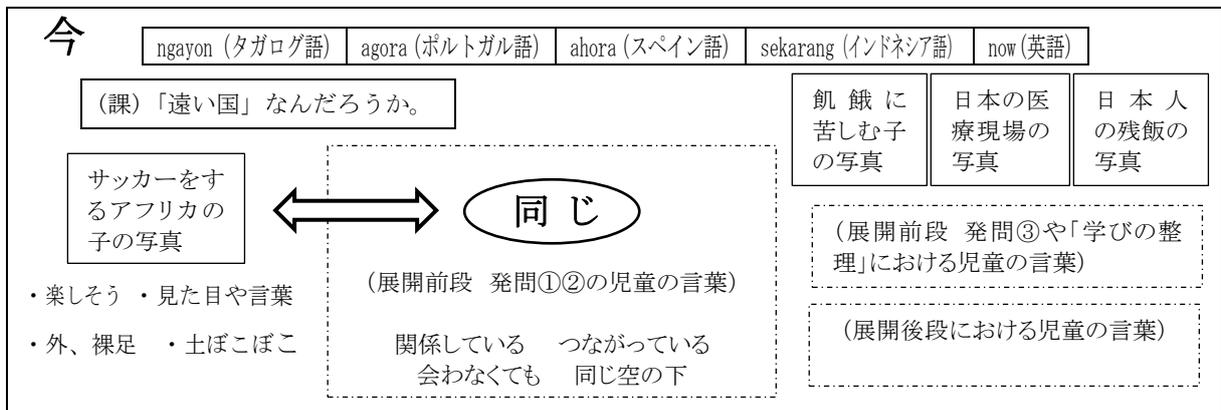
他国の人々や異文化について理解すると共に、他国の人と共感できることがあることに気付き、同じ空の下で生きている気持ちをもって、国際親善に努めようとする意欲を高めることができる。

5 本時の学習過程

学習活動・内容 ○発問 ◎中心発問 ・予想される意見	時間	形態	○指導上の留意点 評価 【手立て】
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>○どういう意味だと思う？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ngayon (タガログ語)、agora (ポルトガル語)、ahora (スペイン語)、sekarang (インドネシア語)、now (英語) </div> <p>○この子ども達、「今」どういう気持ちなんだらう。皆との違いは何だらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しそう ・見た目や言葉が日本人と違う ・外なのに裸足 ・グラウンドがぼこぼこ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> (課題)「遠い国」なんだらうか。 </div>	<p>5</p> <p>(2)</p> <p>(2)</p> <p>(1)</p>	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>全体</p>	<p>○5か国語の「今」という単語を提示し、授業を方向付けるとともに、後半での「今この5秒間に」へつなげる。【手立て②】</p> <p>○サッカーを楽しむアフリカの子どもの写真を提示し、日本人と共通の「サッカーが楽しい」という気持ちと、環境が異なることに気付かせる。 【手立て②】</p> <p>○物理的に「遠い」ことは当然だが、あえて問い、立ち止まって考えさせる。【手立て①】</p>
<p>2 教材を活用し「遠い国」について考える。</p> <p>(1)範読を聞き、教材の内容をつかむ。</p> <p>(2)他国の子どもの心情を考える。</p> <p>○この子ども達は「今」どんな気持ちかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入賞して嬉しい ・一緒にいて楽しい ・怒られたのか、喧嘩したのか…悲しい <p>◎あなたと、世界中の子ども達、「同じ」「似ている」ことはどんなことだらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私にも宝物がある ・悲しくて泣きたくなる時がある ・一人より友達といると楽しい ・地球で考えれば同じ場所に住んでいる <p>(話し合う中で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接「友達」ではないけれど… ・会うことがなくても関係している ・つながってると思えるかどうかが大事 <p>○十分な食糧や医療が無く、5歳以下の子が5秒に1人亡くなっている事実をどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・驚いたし、残酷で悲しい事実 ・日本はとても幸せな環境だと思う ・何かできることはないか <p>(話し合う中で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほんの少しでもいいから食料が欲しい ・死にたくない ・誰か、助けてください 	<p>28</p> <p>(5)</p> <p>(3)</p> <p>(12)</p> <p>(8)</p>	<p>全体</p> <p>ペア</p> <p>個人</p> <p>ペア</p> <p>全体</p> <p>個人</p> <p>全体</p>	<p>○教材への関心を高めさせるため、範読前に挿絵や写真を電子黒板で提示する。 【手立て②】</p> <p>○教材理解と自我関与を目的として、ペアでの短時間の交流を図る。</p> <p>○机間支援する中で聞き取ったことを指名に生かす。また、挙手で発表させる。</p> <p>○自分の考えをもてるよう、書く時間を確保する。教材や発問の理解が難しい児童は集めて支援する。 【手立て③】</p> <p>○書けた児童から立って自由にペアを作り意見を交流するよう促す。</p> <p>○板書を話し合いに生かすため、書く位置を視点ごとに大まかに分ける。</p> <p>○他国の子どもと「友達か」「関係のある人か」「つながりがあるか」を問い返し、「同じ空の下」でのつながりを考えさせる。 【手立て①】</p> <p>○「5秒」を心の中で唱えさせる。</p> <p>○飢餓に苦しむ子の写真と、日本の医療現場や日本人の残飯に関する写真を提示し、対比的に考えさせる。 【手立て②】</p> <p>○記述を意図的な指名に生かす。 【手立て③】</p> <p>○「この子達は『今』どんな思いで過ごしているか」を問い返し、心情を理解させる。</p> <p>○本時の課題を再度問い、学びを整理する。</p>

<p>3 国際理解について自分の考えを深める。</p> <p>○このお話から学んだことを踏まえて、これまでの自分・これからの自分について考えて書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠いと思いついでいたけど、つながりがある人だと考えることが大切。 ・ご飯を残してしまうことが多かった。食べ物や命を大切にしていきたい。 ・違う世界だと思わずに、皆で考えて、自分にできることをしていきたい。 	8	個人 全体	<p>○広く問い、他の内容項目の視点に立った考えも受容し、児童それぞれが本時の学びを価値付けられるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【手立て①】</p> <p>○なかなか書けずにいる児童を集めて対話し、自分の考えをもてるよう支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>同じ空の下で生きている気持ちを持ち、国際親善に努めようとする意欲を高めることができているか。（記述、発表）</p> </div>
<p>4 絵本の読み聞かせを聞く。</p>	4	全体	<p>○教室前方に児童を集め、「ともだち（谷川俊太郎）」を読み聞かせる。何も問わず、余韻をもたせて授業を終える。</p>

6 板書計画



【資料4】本論で挙げた「全体での対話」以外の「対話的な学び」の場面

①教材文との対話（教師の範読）



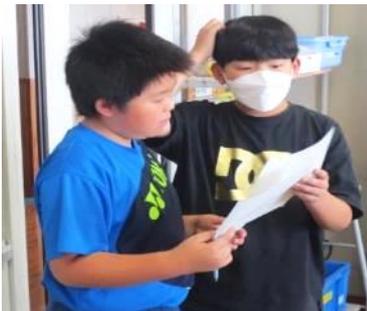
範読は、児童に考えさせたい部分の「抑揚」と「間」、範読後の「間」を大切にします。

②ペアでの対話（固定ペア）



中心発問以外の発問では、記述をせずに短時間の固定ペア（席が縦・横）での対話を取り入れる。

③ペアや少人数での対話（自由交流）



じっくり考えさせたい中心発問は、個で考える記述の時間をとった後、書けた児童から立ち上がって自由に2～3人組を作り、数分間の交流をする。「似ている」「自分とは違った考えだ」と思った点を相手に伝えた上で、「なるほど」と思った点は簡潔な言葉でメモをすることとしている。

④模造紙・付箋紙やタブレットを使った対話



短時間でより多くの意見に触れ、比較・共有させる場合、模造紙・付箋紙やタブレットは効果的だ。

⑤自分との対話



書く＝自分と向き合う時間であり、自分との対話は欠かせない時間である。

⑥歴史上の人物との対話



高学年は歴史上の人物やアスリートの教材が多いが、遠い存在に感じる児童も多い。人物に関する数分の映像を、一緒に会話をしながら視聴することで親近感が湧くようである。

⑦身近な大人との対話



「勤労、公共の精神」の終末で「実際、大人はどんなやりがいをもって働いているか」という疑問が挙がり、事務室でインタビュー。「身近な人の知らない一面」は、児童の印象に残る。

【資料5】「書く終末」での児童の記述と、教師のコメントの例

1	駅前広場は誰のもの (規則の尊重)	なぜきまりがあるのか。それは皆が気持ちよく生活しやすいように。その決まりを守ると、そこに住む人全員が嫌な気持ちにならずに生活できる。 (コメント) 皆が気持ちよく生活するためにきまりがあって、それを守っていくことが大切なんですね。
2	いつも全力で (希望と勇気、努力と強い意志)	イチローさんは、もった目標、なりたかった自分になった。周りの目を気にせず「なりたい自分」に突き進んでいった。イチローさんのように、私もやりたいことは目標に向かってどんどん突き進みたいと思った。 (コメント) 突き進もうと決めたら周りの目を気にしない勇気、大事かもしれないね。
3	見えた答案 (正直、誠実)	お母さんに「宿題終わった？」と聞かれて「うん」と言った。「自分の力で？」と聞かれて「うん」と言った。本当は、少し答えを見てしまった。今でも、モヤモヤしています。 (コメント) 具体的に書きましたね。「モヤモヤ」って、残ってしまうんだね。
4	お父さんは救急救命士 (勤労、公共の精神)	正直、仕事を「やりたくない」という気持ちがあったけど、自分の将来のため、誰かのために、「お金のもらえない『働く』」も頑張りたい。 (コメント) 働く＝お金だけじゃないんだね。自分・人のために、さらに頑張っていけるといいね！
5	どんな感じかな (公平、公正、社会正義) ※自作教材	目が見えなくても、耳が聞こえなくても、その人が「幸せだな」と思うなら、それはもうその人の「普通」その人の「幸せ」なんだと思う。 (コメント) 人それぞれの普通があるね。「幸せ」だと感じることは素敵なことだね。
6	同じ空の下で (国際理解、国際親善)	前までの自分は、国が遠ければ関係ないと思っていた。でも今は違う。同じ人間なので、小さな事を一步一步やって、いずれは大きな一歩にしたい。 (コメント) この授業で、大きな気持ちの変化があってよかったです！遠くても、「関係がある人」なんだね。
7	くずれ落ちた段ボール箱 (親切、思いやり)	お母さんと一緒に買い物に行った時、目の前で、おばあさんのカゴから物が落ちた。拾おうとした。拾えなかった。 (コメント) その時のことをしっかり覚えてることが素晴らしい。きっと、〇〇さんなら次はできますよ。
8	卵焼き (家族愛、家庭生活の充実)	今までは親に「こういう所をやめてほしい」とばかり思っていたり言ったりしていた。今日の授業で、自分が思ってるより家族に大切にされて、支えられていると感じた。 (コメント) お家の人はたくさんの愛情をもって支えてくれているね。「ありがとう」の気持ちを大切にしていこう。
9	ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ (真理の探究)	新たなことに踏み込むのは覚悟が必要だし、それにやりがいを感じなければなおさらできないから、新しいことをするのはすごい。このような(教材文)人たちのことを忘れずに挑戦していきたい。 (コメント) 踏み込んだ数が多ければ多いほど、やりがい生まれるかもしれないね！
10	そういうものに私はなりたい (よりよく生きる喜び)	ゴールなんて無い。高い壁を乗り越えた時に「カギ」をゲットするのだと思う。勉強は何にでも役に立つ。絶対に無駄にはならない。必ずカギがある。カギは心の中で積み重なって、一つのゴールができる。 (コメント) とても素晴らしい考え方だと思います。大事なものは「カギ」なんだね。ずっとずっと先のゴールに向かって頑張っていこう。

【資料6】3点書き出しの例

「いままでは～（過去）、きょうは～（本時）、これからは～（未来）」
 終末は自由に書かせるが、書き方に悩んでいる児童も多かったため、1学期はラミネートで書き出しの例を毎回提示した。机間支援で、特に「今日どんなことが大切だと思った？」と声をかけながら「きょうは～」から書き始めてみるよう促すとスムーズに書ける児童が多い。
 過去・現在・未来の自分を見つめさせ、実生活と往還させていく。

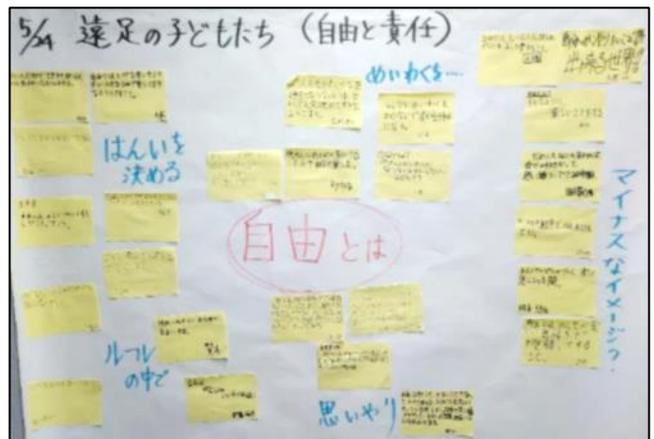


【資料7】模造紙と付箋紙の活用例

①「これって権利？義務？」（規則の尊重）



②遠足の子供たち（善悪の判断、自律、自由と責任）



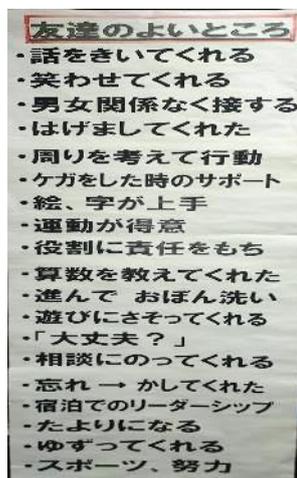
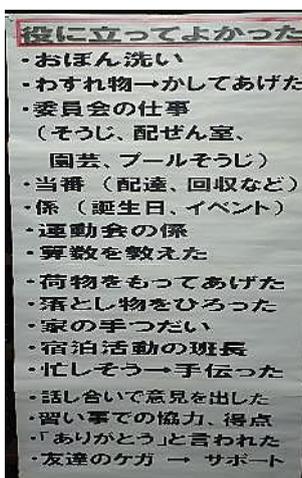
③「ノンステップバスでのできごと」（親切、思いやり）



展開後段で付箋紙を活用し、模造紙に貼る際に、「似ている意見の近くに貼る」と設定しておくことで、必然的に多くの意見を見ることになる。「～って書いてあるから、ここらへんじゃない？」「〇〇さんと□□さんの意見、似てるからこのあたりだよ。」と、自然に対話が始まる。操作する活動は能動性を生む。

問い方としては2点あり、生活経験を問うもの(①「権利と義務のセット、例えば」、③「親切にできたこと・してもらったこと 知らない人 Ver」)、内容項目に関するキーワードについてイメージを導入と同様に問い、変容をみるもの(②「自由とは」)が挙げられる。

【資料8】事前アンケートの活用例



①左「くずれ落ちた段ボール箱」（親切、思いやり）

②右「名医、順庵」（相互理解、寛容）

授業の数日前の朝の会で数分のアンケートをとる。「～経験は、ありますか？」の1問である。生活経験が鍵を握る教材だと考えた時には、事前に思い返しておく数分をとることがかなり効果的である。

このアンケート結果一覧は、導入の対話の中で教師が1～2分程で読み上げる。わずかな時間で生活経験を想起させた上で範読に入ることで、児童は「自分事」に置き換えて、教材と実生活を往還して考える上に、他の友達の経験を「同じ経験が私にもあった」と考えることができるので、展開後段が充実する。

研究主題

すだちプロジェクト



「誰一人取り残されない学びの保障」

に向けた取組の緊急強化

～ 教頭としてできること ～

郡山市立桜小学校 教頭 鈴木 雅博



I プロローグ

自教室を出て、よく職員室で過ごしていた◇◇くん。ある日…。「ぼくはねえ、きょうしつにいとじゃまなんだよ。」と。別の日…。◇◇くんを職員室に呼びに来た女の子。「◇◇くん、きょうしつにもどりな。めいわくだよ。」と。担任は、大変優秀な教師である。指導力は高く、児童への接し方、言葉かけも間違いない。それなのに…。入学からたった半年。◇◇くんは、学校生活の中で、自分を「じゃまな子」と認識してしまったのか。友達から、「めいわくな子」と思われてしまったのか。居場所づくり、なんとかしなければ…。本気の挑戦が始まった瞬間であった。

II 研究概要

1 研究主題設定の理由

(1) 今日的課題との関わりから

研究主題の文言「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化は令和5年10月17日文科科学省から発出された大臣メッセージそのものである。メッセージでは、令和5年10月4日に公表した令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、「小・中学校の不登校児童生徒数、そのうち学校内外で相談・指導等を受けていない児童生徒数がそれぞれ約30万人、約11万4千人に上り過去最多となっている（途中省略）、極めて憂慮すべき状況であることが判明しました。この状況は非常に深刻であり、子供たちが誰一人取り残されず、安心して学ぶことができる環境を早急に整えるため、この度、『不

登校・いじめ緊急対策パッケージ』をとりまとめることとしました。」と述べられている。また、メッセージの最後では、児童生徒に向けて、「我々大人が全力で様々な学びの場や相談の場を作り出していくので、学校に行くのが苦しくなったときや、悩みがあるときにはぜひ積極的に活用してください。我々はみなさんの味方です。」と結ばれている。

(2) 本県教育との関わりから

本県では、『第7次福島県総合教育計画』目指すべき姿：個人と社会のWell-beingの実現』の施策の一つとして「学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる」ことが掲げられている。SWOT分析の状況から、生徒指導面の課題として、不登校児童生徒が増加している現状と、特別な支援が必要な子供の増加による学びの場の整備が挙げられている。そして、施策展開にあたっての取組として、不登校及びその傾向のある児童生徒にスペシャルサポートルームを活用することや、多様な子供たちが自分らしく学校生活を送り、主体的な進路決定を行うことができるよう、子供たちの異変の早期発見、心のケア、学習支援、進路相談等に取り組むための体制を強化することで、個別支援の充実を図るとしている。令和5年10月16日「第7次福島県総合教育計画をもっと身近に」の動画の中では、福島県教育委員会教育長が「これからは、教室に復帰させるということだけにこだわらないで、安心できる多様な居場所をつくっていくことが大切。そうしたことによって、誰一人

取り残すことなく、すべての子供たちが可能性や個性を伸ばすことができるように子供たち一人一人の状況に応じた教育機会の提供・支援をしっかりと取り組んでいく必要がある。」と述べられている。一方で、県民の皆さんの声としての県政世論調査からは、「不登校やいじめ、経済的な困難を抱えるなど多様な児童生徒への対応」が実践されていないと答えた割合が35.0%にも上るという結果もある。これらのことから「誰一人取り残されない学びの保障」は本県においても、まさに喫緊の課題と位置付けられている。

(3) 本校の教育目標等の具現から

本校は、教育目標に「確かな学力を身につけた健康で心豊かな子どもの育成」、目指す教師像に「子どもに寄り添う教師」、目指す学校像に『子ども達にとって毎日が楽しい、温かさに満ちあふれた学校』～『一人一人に寄り添う教育』の充実に努めます～と謳っている。そして、校長の学校経営方針には、「課題をのりこえる力（レジリエンス）」の育成が示されている。まさにこれらは研究主題「誰一人取り残されない学びの保障」に繋がっていくものである。これらを達成するためには、学習サポート・心理的サポート体制（7学年を中心とした学習支援スタッフ、不登校対策主任、生徒指導主事、該当担任、スクールカウンセラー、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、関係機関、保護者との連携等）を整えることが重要と考える。

(4) 児童の実態から

全校児童数515名、児童は毎日元気に学校生活を送っている。令和5年度全国学力・学習状況調査等の結果からは、全国平均を超えているものの、個人差・学年差は大きく、特に、自分の考えを分かりやすく伝えたり、話を聞いて理解を深め考えたりする力を磨いていくことに課題があることが分かった。いわゆるコミュニケーション力の向上である。令和5年度の通常学級に在籍する特別な支援

を要する児童は7名、不登校児童9名、不登校傾向児童12名と全校児童数は減少傾向にあるにも関わらず、不登校に係る児童は増加傾向にある。その理由は、本人によるもの、友達のこと、家庭環境、自分でもよく分からないなど、多岐にわたっている。

(5) アンケート（R5.10）の結果から

493名中31名（約6.3%）が、学校は「どちらかといえば楽しくない」、「楽しくない」と感じている。この人数には、不登校児童、不登校傾向児童が含まれていないことを考えると、学校はどちらかといえば楽しくない、楽しくないと感じている児童の割合はさらに上昇するものと思われる。また、102名の児童が、何らかの悩みを抱えており、家族に対する悩みは半数の51名に上る。

(6) SCの活用状況（令和5年度）から

SC年間勤務日数30日の中で、児童からの相談件数はのべ70件、保護者からの相談件数はのべ12件。児童では、人間関係に関する相談が30.0%、不登校に関する相談が14.3%。保護者では、不登校に関する相談が66.7%、学校不適応に関する相談が16.7%。児童39名の相談者のうち不登校・不登校傾向児童が10名。保護者9名の相談者では、6名が上記児童の保護者となっている。いかに不登校に関する相談の占めている割合が高いか分かる。

上記(1)～(6)から、研究主題『誰一人取り残されない学びの保障』に向けた取組の緊急強化は、本校としても例外の課題ではなく、むしろ危機的な状況にあり、早急に解決に向けた取組をすることが必須である。大臣や教育長の言葉通り、不安や悩みを相談できない子供たちがいる可能性や、子供たちの不安や悩みが従来とは異なる形で現れたり、一人で抱え込んだりする可能性等も考慮し、子供たちのSOSを早期に把握・対処する取組を強化し、更には、子供たちに安心できる多様な居場所や様々な学びの場をつくり出し、

すべての子供たちが可能性や個性を伸ばすことができるよう、子供たち一人一人の状況に応じた教育機会の提供を積極的に支援していくことが急務であると言えることから、本主題を設定した。

2 研究主題の解釈

(1) 「誰一人」とは

本校に通う全児童のこと。特に、不登校児童、不登校傾向児童、SRすだち利用対象者（後述）に焦点を当てる。

(2) 「取り残されない」とは

すべての児童に適した教育や支援が提供され、障がいの有無や家庭環境にかかわらず、適切な教育を受けられるようにすること。

(3) 「学びの保障」とは

個々の児童に合わせた教育ニーズへ対応し、適切で質の高い教育を受けさせ、最大限に自己を発展させる機会を得させること。

(4) 「取組の緊急強化」とは

すでに行っている取組を、有効性の観点から見直し、必要に応じて早急に追加の要素を加えること。また、新しい取組を、創造・実施すること。

(5) 「すだち」に込められた願いとは

我々大人である教職員が全力で様々な学びや相談の場＝「SRすだち」^{サポートルーム}をつくり出し、個々の成長に合わせたすだち（巣立ち）を実現させてあげたい。場の一つとしては、栽培活動や体験活動を取り入れることで、新しい知識や理解を得る喜びを感じさせたい。児童と教職員が対話を通して、それぞれの興味・関心・発想・創意工夫を織り交ぜながら、様々な面からアプローチしていき、新しい環境、新たな学びの中で自分を見つめ、自分が主となる居場所を見つけ出してもらいたい。

(6) 教頭としてできることの意味とは

教頭一人では限界があるため、教頭が中心となってアイデアを出し、生徒指導主事や該当担任、スクールカウンセラー等と協働して主題の達成に努める。その際、教職員の負

担過重になってはならない。また、関係機関、保護者との連携も果たしていく。不登校の要因を取り去ることばかりに注力するのではなく、楽しく学べる学校、感動・魅力のある学校を目指し、自身のイメージーションを発揮して、子供の居場所をつくってあげたい。

3 研究で目指す児童の姿

- (1) 第一段階目標としての「家庭から学校へ目を向ける復帰（間接的な人との繋がり）」
- (2) 第二段階目標としての「学校へ戻る復帰（大人との直接的な繋がり）」
- (3) 第三段階目標として「自教室に戻る復帰（友達との直接的な繋がり）」

4 研究のねらい

児童のWell-being（本研究では、「社会に役に立つ人になること＝奉仕、人に頼らないで自分で行動できるようになること＝自立」を重視する）の実現を目指し、不登校児童、不登校傾向児童、SRすだち利用対象者が、自らの現状を主体的に捉えられるようにするため、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組が、どのように作用し有効であったのかを検証し、これにより常にベターな進化・改善を目標とした研究を行っていく。また、研究の成果を生かし、新たな不登校児童を出さないための方策を蓄積していく。

5 研究仮説

- (1) 第一段階目標としての「家庭から学校へ目を向ける復帰（間接的な人との繋がり）」
本児または保護者との接触の機会を増やし、本児または保護者の考えや思い、悩みを徹底して共感的に受け止めていけば、学校との距離が縮まり、家庭から学校へ目を向けられるようになるのではないかと。
(2) 第二段階目標としての「学校へ戻る復帰（大人との直接的な繋がり）」

アンケートをベースにSRすだちに居場所をつくり、以下（P5.step1-3）のような取組を実施していけば、教師との距離が縮まり、学校への抵抗が薄れるのではないかと。

- (3) 第三段階目標として「自教室に戻る復帰（友達との直接的な繋がり）」

友達との接触の機会を段階的に増やし、友達と一緒にできる活動を取り入れていけば、友達との距離が縮まり、自教室に戻れるようになるのではないか。

6 SRすだちについて

SRすだちのいみ

- (1) SRすだちは、①しゃかいにやくに立つ人になるため（奉仕）、②人にたよらないでじぶんでこうどうできるようになるため（自立）につくられたへやです。
- (2) SRすだちは、クールダウンのへやとしてもつかうことができます。
- (3) SRすだちは、じぶんのアイデアを出して、先生といっしょにつくり上げていくことができます。へやは、べんきょうするところと、あそぶところとにわけてつかいます。

SRすだちでのルール

- (1) しずかにリラックスできるへやになるようにしましょう。
- (2) SRすだちにほかのともだちがいたら、やさしく・なかよくしましょう。
- (3) そうだんは、カウンセラーしつでもおこなうことができます。タブレットをつかったなやみそくだんもできます。
- (4) かんたんなうんどうができます。
- (5) ルールはみんなで作っていきます。

SRすだち利用対象者 ※教師側の押さえ

- (1) 児童間のトラブルにより教室で学習することが一時的に困難な状態にある児童
- (2) 教室内でのふるまいに課題があり、他の児童の学習を妨害する様子がある児童
- (3) 集中して学習に取り組むことができず、教室からの離脱を繰り返す児童
- (4) 不登校もしくは不登校傾向にあり、教室に入ることができない児童
- (5) 教師とゆっくり話をしたい児童・話をする必要のある児童

7 研究方法

（できる限りの視覚化を図り、児童の自信とやる気、教員のやりがいの向上と負担軽減につなげていく）

(1) 研究の進め方

- ア 不登校対策委員会の設置・運営
- (7) 年度当初に不登校対策委員会の組織を編成する。状況に応じて出席者の入れ替えをする（不登校対策主任、生徒指導主事、該当担任、SC、養護教諭等）。
- (4) 月1回の不登校対策委員会を開催する。
- a 委員会開催1週間前にはイントラネット上に資料（支援シート）を載せる。
- b 出席者は、論点を整理しておき会に臨む。
- c 資料はできるだけ、数値化して表すよう心掛ける。
- (4) 児童によって、取組・対応の仕方、有効性等は違ってくるため、本児に適したと思われる支援の創造・実施を検討していく。
- イ 不登校対策主任（教頭）を核とした子供の居場所づくり
- (7) アンケートや方策、取組・活動の創造・実施

- (4) 保護者・児童・担任・関係機関との連携

(2) 検証方法

管理上、不登校児童のレベルをLv. 1からLv. 3の3段階に分けて検証していく。

Lv. 1 完全不登校児童（1か月以上連続して欠席している児童）

「家庭から学校へ目を向ける復帰（間接的な人との繋がり）」について

step 1 完全引きこもり児童

手立てとして、電話連絡、家庭訪問、客観的受容度評価（客観的受容度評価とは、接触した日に担任の主観で、本児また保護者の学校に対する受容度を5段階で評価し記録しておくこと）、関係機関との連携を行う。

step 2 自宅内でなら学習も可能な児童

手立てとして、オンラインでの繋がり、今日の明るさモニターを行う。

step3 自宅からの外出が可能ながら学校への登校は難しい児童

手立てとして、家庭での目標設定、オンラインでの学習支援を行う。

Lv. 2 不登校児童（欠席日数30日以上の児童で、1か月以上連続した欠席が無い児童） 「学校へ戻る復帰（大人との直接的な繋が り）」について

step1 SRすだち・SC室・通級室での活動ができる児童

手立てとして、面談、ファーストアンケート、すだちアンケート（こころのへんかリーダー）を行う。

step2 部分的登校、SRすだちでの学習ができる児童

手立てとして、本人の目標設定、ルールづくり、スケジュールシート（1日のスケジュール管理）を行う。

step3 週に数日の1日登校、SRすだちでの学習ができる児童

手立てとして、◇◇さんメーター（学校に登校できた回数グラフ）を行う。

Lv. 3 不登校傾向児童（病欠以外の理由で、欠席日数が20日以上30日未満の児童） 「自教室に戻る復帰（友達との直接的な繋が り）」

step1 週に数日の在籍学級での登校、友達との活動ができる児童

手立てとして、◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）、三者日記（本児－教師－保護者）を行う。

step2 毎日常在籍学級への登校ができる児童

手立てとして、郡山市の「心身の健康状態を可視化するツール」を行う。

step3 完全復帰

Ⅲ 研究の実際

1 不登校対策委員会の運営

不登校児童、不登校傾向児童が在籍する学級担任が作成した支援シート **資料1** をもとに不登校対策主任（教頭）、該当担任等で委

員会を開催した。会終了後、不登校児童・不登校傾向児童の支援状況一覧 **資料2** にまとめ、一目で対応状況が分かるようにする。なお、支援シートは、福島県義務教育課「不登校対応資料Vol.5」を参考に自校化したものを使用する。

2 不登校対策主任（教頭）を核とした子供の居場所づくり

Lv. 1 完全不登校児童（1か月以上連続して欠席している児童）

(1) ケース1 電話連絡、家庭訪問

担任による電話連絡、家庭訪問を定期的実施してきた。なかなか話す機会には恵まなかったが、昨年度末からはSCにも同行していただき、粘り強く訪問を続けた。進学について話が出た際には、教頭も同行し、話合いに参加した。ただし、本人には2年間で1度しか会うことが叶っていない。

(2) ケース2 オンラインでの繋がりと、関係機関との連携

昨年度、総合教育支援センターのふれあい学級を勧め、何度か参加することができた。第1学期始業式に登校できたが、その後、登校できない日が続いた。定期的に担任が電話連絡、家庭訪問を繰り返し、学校での面談も実施することができた。病気に起因していることもあり、児童の体調に合わせて、オンラインでのやりとりを進め、粘り強くアプローチをしている。明るさモニター **資料3** については提案はしたものの活用には至っていない。なお、明るさモニターは、認知行動療法の手法を参考に作成したものである。

(3) ケース3 オンラインでの学習支援

授業支援クラウド「ロイロノート」を活用し、家庭学習の支援 **資料4** を行った。具体的には、喜楽研「教科書プリント（国語、算数）」や、単元テストをPDFにして配信し、児童は自由な時間に回答して教頭に返信。教頭が採点をして再び送信をするという方法である。現在では、不登校児童以外にもSRす

だち利用対象者を中心に、6名の個別支援を行っている。課題は、個々にあった学年のものを児童・保護者・担任とで相談して選択し、担任がPDFにする。なお、データ配信については、業者、出版社、SARTRAS事務局にも確認し許可を得て実施している。

Lv. 2 不登校児童（欠席日数30日以上 の児童で、1か月以上連続した欠席が無い児童）

※ ケース4～8までは複数を対象に実施

(1) ケース4 面談、ファーストアンケート

学校へ登校できている児童には、始めにファーストアンケート(奉仕・自立アンケート)**資料5**を実施した。教頭が補足説明をしたり、追加の質問をしたり、雑談を挟んだりしながら行った。それをもとに児童理解・支援シート**資料6**を作成し、資料として活用した。なお、ファーストアンケートは、文部科学省「不登校に関する実態調査」～平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～を参考に作成したものである。

(2) ケース5 すだちアンケート

同時に、すだちアンケート(こころのへんかレーダー)**資料7**を実施した。定期的に児童の心理状態を把握し、声かけや支援の参考とした。このアンケートは、不登校児童はもちろん、不登校傾向児童やSRすだち利用対象者にも実施しており、変化を見るために定期的に行っている。なお、すだちアンケートは、文部科学省「不登校に関する実態調査」～平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書(概要版)～、SCからいただいた論文資料「小学生用不登校傾向尺度の作成と信頼性・妥当性に関する検討」(五十嵐哲也)を参考に作成したものである。

(3) ケース6 スケジュールシート

家庭で規則正しい生活が送れるようにする目的で、スケジュールシート**資料8**を作成したが活用までには至らなかった。なお、スケジュールシートは、福島県義務教育課「不登校対応資料Vo1.5」、令和5年度福島県子

どもの居場所づくり支援事業「知恵空間」の資料を参考に作成したものである。

(4) ケース7 SRすだち

昨年度までの保健室登校を、養護教諭の負担軽減を考え、有用的に機能できるよう「SRすだち」**資料9**を新設した。教室環境としては、民間の事業所を見学し、本校の特別支援教室を参考に、クールダウンスペースともなり得るよう工夫してレイアウトした。

(5) ケース8 ◇◇さんメーター(学校に登校できた回数グラフ)

◇◇さんメーター(学校に登校できた回数グラフ)**資料10**を作成し、自分の頑張りを振り返れるよう、教室で過ごした時間を可視化して児童に渡した。ケース6のシートもそうであるが、児童が自己マネジメント力を高めることができるようにとのねらいもある。

Lv. 3 不登校傾向児童(病欠以外の理由で、 欠席日数が20日以上30日未満の児童)

(1) ケース9 ◇◇さんメーター(教室に戻れた時間グラフ)

学級での時間割をもとに、◇◇さんメーター(教室に戻れた時間グラフ)**資料11**を作成。児童が教室に戻れた時間をパーセンテージで表し、学校での児童の頑張りを、児童-保護者-教師が共有し、家庭での称賛にもつながるよう、毎日家庭への配信を行った。

3 個別支援

(1) 朝の家庭訪問

新たな不登校児童を出さないため、少しでも行き渋りの兆候が見られた時には、朝の時間、積極的に家庭まで迎えに行くようにした。

(2) 関係機関とのZoom会議資料12****

学校が中心となり、学校内(保護者、児童相談所、相談支援事業所、訪問看護ステーション、放課後デイサービス、担任、教頭)と、福島県総合療育センター医師とをリモートでつなぎ、児童支援についての共通理解を図るために、Zoom会議を開催した。

(3) 栽培活動資料13****

手つかずの花壇を利用し、不登校児童や不登校傾向児童、特別支援教室在籍児童で栽培活動を行った。ナス、インゲン、キュウリ、トマト、サツマイモ、スイカ、イチゴを栽培。苗の定植から世話、収穫と行った。

(4) 九九の習得 **資料14**

SRすだち利用対象者（4年生）に、九九の習得を行った。まずは、九九の習熟度テストを行い現在の状態を把握。次に、ランダムに81問の問題を10回ほど出題し苦手な式を洗い出した。最後に、洗い出した式をランダムに並べ替えて繰り返し出題した。問題作成には、チャットGPTを活用した。

(5) 計算ランキング **資料15**

SRすだち利用対象者（3年生）に、郡山市で採用しているアプリ「計算力トレーニング（JoyPlot）」を活用し、たし算とひき算の問題で、解答時間をランキング形式で自己の記録と競い合わせた。

(6) ご褒美シール **資料16**

SRすだち利用対象者（1年生）に、オペラント条件付けの手法を用いた。目標段階を設定し、対象者自身が頑張ったと評価した場合、担任が頑張ったと認めた場合に、教頭の下で、ご褒美シールを貼ってあげた。「〇時間在籍学級にいたることができたら」、「友達に暴言暴力をしなかったら」など、定期的に本人と話し合い、目標段階を強化していった。

IV 成果と課題

1 不登校対策委員会の設置・運営

＜評価B＞ **達成率80%**

昨年度まで、生徒指導主事が不登校についての運営を管理し報告するのみであったが、今年度から生徒指導と不登校対策を分けることで、役割が明確になるとともに、縦の報告・連絡・相談体制が確立し、支援状況の把握が容易になった。ただし、月1の会議が増えたことで負担感が増したという声も聞かれた。2学期からは、月1の資料は作成するが、①話し合いを希望する担任、②不登校対策主任

（教頭）が話し合いが必要と判断した児童の担任のみで構成するよう改善していきたい。

不登校対策委員会の設置で、支援状況の把握が容易になった。委員会の運営については、負担感を減らす改善が必要である。

2 不登校対策主任（教頭）を核とした子供の居場所づくり

Lv. 1 「家庭から学校へ目を向ける復帰（間接的な人との繋がり）」 **達成率90%**

(1) ケース1 電話連絡、家庭訪問

＜評価A＞

図1 A児出席率 **（※変化無し）**

ケース1	休み始め	R5.4-7	R6.4-7
A児	H31.1-	0.0%	0.0%

担任が足繁く訪問したこと、粘り強く「一歩前に進んでみませんか？」と言葉をかけたことで、少しずつ保護者の学校に対する態度が軟化したように感じる。SC、教頭の訪問は、保護者にとっては煩わしいかもしれないが、担任とは違った気持ちの変化を生むのかもしれない。顔を合わせ、家庭と学校が繋がっていることは、地道ではあるが、もっとも基本的で、効果的な手段だと再認識することができた。ただし、保護者との会話の中で、「兄も不登校であったが、成人した今楽しく遊びに出かけられている。不登校でも心配ない。」という言葉が気がかりではある。客観的受容度評価 **資料17** については、評価規準はできているので活用の段階まで来ている。

(2) ケース2 オンラインでの繋がり、関係機関との連携 **＜評価A＞**

図2 B児出席率 **（※7月から再登校）**

ケース2	休み始め	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6avg.
B児	R6.4-	6.3%	0.0%	0.0%	28.6%	7.0%

保護者との面談の中で「不登校でも生活保護を受ければ、将来何とか暮らしていける」という言葉が気がかりではあったが、7月に学校に再登校するようになった。本児の体調が良くなったということもあるだろうが、郡山市総合教育支援センターふれあい学級での

活動や、担任の努力が、本児の心に通じ、心情に変化をもたらせた可能性も高い。今後、明るさモニターを用いた心の経過観察へとつなげていきたい。

(3) ケース3 オンラインでの学習支援

＜評価A＞

図3 C、D児出席率（※昨年比10%増）

ケース3	休み始め	R5.4-7	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6avg.
C児	R5.9-		37.5%	28.6%	5.0%	14.3%	21.1%
D児	R4.11-	15.3%	18.8%	42.9%	20.0%	21.4%	25.8%

これはかなりの効果が出ていると感じている。宿題や学習に抵抗があった児童も、毎日確実に提出することができており、ICTの力である。ただ、不登校児童、不登校傾向児童、SRすだち利用対象者に、一般的に多く見られる状態の1つがデジタル依存であることを考えると、この支援法には学校側、家庭側それぞれに明確なルールが必要である。

検証結果 本児や保護者との定期的な接触を通じて、学校と家庭の関係が強化され、結果として、本児または保護者の態度や心情、学習意欲に良い変化が見られたことから、この取組の有効性が示された。また、担任と関係機関との密接な連携は、本児の学校への復帰や学習への積極性向上に寄与していることが観察され、家庭から学校へ目を向ける1つのきっかけに成り得ることが分かった。一方で、家庭環境やデジタル依存などの課題も危惧され、今後の改善点として考慮すべき点が明確になった。

Lv.2 「学校へ戻る復帰（大人との直接的な繋がり）」達成率70%

(1) ケース4 面談、ファーストアンケート

＜評価B＞

現在までに、10名の児童を対象にアンケートを実施している。教頭が対応したときのことを中心に補助簿としての役割を果たしている。なかなか全学年に対応できる質問項目というのは難しく、アンケートは教頭が補助をして行っている。今後は、自分一人で回答

できるよう改善を加えたい。また、担任は、校務支援システムの「気づき」内に支援状況を記録しているため、ファーストアンケートと連携できるようにしていきたい。

(2) ケース5 すだちアンケート＜評価B＞

取組としてみれば、児童の心理変化を見るのにはいいのだが、変化を見る分析の仕方にはまだまだ改善の余地がある。現在までに、11名の児童を対象にアンケートを実施、活用しており、「保健室に頻繁に来る児童へアンケートをしてもらえますか」と養護教諭から言われ、実施したこともあった。心に不安を抱えている児童や不登校になりそうな児童、生徒指導が必要な児童など、対象を広げていくと共に、児童の心の状態を知るため、話のきっかけを掴むため、担任にも幅広く活用してもらいたい。

(3) ケース6 スケジュールシート

＜評価C＞

こちらについても提案はしたのだが、明るさモニター同様、実施までには至っていない。手書きということもあり、生活習慣が乱れがちな児童にとっては、ハードルが高いのかもしれない。タブレット上で使えるものへと改善を加えていきたい。

(4) ケース7 SRすだち＜評価B＞

昨年度の段階では、教頭が運営に関わると考えていたが、諸事情により、1日に1時間、運営に携われるかどうかの状況が続いた。その他の教職員では、確実に負担過重となってしまう。状況に応じた運営の工夫が必要である。現在まで、週1回の分室、部分的登校の児童が教室に入る前に心の準備をする部屋、教室からの離脱を繰り返す児童の学習支援の部屋、クールダウンの部屋、として機能してきた。夏期休業中には、植物や遊具を設置してSRすだち教室内の環境整備を行う予定である。また、SRすだち利用者に利用日記**資料18**を書かせることで、利用時間内の自分自身の振り返りをさせていきたい。

(5) ケース 8 ◇◇さんメーター（学校に登校できた回数グラフ）＜評価 C＞

使用した児童は2名。2名とも、昨年度より今年度は登校回数が増えたスタートを切れたが、どちらも1学期途中で週1登校となってしまった。これだけでは、効果が見られたとは考えにくい。後述する◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）は一定の効果があったことと比較すると、ポイントとなるのは、保護者に直接伝えたか否かである。称賛の回数に関係するのかもしれない。

検証結果 以上のケーススタディを通じて、アンケートを基盤としたSRすだちでの取組が、児童と教師との距離を縮め、学校への抵抗を薄れさせる効果が一部で確認され、子供たちに今後どのように居場所をつくっていけば良いかの重要な手がかりとなった。しかし、在籍学級への登校ができるようになった児童、変化が見られない児童、逆に欠席が増えた児童と、個々に違いが見られたのも事実である。他には、タブレットを活用したアンケートの項目や利用方法の改善が課題として残された。これからも効果的な支援方法の確立を目指し、児童と教師や学校との距離感が更に近づくよう努力しなければならない。

Lv. 3 「自教室に戻る復帰（友達との直接的な繋がり）」 達成率 90%

(1) ケース 9 ◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）＜評価 A＞

教室に戻れた時間を短いスパンで見直し、目標を少しずつステップアップ。3月を目標に100%が目指せるよう、グラフ化していた。その日の反省を教頭が記入し、家庭へ送信。反省は、成長が見られたことを多く記入した。家庭でのコミュニケーションと称賛が増える結果につながったのではないかと想像できる。ケース8と比較すると、この取組は、自己マネジメント力を高めると共に、自己肯定感も高めたのではないかと考える。

検証結果 短期間での目標設定とグラフ化によるできる限りの視覚化を図り、家庭との連携を図ったことは、児童の自己マネジメント力の向上と自己肯定感を高めるのに大変有効であり、結果として友達との距離も縮まり、学期末の教室復帰へとつながったと考える。課題としては、自教室での活動との調整が難しかったことである。

3 個別支援 達成率 95%

(1) 朝の家庭訪問＜評価 A＞

朝という時間、児童は登校への不安が増し、保護者は焦り、最も手助けを必要とする時間であろうと考え、保護者の了解を得てから、教頭、教務主任が積極的に朝の迎えに行った。迎えに行かなくとも不登校にならなかったかもしれないが、3名の行き渋りが解消した。

(2) 関係機関とのZoom会議＜評価 A＞

図 4 E 児出席率（※フリースクール復帰）

Zoom会議	休み始め	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4-	R6avg.
E 児	R5.12-	84.6%	73.3%	63.2%	60.0%	100.0%	100.0%

会議開催（R6.2.7）後、今年度に入り、本児はフリースクールに休まず通えるようになった。また、会議以降、頻りに連絡を取れる状態となり、現在行っている支援の共有と様々な支援方法について手立てを広げることができている。夏季休業中には、フリースクールとの話し合いをもつ予定である。

(3) 栽培活動＜評価 A＞

図 5 F 児出席率（※昨年比 17%増）

栽培活動	休み始め	R5.4-7	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6avg.
F 児	R4.11-	12.5%	50.0%	19.0%	30.0%	21.4%	29.6%

植物は、世話をしないと枯れてしまうことを該当児も意識しているためか、昨年度に比べ登校回数が増えた。水やりや人工授粉に熱心に取り組み、休日も世話に来ることもあったようである。収穫は楽しらしく、採り立てのイチゴを食べたり、自分が希望して育てているナスや、キュウリ、インゲンを収穫し、家で食べ満足しているようでもある。スイカとサツマイモの収穫を心待ちにしている。

(4) 九九の習得 <評価A>

3名の児童に毎日支援してきた。1名は完全習得。1名は卒業試験を残すのみ。1名は6×9と9×6の習得だけ。日々、習得数が増えるためやる気も継続していた。チャットGPTは、違う問題構成を瞬時に作成してくれるためかなりの時間短縮になった。

(5) 計算ランキング<評価A>

たし算100問を解くのに6分かかっていたのが、記録更新のたびに自信を付け、自教室の友達、他の学年の児童とも勝負を挑むようになっていった。「自分は計算が苦手。」と言っていた児童が、毎回3分を切るようになり、友達からも「◇◇くん、すごいね」と称賛されていた。ひき算やかけ算の問題にも意欲的に挑戦する姿が忘れられない。

(6) ご褒美シール<評価B>

2名の児童に支援してきた。1名は意欲が継続し効果が現れたが、1名は条件に対する要求が増えたり、目標に甘くなったりと、その時々で感情で対応することが多かった。

朝の家庭訪問は、新たな不登校児童を出さないための早期対応として不可欠であった。関係機関とのZoom会議を設定できたことは、情報を共有し、支援の幅を広げるのに有効であった。個に応じた支援（目標・目的の設定）は、児童に満足感や達成感、自信、意欲を与えることができた。今後は、特性に応じた支援の更なる強化と、各教室で体調や心の状態を見るため、郡山市の「心身の健康状態を可視化するツール」の活用を図りたい。また、様々な取組が、すぐに教員のやりがいの向上や負担軽減に結び付いたかは個人の感じ方にも依るため、意見を集約し取組を見直してより良いものにつくり上げていきたい。併せて、この研究には、担任、そして7学年の先生方の多大なる協力があってこそ為し得たものである。先生方の努力に、感謝と敬意を表したい。

V 今後の実践に向けて

常にベターな進化・改善を目標として研究してきた取組の強化を振り返り、研究の成果と課題をもとに、今後の実践に向けた具体的方針を以下の通りに考えた。

具体的方針

- 1 支援状況の把握のため「不登校対策委員会の運営形態」を見直す。
- 2 児童や保護者の心情に良い変化をもたらすため「定期的な接触」の機会を継続する。
- 3 居場所づくり、児童支援のため「アンケートやSRすだち」の効果的な活用を図る。
- 4 自己マネジメント力、自己肯定感向上のため「目標設定とグラフ化」を用いる。
- 5 課題をのりこえる力（レジリエンス）育成のため「SR利用日記」を書かせる。
- 6 支援方法の幅を広げ、情報共有と理解を深めるため「関係機関との連携」を図る。
- 7 児童に満足感や達成感、自信、意欲を与えるため「特性や状況に応じた個別支援」を行う。
- 8 担任への支援の質と量を向上させるため「担任との連携方法」を確立する。
- 9 児童や保護者と信頼関係を築くため「家庭での目標設定や三者日記」を導入する。
- 10 家庭へのアドバイス支援を行っていくため「デジタル端末使用率」を調査する。
- 11 新たな不登校児童を出さないため「研究成果を活用した防止策」を創出する。

これらを踏まえて、すだちプロジェクト「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化、教頭としてできることを、今後も精一杯推進し続けていきたい。

VI エピローグ

十数年前の卒業式。不登校傾向を示していた◇◇さん。「毎日、迎えに来てほしくなかった。」と、最後にぽつり。よかれと思ってやっていたことが、この子をこんな思いにさせていたのか。何が正解だったのか。子供にとっての安心できる本当の居場所とは何なのか。日々、葛藤と創造の連続である。

資料、参考文献・参考施設

資料1 支援シート

支援シート (担任用)

記録日 6年 7月 8日

最終更新日 6年 7月 8日

児童名		姓 名										
出席者		姓 名										
苦戦していること												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
欠席日数	2回	4回	33回 <small>(学年25出席日)</small>	2回								
プラス面 マイナス面 実践したこと												
支援上の悩み												
目標												
今後の方針 分担 調整												
不登校対応 委員会半日	4/22	5/22	6/26	7/17	8/26	9/25	10/23	11/27	12/11	1/29	2/26	

資料2 支援状況一覧

R6不登校児・不登校傾向児 支援状況一覧

R6.7.19

No.	氏名	学級	Level						関係機関							最終接触日	備考							
			I 家庭		II 学校		III 学級		SC	通級	総教	子家支	児相	訪デイ・訪看	民生委・児童委			医療	警察	その他				
			1 連絡訪問	2 オンライン	3 家庭の目標	1 アンケート	2 本人の目標	3 日記													1 メーター	2 メーター	3 完全復帰	
1									○		○												総教と連携開始	
2									○															9月検査へ 登校できる日を探る
3							-3		○	○														オンライン支援 訪問後トラブル 放課後
4									○		○													総教と連携開始
5									○															
6									○															オンライン支援開始
7									○															
8																								
9									○															SCへ、接触回数増
10																								面談実施へ
11							±0		○	○		○	○			○								家庭内暴力減・FSとの連携
12									○	○						○								週2回を目指す
13										○														SCへ・定期的なオンラインへ

資料3 明るさモニター: Googleフォーム

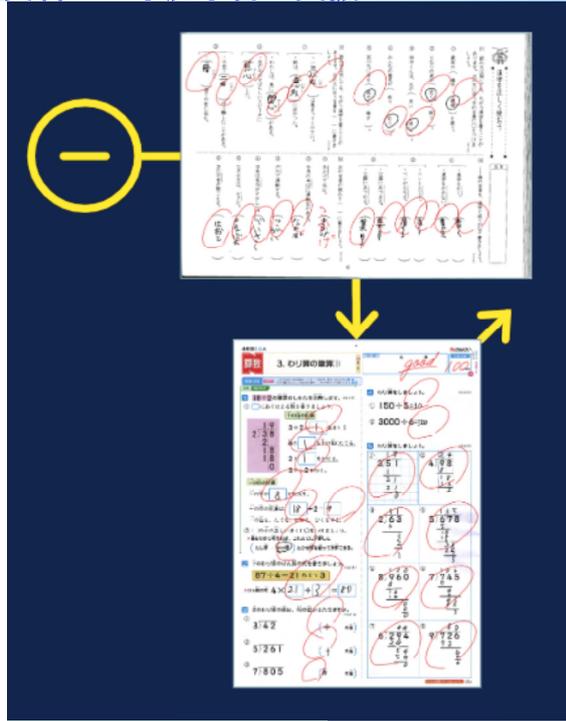
資料4 家庭学習の支援

明るさモニター

気分が明るくなったときにきろくしておくアンケートです

*必須の質問です

- あなたの名前は何ですか？
- 今日は何曜日ですか？
1つだけマークしてください。
 月
 火
 水
 木
 金
 土
 日
- 気分が明るくなったのはいつですか？
1つだけマークしてください。
 朝
 昼
 夜
- 気分が明るくなったのは何をしたらですか？
- 明るさ何パーセントですか？
1つだけマークしてください。
 10%
 20%
 30%
 40%
 50%
 60%
 70%
 80%
 90%
 100%



そういえば、学級の宿題金曜日に全て終わったので、夏休みの宿題欲しいです。できれば少なめで笑笑。学習は、教頭先生の宿題によって結構わかるどころが多くなってきました。月曜日、7月22日フリースクールに行って中学校レベルの勉強をしました(プリント)。でも漢字の読みは結構好きなんです。話は戻ってロイノノート学習については結構いいと思います。これからもやっていきたいと思います。2学期は続けてスタサブなどもやっていきたいです。

児童の感想

資料5 ファーストアンケート (奉仕・自立アンケート): Googleフォーム

ファーストアンケート

社会の役に立つ人になるため、人に頼らないで自分で行動できるようになるためのアンケートです

*必須の質問です

- きっかけ
- 問1 あなたが学校を休(やす)みはじめた、教室(きょうしつ)に行(い)けなくなったとき、どのきっかけは何(なん)ですか。思(おも)い当たるものすべてをえらんでください。
 当てはまるものをすべて選択してください。
 友達との関係(いやがらせやいじめ、けんかなど)
 友達との関係(それ以外)
 先生との関係(先生と合わない、先生がこわい、ちゅういがおおい、たたくなど)
 勉強が分からない(じゆぎょうがおもしろくない、せいせきがよくない、テストのてんがよくないなど)
 クラブや特級活動の友達との関係(ともだちからのいじめ、ほかのともだちとうまくいかなかったなど)
 学校のきまりなどの問題(学校のきまりがきびしいなど)
 入学、転校、進級などして学校や学級になじめない(てんこう、しんきゅうしたときになじめなかったなど)
 学校生活が合わない(がっこうにいるのががたがた)
 親との関係(おやがおこる、おやのことばやたいどにイライラする、おやとかいのがはとんどないなど)
 親の考え(おやが学校にいかなくてよいといっている)
 家族の不和(おとうさんとおかあさんのなかがわるい、おじいちゃんおばあちゃんとおやのなかがわるいなど)
 家族の生活環境の急激な変化(おとうさん、おかあさんがしごとでとくにおくでかかっている、おとうさん、おかあさんがいなくなった、おとうさん、おかあさんのしごとがかわったなど)
 身体の不調(学校にいくとどうもおなかがいなくなるなど)
 生活リズムの乱れ(あさ、おきられないなど)
 インターネットやゲーム、動画視聴、SNSなどの影響(いちどはじめるをやめられない、学校よりたのしいなど)
 兄弟姉妹や親しい友達の中に、学校を休んでいる人がいて影響を受けている(きょうだいしやまいがやすんでいるのに、どうしてじぶんだけ学校にいかなければならぬのかとおもってしまう)
 なぜ学校に行かなくてはならないのかを理解できない(学校にいかなくてよいとおもっている)
- きっかけがなにかしづんでもよくわからない
 とくにきっかけはないとおもう
 その他: _____

2 休(やす)み始(はじ)めた、教室(きょうしつ)に行(い)けなくなった学年(がくねん)・時期(じき)

問2 あなたが最初(さいしょ)に学校を休(やす)みはじめた、教室(きょうしつ)に行(い)けなくなったのは、何年生(なんねんせい)の何月頃(なんがつごろ)ですか。学年(がくねん)と時期(じき)のそれぞれをえらんでください。

- a. 学年*
1つだけマークしてください。
 1年生
 2年生
 3年生
 4年生
 5年生
 6年生
 わからない
- b. 時期*
1つだけマークしてください。
 4~6月
 7~9月
 10~12月
 1~3月
 わからない

3 継続の理由 (つづいている理由)

7. 問3 あなたが学校を休(やす)んでいる、教室(きょうしつ)に行(い)けなくなっているのが続(つづ)いている理由(りゆう)は何(なん)ですか、思(おも)いあたるものすべてをえらんでください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- いやがせやいじめをする生徒の存在や、友達との人間関係のため(まだいやがせやいじめがつづいているため)
 先生との関係(先生がこわい、注意が多い、たたくなど)のため(また先生がそうなるとおもってしまつたため)
 家で遊ぶため(いそいであそぶため)
 無気力でなんとなく学校へ行かなかったため(やるきがないため)
 学校へ行かないことをあまり悪く思わなかったため(学校にいなくてもいいとおもっているため)
 友達が増えに来たり強く催促されたりすると学校へ行かなくなり、長続きしなかったため(とちどちがつかえにきたり、とちどちから学校にくるようになりわづらなくなったため)
 学校へ行こうという気持ちはあるが、身体の調子が悪いと感じたり、ぼんやりとした不安があったりしたため(学校にいきたいのに、からだのちやうしがるくなくなったり、ふあんなになっているため)
 なぜ学校に行かなくてはならないのか理解できず、自分の好きな方向を選んだため(じぶんのしやうらいにひつようなものをみつけたため)
 親から登校するようにすすめられます。家にも親から注意されなかったため(おやからなにもいわれなかったため)
 早起きされないほど生活リズムが壊れていたため(あさおきられないほどせいりつリズムがみだれているため)
 勉強について行けなかったため(べんきようについていけなくなったため)
 先生から学校から登校するように働きかけがあったため(先生から学校にくるよういわれなくなったため)
 保護者やまわりの人に学校を休んでもいいと励まされたため(やすんでもいいとアドバイスをうけたため)
 わからない
 その他: _____

4 支援のニーズ(してもらいたいこと)

8. 問4 先生にどのようなことをしてもらいたいですか、思(おも)いあたるものすべてをえらんでください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 中学校へ向けての相談や手助け(これからのことについてのアドバイス)
 学校の勉強についての相談や手助け(べんきようについてのアドバイス)
 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け(しやうらいのため)のアドバイス)
 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあうための方法についての指導(じぶんをかえるためのアドバイス)
 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所(とちどちとすごすためのアドバイス)
 心の悩みについての相談(しんぱいしていることについてのアドバイス)
 規則正しい生活習慣についての指導(いそでのせいりつリズムについてのアドバイス)
 アドバイスをうけたくない
 その他: _____

5 休(やす)んでいるときの気持ち

9. 問5 学校を休(やす)んでいる、教室(きょうしつ)に行(い)けなない時(とき)のあなたの気持ち(きもち)について、当(あ)てはまるものすべてをえらんでください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ぼつとした-さくおきもちだった
 じゆうじかんがふえてうれしかった
 はやく学校に、きょうしつにもどれたかったが、もどれなかった
 べんきようのおくれがふあんだった
 しんきゆう(しんきゆうになること)がふあんだった
 じぶんのことがいやでしかたなかった
 とくにみんなをかんじたり、きにしりすることはなかった
 じぶんじしんはわるいこととおもわなかった
 学校の先生たちがどうおもっているかふあんだった
 学校のともだちがどうおもっているかふあんだった
 かぞくがどうおもっているかふあんだった
 きんじよのひとがどうおもっているかふあんだった
 その他: _____

6 学習ニーズ(べんきよう)でしてもらいたいこと)

10. 問6 勉強(べんきよう)を続(つづ)けたいと思(おも)っていますか、どちらかをえらんでください。

1つだけマークしてください。

- おもっている
 おもっていない

11. 問6-1 問6で「1. おもっている」を選(えら)んだ方(かた)にお聞(き)きします。勉強(べんきよう)を続(つづ)けやすいのはどのような方法(ほうほう)でしょうか。あてはまるものすべてをえらんでください。 ※ わからないばしよやひとについてはしつもんしてください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学校の教室以外(いかり)の場所(ばしよ)で勉強(べんきよう)する
 先生が家庭(かてい)に訪問(ほうもん)し勉強(べんきよう)する
 総合教育支援センター(ふれあいがっけいゆう、ほうぶぶんしつ、サテライトぶんしつ)にかよう
 民間施設(「フリースクール」とよばれるばしよなど)にかよう
 民間の教育機関(がくしゆうじゅくなど)にかよう
 手紙(てがみ)、FAX、電子(でんし)メール、インターネット、電話(でんわ)などを使(つか)って親(おし)にえらもらいながら家庭(かてい)で勉強(べんきよう)する
 「2. おもっていない」をえらんだ。
 その他: _____

12. 問6-2 問6で「2. おもっていない」を選(えら)んだ方(かた)にお聞(き)きします。学校以外(いかり)であっても勉強(べんきよう)を続(つづ)けたいと思(おも)わないのはなぜですか。いちばん近(ちか)いものをひとつだけ選(えら)んでつけてください。

1つだけマークしてください。

- べんきようがきらいだから
 べんきようにはいがあるとおもえないから
 べんきようがいかにやりたいことがあるから
 学校がいやでべんきようをつづけるくらいなら学校へいくから
 なにもやるきがないから
 「1. おもっている」をえらんだ。
 その他: _____

7 施設の利用希望(がっこういかり)のきぼう)

13. 問7 1~8のような場所(ばしよ)を利用(りよう)したり、9~13のような人に相談(そうだん)したりしてみたいですか、利用(りよう)したり相談(そうだん)したりしてみたいものすべてをえらんでください。 ※ わからないばしよやひとについてはしつもんしてください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 総合教育支援センター(ふれあい学級、方部分室、サテライト分室)
 こども家庭支援課
 児童相談所、福祉事務所
 福島県教育センタ 「ダイヤル5050」-ふくしま子ども5050相談
 保健所・保健センター
 病院、診療所
 民間施設(「フリースクール」とよばれる場所など)
 民間の機関(心理相談、カウンセリングなど)
 学校の養護教諭(ほけんしつ)の先生)
 学校の先生(たんにんの先生)
 学校の先生(そのほかの先生)
 スクールカウンセラー
 スクールソーシャルワーカー
 なにもりようしたくない
 その他: _____

資料6 児童理解・支援シート

取扱注意

児童理解・支援シート



学校名 郡山市立桜小学校
 よみがな 0
 児童名 0
 更新日 0

児童理解・支援シート

更新日 令和6年7月8日
 学年組 担任者

【基本情報】

よみがな	性別	生年月日	携帯番号	勤務先
児童名	男			
父親名	父			
母親名	母			
住所				

保護者様への上での基本的情報・学校構成
 第一希望校、通学形態
 上級学校名、希望する卒業校名

【学年別欠席日数】 休みの日・教室に行けなかった学年・時期

学年						学期												
小1	小2	小3	小4	小5	小6	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	

【アンケートより】

型 無気力型 遅び・非行型 人見知り型 複合型 その他型

きっかけ
 理由
 継続理由
 支援・学習のニーズ
 備考
 考察

【支援経過】

年月日	支援経過
令和6年7月8日	作成

資料7 すだちアンケート (心の変化レーダー) : Googleフォーム

すだちアンケート

あなたのこころのへんかを知るためのアンケートです

*必須の質問です

1は、「いいえ」 2はどちらかといえば「いいえ」 3は、どちらかといえば「はい」 4は「はい」です。

4. Aa がっこうは、たのしいですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

9. Bb いえは、たのしいですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

14. Cc しゅみは、ありますか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

5. Ab せんせいとのかんけいは、いいですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

10. Bc あきごはん、ひるごはん、ばんごはんをたべていますか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

15. Cd しょうらいのゆめやもくひょうは、ありますか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

6. Ac がくしゅうは、がんばっていますか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

11. Bd はやね、はやおきをしていますか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

16. Da 学習へのサポートは、ひつようないですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

7. Ad ともだちとのかんけいは、いいですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

12. Ca ふあんやかなしき、いやなことは、ないですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

17. Db かぞくやせんせいにそうだんしたいことは、ないですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

8. Ba かぞくとのかんけいは、いいですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

13. Cb イライラやドキドキがつづくことは、ないですか*

1つだけマークしてください。

1 2 3 4
 はい

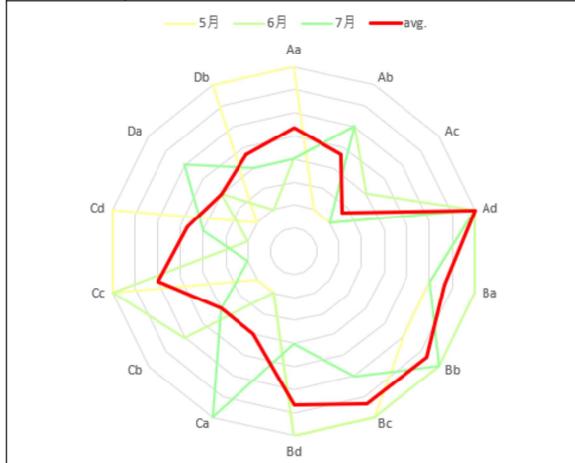
18. Dc そうだんしたいことがあるほあいは、かいてください

いじょうで、アンケートはおわりです

すだちアンケートから

年 組 番 名前

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	avg.
Aa学校	がっこうは、たのしいですか		4	2	2									2.67
Ab学校	せんせいとのかんけいは、いいですか		1	3	3									2.33
Ac学校・家庭	がくしゅうは、がんばっていますか		1	2	1									1.33
Ad学校・家庭	ともだちとのかんけいは、いいですか		4	4	4									4
Ba家庭	かぞくとのかんけいは、いいですか		3	4	3									3.33
Bb家庭	いえは、たのしいですか		3	4	4									3.67
Bc家庭	あきごはん、ひるごはん、ばんごはんをたべていますか		4	4	3									3.67
Bd家庭	はやね、はやおきをしていますか		4	4	2									3.33
Ca心身	ふあんやかなしきは、ないですか		1	1	4									2
Cb心身	ストレスやプレッシャーは、ないですか		1	3	2									2
Cc心身	しゅみは、ありますか		4	4	1									3
Cd心身	しょうらいのゆめやもくひょうは、ありますか		4	1	2									2.33
Daサポート	学習へのサポートは、ひつようないですか		1	2	3									2
Dbサポート	かぞくやせんせいにそうだんしたいことは、ないですか		4	1	2									2.33
Dcサポート	そうだんしたいことがあるほあいは、かいてください													



記述

月
1
2
3
4
5
6
7
8
9
0
1
2
3

考察

始めは、学校は楽しいと答えていたものの、回を重ねることで本心が見えてきた。初回以降、先生が話を聞き入れてくれたと感じていることが分かる。聞き取りをしていくうちに、母子分離不安が考えられるようになった。グラフからは、家庭での充実ぶりがうかがえたものの、事を返せば家を離れたくないということかもしれない。また、友達との関係づくりが苦手なようで、特定の友達とは仲良く過ごしているが、新しい友人関係を築けないということも分かってきた。趣味や将来についても曖昧に答えることが多くなり、初めのうちは、本音を話せなかったのかもしれない。

資料8 スケジュールシート

スケジュールシート

名前

- Z 来ていたじかん
- O そとへ行っていたじかん（がっこう、そとあそび、じゅく、ならいごと、かいものなど）
- N いえでデジタルデバイスがい（ごはん、がくしゅう、どくしょ、あそび、ふるなど）
- D いえでデジタルデバイス（スマホ、タブレット、パソコン、テレビ、ゲームなど）

月/曜	ごはん					ごご					よる					よなか					よる								
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1 月																													
2 火																													
3 水																													
4 木																													
5 金																													
6 土																													
7 日																													
8 月																													
9 火																													
10 水																													
11 木																													
12 金																													

資料9 SRすだち（立ち上げの文書と写真）

SSR（スペシャルサポートチーム）の設置について

R6.2.16

- 鈴木個人として考えていること

(1) 願い

保健室登校児童や職員室に来る児童の学びの場や相談の場を作り出し、個々の成長に合わせたそれぞれの巣立ち・成長を実現させてあげたい。

その機能を持つ部屋が保健室ではなく、SSR（スペシャルサポートルーム）となるようにしたい。養護教諭の負担軽減にも繋がる。保健室登校からサポートルーム登校へ。

児童と教職員が対話を通して様々な面からアプローチしていき、新しい環境、新たな学びの中で自分を見つめ、自分を発見し、自分が主となる居場所を創ってもらいたい。

(2) SSR立ち上げとなれば … 少しずつ整備

- ・ 会議室をSSR 1階多目的室（旧パソコン室）を会議室
- ・ 必要な物 … 机・いす4セット
- ・ パーティション、クールダウンスペース、テレビ、ゲーム、遊具、タイマー など

(3) 不登校傾向児（不登校対策委）と離席児（生徒指導委）は棲み分けする。

(4) 運営方法

- ・ 主が教頭となり、主に7学年で対応。

【SSR設置についての裏付け参考資料】

文科省

「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化

～ 令和5年10月17日 ～

不登校児童生徒等の学びの継続事業【別添1】

- 校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）
- ～ 「不登校の児童生徒への支援の充実について（通知）」令和5年11月17日～

福島県

福島県不登校児童生徒支援センター（roomF）

- SSR（スペシャルサポートルーム）の取組を支援しつつ、子どもたちの学びの選択肢の一つとしての機能を強化する
- ～ 「多様性を力に変える教育の実現について」令和5年2月24日～

郡山市

不登校対策でできること①

- SSR等の別室の設置
- ～ 「わたしの居場所ができた！」令和5年3月～

桜小

長欠（不登校）8名、長欠（病欠）8名、長欠傾向12名、計28名 5.5%
※ 通常級における特別な支援を要する児童の出現率と同等



資料10 ◇◇さんメーター（学校に登校できた回数グラフ）

学校で過ごした時間（月計）

		名前																				
		1.4時間30分																				
月日	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/28	
曜日	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	金	
朝																						
1校時																						
2校時																						
業間																						
3校時																						
4校時																						
昼																						
5校時																						
6校時																						

6月〇年生のあなたが考えうる目標
学校を1週間毎日がんばる。 R6最大連続登校5/15~21の5日間

学校で過ごした時間

教室で過ごした時間

名前

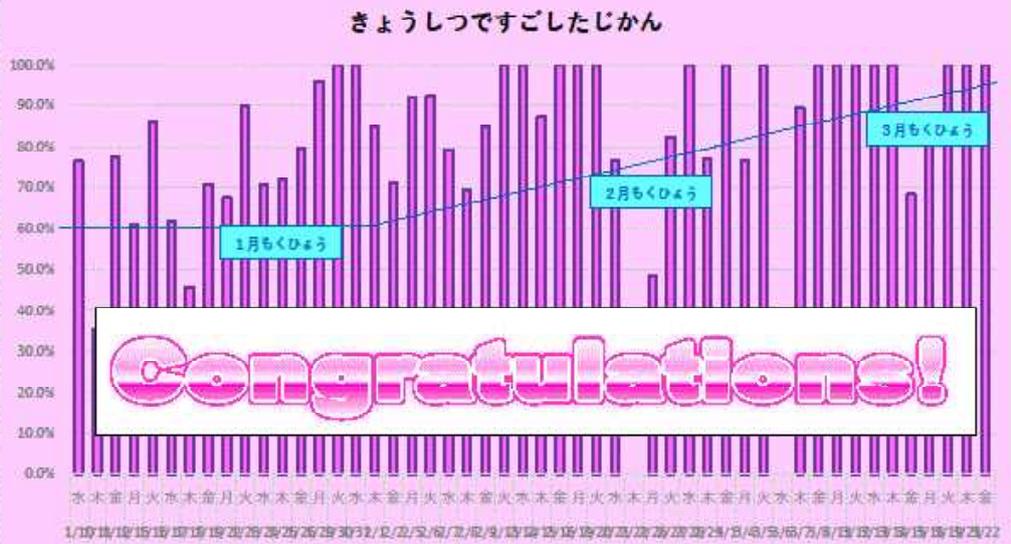
月日	1月29日	1月30日	1月31日	2月1日	2月2日
曜日	月	火	水	木	金
朝	🌸				🌸
1校時	🌸				🌸
2校時	🌸				🌸
業間	🌸				🌸
3校時	🌸		🌸		🌸
4校時	🌸				🌸
昼	🌸				🌸
5校時	🌸				🌸
6校時					

さんのいちにち 9月26日(火)

目標	...		
願い	...		
校時・時間	教科	内容	
1 08:30			
2 09:15			
3 10:05			
4 11:15			
5 12:05			
6 13:55			
7 14:25			
8 15:15			

資料11 ◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）

1710	水	76.5%
1711	木	85.4%
1712	金	77.6%
1715	月	60.8%
1716	火	86.1%
1717	水	61.8%
1718	木	45.6%
1719	金	70.7%
1722	月	67.6%
1723	火	89.9%
1724	水	70.6%
1725	木	72.2%
1726	金	79.7%
1729	月	95.9%
1730	火	100.0%
1731	水	100.0%
1732	木	84.8%
1732	金	71.0%
1735	月	91.9%
1736	火	92.4%
1737	水	79.4%
1738	木	69.6%
1739	金	84.8%
1743	火	100.0%
1744	水	100.0%
1745	木	87.3%
1746	金	100.0%
1749	月	100.0%
1750	火	100.0%
1751	水	76.5%
1752	木	89.9%
1753	金	82.3%
1754	月	100.0%
1759	木	77.2%
1760	金	100.0%



ロイロノートにて毎日の学校での様子や、一週間教室でみんなと授業を受けられた割合など、普段はなかなか知ることのできない学校での様子がわかり、安心して学校に送り出すことができました。お忙しい中毎日コメントまでくださり、本当に感謝しております。グラフにしてくださったので成果が一目でわかりやすく、息子が目標をもって授業に参加できていたように感じます。

また、畑のお仕事やランタン作りなど季節を感じることでできる体験をさせてくださったり、子どもの興味関心のあるキャラクターなどを用いてやる気をアップさせる工夫をしてくださったおかげで、息子にとって毎日の学校生活がより楽しくなりました。本当にありがとうございました。

1/29朝晩お風呂を2回入った【1校時】

2/27しっかり休んでいると書いて、2/28朝晩お風呂を2回入った【1校時】

2/29朝晩お風呂を2回入った【1校時】

2/30朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/1朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/2朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/3朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/4朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/5朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/6朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/7朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/8朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/9朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/10朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/11朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/12朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/13朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/14朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/15朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/16朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/17朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/18朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/19朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/20朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/21朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/22朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/23朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/24朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/25朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/26朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/27朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/28朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/29朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/30朝晩お風呂を2回入った【1校時】

3/31朝晩お風呂を2回入った【1校時】

保護者から

資料12 関係機関とのZoom会議

ケース会議記録

R6. 2. 7
桜小学校

総合療育センター ◇◇Dr.からは、適宜ご助言をいただきたいと思います。

1 自己紹介

保護者2 学校3 児相3 相談支援事業所1 訪問看護ステーション3 放課後デイサービス1

2 現状説明 (困っていること、支援していること)

(1) 家庭

母

母 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

父

父 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

(2) 学校

担任

担任 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

(3) 児童相談所

さん

さん 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

心理判定員

心理判定員 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

(4) 相談支援事業所、訪問看護ステーション

相談支援事業所

相談支援事業所 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

訪問看護ステーション

訪問看護ステーション 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

(5) 放課後デイサービス

放課後デイサービス 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

(6) SC

SC 先生、お世話になっております。お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。先生、お話を伺って、大変勉強になりました。

3 協議 (現状改善に向けての支援策の提案・検討)

T

放

母

T

Dr

母

Dr

T

Dr

資料13 栽培活動



資料14 九九の習得

かけ算九九(苦手特化)

月	日	名前
(1)6 × 8 =	(16)6 × 8 =	
(2)8 × 7 =	(17)7 × 6 =	
(3)4 × 6 =	(18)4 × 6 =	
(4)7 × 6 =	(19)8 × 6 =	
(5)6 × 9 =	(20)9 × 6 =	
(6)8 × 6 =	(21)7 × 8 =	
(7)7 × 3 =	(22)8 × 7 =	
(8)6 × 4 =	(23)3 × 7 =	
(9)9 × 6 =	(24)5 × 7 =	
(10)7 × 8 =	(25)6 × 9 =	
(11)3 × 7 =	(26)8 × 8 =	
(12)5 × 7 =	(27)6 × 7 =	
(13)8 × 8 =	(28)7 × 5 =	
(14)6 × 7 =	(29)6 × 4 =	
(15)7 × 5 =	(30)7 × 3 =	

かけ算九九(苦手特化)

月	日	名前
(1)7 × 6 =	(16)6 × 8 =	
(2)6 × 4 =	(17)8 × 6 =	
(3)6 × 7 =	(18)3 × 7 =	
(4)6 × 9 =	(19)7 × 5 =	
(5)8 × 8 =	(20)7 × 8 =	
(6)5 × 7 =	(21)6 × 4 =	
(7)8 × 6 =	(22)8 × 8 =	
(8)7 × 8 =	(23)5 × 7 =	
(9)7 × 3 =	(24)9 × 6 =	
(10)6 × 8 =	(25)8 × 7 =	
(11)4 × 6 =	(26)6 × 9 =	
(12)7 × 5 =	(27)4 × 6 =	
(13)6 × 7 =	(28)7 × 3 =	
(14)8 × 7 =	(29)8 × 7 =	
(15)9 × 6 =	(30)3 × 7 =	

かけ算九九(苦手特化)

月	日	名前
(1)8 × 6 =	(16)8 × 6 =	
(2)6 × 9 =	(17)7 × 6 =	
(3)7 × 8 =	(18)6 × 9 =	
(4)8 × 7 =	(19)8 × 7 =	
(5)6 × 4 =	(20)3 × 7 =	
(6)8 × 8 =	(21)7 × 6 =	
(7)7 × 3 =	(22)6 × 4 =	
(8)6 × 7 =	(23)4 × 6 =	
(9)9 × 6 =	(24)5 × 7 =	
(10)4 × 6 =	(25)7 × 3 =	
(11)6 × 8 =	(26)8 × 8 =	
(12)5 × 7 =	(27)9 × 6 =	
(13)7 × 6 =	(28)6 × 8 =	
(14)3 × 7 =	(29)7 × 8 =	
(15)6 × 7 =	(30)6 × 7 =	

かけ算九九(苦手特化)

月	日	名前
(1)7 × 5 =	(16)8 × 8 =	
(2)6 × 8 =	(17)7 × 8 =	
(3)8 × 7 =	(18)6 × 4 =	
(4)6 × 7 =	(19)8 × 7 =	
(5)9 × 6 =	(20)8 × 8 =	
(6)8 × 6 =	(21)4 × 6 =	
(7)5 × 7 =	(22)6 × 9 =	
(8)7 × 8 =	(23)7 × 5 =	
(9)6 × 4 =	(24)6 × 8 =	
(10)6 × 9 =	(25)3 × 7 =	
(11)3 × 7 =	(26)9 × 6 =	
(12)7 × 3 =	(27)7 × 3 =	
(13)4 × 6 =	(28)5 × 7 =	
(14)6 × 7 =	(29)6 × 7 =	
(15)7 × 6 =	(30)8 × 6 =	

資料15 計算ランキング

計算力トレーニング

モード	問題数指定
計算タイプ	たし算
記号の数	1つ
むずかしさ	やさしい
問題数	100

ランキング

	名前	学級	得点	経過時間	誤答数	年月日
1			1003.1	169.9	1	05.11.10
2			999.9	150.1	3	05.11.15
3			996.8	183.2	0	05.11.06
4			950.5	169.5	6	05.11.01
5			946.4	133.6	10	05.11.14
6			941.5	178.5	6	05.12.01
7			938.2	221.8	2	05.11.15

資料16 ご褒美シール 資料17 客観的受容度評価

◇◇さんがんばりシート

No.1

○ 1にち がんばれたら 1まい もらえるよ。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30

家庭訪問・電話連絡の際、相手の受容度を考えることで、良好な関係を築く入口となることがあります。

【受容を表す3要素】

A 尊重

低い1：他者の意見や感情を軽視し、不適切な態度をとる。
高い5：他者を尊重し、相手の権利や尊厳を尊重する。

B 理解

低い1：他者の立場や視点を理解せず、自分の意見に固執する。
高い5：他者の視点を理解し、対話を通じて共通の理解を築く。

C 寛容性

低い1：異なる意見やバックグラウンドに対して閉鎖的で、受け入れない。
高い5：多様な意見や文化を受け入れ、協力関係を築く柔軟性がある。

総合点

資料18 利用日記：Googleフォーム

SRすだち りよう にっき

B I U ☺ ☹

SRすだちをりようした人は、かならずかきましょう。

1 なまえをかきましょう*
記述式テキスト (短文回答)

2 いっしょうけんめい、とりくむことができましたか?*
はい ○ 1 2 3 4 ○ いいえ

3 じぶんがかんがえて、こうどうすることができましたか?*
はい ○ 1 2 3 4 ○ いいえ

4 いま、おちついてますか?*
はい ○ 1 2 3 4 ○ いいえ

5 かんそうをかきましょう。*
記述式テキスト (短文回答)

参考文献

- 文部科学大臣メッセージ ～誰一人取り残されない学びの保障に向けて～
令和 5年10月17日 文部科学省
- 令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果及びこれを踏まえた緊急対策等について（通知）
令和 5年10月17日 文部科学省
- 不登校・いじめ緊急対策パッケージ
令和 5年10月17日 文部科学省
- 令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について
令和 5年10月 4日 文部科学省
- 「不登校に関する実態調査」～平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～
平成26年 7月 9日 文部科学省
- 令和2年度不登校児童生徒の実態調査 結果の概要
令和 3年10月 6日 文部科学省
- 第7次福島県総合教育計画
令和 3年12月 福島県・福島県教育委員会
- 第7次福島県総合教育計画をテーマとした教育長と新任教員による対談（動画）
令和5年10月16日 福島県教育委員会・福島県教育センター
- ふくしまサポートガイド～ふくしまのすべての子どもたちのために～
令和 3年 1月 福島県教育委員会
- 不登校対応資料 Vol.5 豊かな学校生活のために ～チームで切れ目のない援助を～
平成29年 2月23日 福島県教育委員会
- ふくしま教育ニュース第60号
令和 5年 7月 福島県教育委員会
- 「多様性を力に変える教育の実現について」
令和 5年 2月24日 令和4年度第2回福島県総合教育会議配付資料
- スクールカウンセラーの効果的な活用に向けて【県中版】
令和 6年 1月 福島県教育庁県中教育事務所
- 「わたしの居場所ができた！」～郡山市立学校の実践事例にみる不登校対策～
令和 5年 3月 郡山市教育委員会 総合教育支援センター
- 「小学生用不登校傾向尺度の作成と信頼性・妥当性に関する検討」（五十嵐哲也）
平成22年 2月 愛知教育大学教育実践総合センター紀要第13号
- 接触困難な長期欠席児童生徒（および保護者）に学校教職員はどのようなアプローチが可能かー法的規定をめぐる整理ー（羽間京子、保坂亨、小木曾宏）
平成23年 3月 千葉大学教育学部研究紀要第59巻
- 子どもにとって魅力ある学校づくりへの挑戦 不登校に関わる問題を改善する教育活動
令和 6年 1月 東京書籍
- 「教師と支援者のための令和型不登校対応クイックマニュアル」（神村栄一）
令和 6年 2月 2日 ぎょうせい
- 「不登校の9割は親が解決できる」（小川涼太郎）
令和 6年 5月14日 PHP研究所
- 「うつ病の僕と精神科医の猫」（精神病院勤務者チーム）
平成29年 7月 4日 Kindle版

参考施設

- 令和5年度福島県子どもの居場所づくり支援事業「知恵空間」
- 放課後デイサービス あすえーる あさか校

審査の観点及び審査総評

【審査の観点】

- (1) 研究の意図が明確で、主題が適切なものであるか。
- (2) 研究の対象が明確であるか。
- (3) 研究の計画及び内容が適切であるか。
- (4) 論旨が一貫しており、説得力があるか。
- (5) 必要な資料が精選され、整えられているか。
- (6) 結論の導き方は適切であるか。
- (7) 今後の実践に生かす手だてを講じているか。

【総 評】

令和6年度の研究論文の出品総数は32点であり、令和5年度と比較し、4点増加した。幼保小中連携による共同研究や管理職である教頭や主幹教諭の出品、特別支援学校からの出品も多く見られた。また、幅広い19領域への出品が見られた。

研究主題は、目の前の児童生徒の実態を踏まえて設定されており、第7次福島県総合教育計画に基づき、「学びの変革」の推進に取り組んだ研究が多く見られた。

研究の成果を広く発信していくためには、分かりやすい論述が求められる。筋道を立てた記述、用語の定義、分かりやすい言葉で述べることなどに留意して、研究論文の作成に取り組んでいただきたい。

次年度、さらに多くの研究論文の出品を期待したい。

令和6年度 福島県教職員研究論文 応募状況

1 総応募論文数 32点

2 内 訳

(1) 教育事務所別（総論文数）

県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
6	11	3	5	1	4	2	32

(2) 学校種別（総論文数）

幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校 (小中合同含む)	高等学校	特別支援学校	計
0	20	4	3	1	4	32

(3) 各教科、領域等及び教育事務所別内訳（総論文数）

	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校 (小中合同含む)	高等学校	特別支援学校	自然の家	計	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
学校経営		2						2		1	1					2
学年経営								0								0
学級経営		1						1			1					1
学習指導 一般		2		2				4	1	2		1				4
国 語		1			1			2				2				2
社 会 地理歴史								0								0
算数・数学		2						2	1		1					2
理 科		1						1				1				1
生活・総合		1	2					3		2			1			3
音 楽								0								0
図画工作 美術		1						1							1	1
技術・家庭			1					1						1		1
体育 保健体育		1						1						1		1
外国語 英語		1						1		1						1
道 徳		2						2	1						1	2
特別活動		1						1	1							1
道徳・ 特別活動		1						1	1							1
教育課程								0								0
生徒指導		1						1		1						1
特別支援 教育		1				4		5	1	3		1				5
学校保健				1				1		1						1
食育・ 学校給食								0								0
へき地教育								0								0
放射線教育			1					1						1		1
図書館教育		1						1						1		1
幼稚園教育								0								0
学校事務								0								0
合 計	0	20	4	3	1	4	0	32	6	11	3	5	1	4	2	32

令和6年度 福島県教職員研究論文 応募者一覧

領域等	個人 団体	学校名	氏名・代表者名	研究主題名
学校経営	個人	田村市立常葉小学校	榊原 康夫	「教師のウェルビーイング」が「子どものウェルビーイング」に与える好影響 学校経営(二次)の取組の中間まとめ
	団体	西郷村立羽太小学校	大倉 幸子	学校の力で地域を元気に ～地域とつながる単元の実践を通して～
学級経営	個人	矢吹町立三神小学校	大河原 旭	自己実現を図り、前向きに学習や生活に取り組むことができる児童の育成 ～学習活動と生徒指導の工夫を通して～
学習指導	団体	伊達市立保原小学校	佐々木 透	共に学び 共に喜び高め合う 子供の育成(1年次) ～確かな学びの基盤をもとに、仲間と共に自分の考えを広げ、学びを深める授業づくり～
	団体	郡山市立西田学園	桑名 秀和	学び続ける子どもを育む西田の教育 ～「たて」「よこ」のつながりがつむぎだす学び～(2年次)
	団体	三春町立沢石小学校	安生 昌弘	協同的学びを中核とした真の授業改革の軌跡 ～“教える”から“学ぶ”への変革と進化形複式授業への挑戦～
	団体	三島町立三島小学校 三島町立三島中学校	長澤 敏行 酒井 康雄	主体的に学び続ける子どもの育成 ～3つの対話による対話的な学びの充実を通して～
学習指導 (国語)	個人	昭和村立昭和小学校	岩谷 友太	叙述を基に自分の考えを書き、伝え合い、学びの深まりを実感する子どもの育成 ～国語科文学的文章における、よりよい「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を目指して～
	個人	福島県立葵高等学校	村松こずえ	物事の本質を掴む「抽象的思考力」の育成 ～思考ツールによる可視化と、具体と抽象を往還することを通して～
学習指導 (算数)	個人	白河市立みさか小学校	川尻 みほ	算数科におけるICTの活用とその効果 ～デジタルツールの活用実践から児童の学ぶ力の育成を目指して～
	個人	本宮市立白岩小学校	吉田 千真	児童が統合的・発展的に考察する算数科の授業の追究 ～学級全員の考えを関連付ける発問構成から創った授業実践を通しての一考察～
学習指導 (理科)	個人	会津若松市立神指小学校	二瓶 拓海	学級・学習集団としての力を高める理科学習指導の在り方 ～「見たい」「知りたい」「やってみよう」を引き出す学習活動の設定を通して～
学習指導 (総合的な学習の時間)	個人	小野町立小野小学校	熊谷 泰輝	「もっと幸せに！」課題を追究できる子どもの育成 ～STEAM教育の視点を生かした授業展開とシンキングツールを活かした話し合いを通して～
	団体	天栄村立天栄中学校	市川 知広	探究的な学びを通して、夢の実現に向かう生徒の育成(2年次) ～『「天栄ならではの」教育』を目指して～
	団体	下郷町立下郷中学校	我妻雄比古	つながる学びを通して、主体的に学びに向かう生徒の育成 ～生徒と地域と教師がつながる探究的な学習の工夫～
学習指導 (図画工作)	個人	いわき市立勿来第二小学校	原田 莉帆	造形遊びの特性を生かした学習を通して育まれる力についての一考察 ～第2学年造形遊び「しんぶんしとなかよし」の実践から～
学習指導 (技術・家庭)	個人	新地町立尚英中学校	佐藤 伸	主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする生徒を育てる技術分野の指導を目指して ～技術の見方・考え方を働かせた授業づくりを通して～
学習指導 (体育)	個人	南相馬市立石神第二小学校	若松 優	児童のWell-beingの実現に向けた体育科授業の効果 ～ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～
学習指導 (外国語)	個人	郡山市立明健小学校	中野 幸恵	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた外国語科の授業改善 ～学習者における学びの改善の視点に焦点を当てたバックワード・デザインによる単元設計を通して～

領域等	個人 団体	学校名	氏名・代表者名	研究主題名
学習指導 (道徳)	団体	福島市立飯野小学校	佐藤 育男	地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成 ～家庭、地域と共につくる道徳教育を目指して～
	個人	いわき市立中央台東小学校	久保木壮平	「対話的な学び」のある道徳科の授業実践 ～「発問」と「問い返し」を授業づくりの主軸として～
学習指導 (特別活動)	個人	福島市立大森小学校	佐々木雄一郎	しなやかな自分軸をもって生きる子どもの育成 ～みんなの凸(とつ)探しを通して～
学習指導 (道徳、特別活動)	個人	本宮市立岩根小学校	菅野 健彦	誰かを思い、実現する子どもを育てる ～道徳科と特別活動を両輪とした指導をもとにして～
生徒指導	個人	郡山市立桜小学校	鈴木 雅博	すだちプロジェクト 「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化 ～教頭としてできること～
特別支援 教育	団体	伊達市立保原小学校	佐々木 透	友達と関わりながら主体的に活動する子どもの育成(1年次) ～自立活動の指導におけるアセスメントの充実～
	個人	福島県立猪苗代支援学校	佐藤 修一	知的障がい特別支援学校高等部における教科指導についての一考察 ～理科の見方・考え方を働かせる授業づくりを目指して～
	個人	福島県立たむら支援学校	目黒由美子	日常生活にいきる道徳教育の充実を目指して ～問題解決的な学習による「考えたくなる道徳」「表現したくなる道徳」に向けた授業づくり ～
	個人	福島県立石川支援学校	湯澤 直人	知的に障がいのある生徒の学びの質を高め資質・能力を引き出し豊かな社会生活を送る ためのICT活用の実践
	団体	福島県立郡山支援学校	牧野 圭子	「3つの資質・能力の育成」を目指す学習の基盤となる「言語能力」の育成 ～3か年の取り組み～
学校保健	個人	須賀川市立 義務教育学校稲田学園	稲垣 南	自分や相手、一人一人を大事にしようとする児童を育成するための性に関する指導の工夫 ～「生命(いのち)の安全教育」の考え方を基盤とした教職員・家庭との連携による集団指導と個別指導を通して～
放射線教育	個人	相馬市立向陽中学校	佐藤 拓也	福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育の実践記録 ～中村第一中学校第2学年 放射線教育の実践～
図書館教育	個人	富岡町立富岡小学校	小熊真奈美	子どもと教員のために 学校図書館は何かができるか ～司書教諭としての取り組み～

おわりに

『福島県教職員特選研究論文集』は、県内の教職員の優れた教育実践を広く普及するために発刊しており、今回が第31集の発刊となりました。

今年度は小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校から32点の応募があり、その内訳は団体が10点、個人が22点でした。改めて、御応募くださった皆様の教育に対する熱意と努力に心より敬意を表します。

教育現場での日々の実践の中で試行錯誤を重ね、その成果を論文という形で共有してくださったことは、本県の教育の発展にとって大変意義深いものです。一つ一つの論文には、目の前の子どもたちの学びや成長を支え、よりよい教育を実現しようという真摯な姿勢が表れており、このような貴重な実践の成果が共有できることは、本県の教育の質の向上につながるものと確信しています。

この特選論文集が多くの教職員や学校、教育関係機関等で活用され、本県の教職員の互いの学びを支えるとともに、現場での実践を深める一助となることを期待しております。

結びとなりますが、教職員の皆様お一人お一人が、次代を担う本県の子どもたちのより豊かな学びや成長を目指し、引き続き日々の教育実践に励まれることを心から願っております。次年度もより多くの先生方からの御応募をお待ちしております。

令和6年度 福島県教職員特選研究論文集

令和7年2月発行

編集・発行 福島県教育委員会
